

地域カルテ

～地区ごとにみる地域特性～
改訂版（令和6年度）



社会福祉法人 松山市社会福祉協議会
松山市地区社会福祉協議会連絡会

『地域カルテ』とは

日常生活での不安や悩み、生活課題が複雑化する中、私たちが安心して暮らせるまちづくりに取り組むためには、まずは自分たちが生活する地域を知ることが必要です。自分たちの地域が今どのような状況にあるのか、いわゆる地域の健康状態の記録（カルテ）を作成することで、その時々自分たちの地域の強みや弱みを把握するとともに、地域の魅力や課題を共有することにより、住民の地域福祉活動への参加意識の醸成と今後の活動の活性化につなげることが可能となります。今後は小地域ごとに様々な視点から、より詳細な地域分析を行い、それらをもとに地域の特性に応じたまちづくりに取り組んでいくものです。

第1	五明地区 (P3)
	伊台地区 (P5)
	湯山地区 (P7)

第2	久米地区 (P9)
	浮穴地区 (P11)
	小野地区 (P13)
	石井東地区 (P15)
	石井西地区 (P17)
久谷地区 (P19)	

第3 A	番町地区 (P21)
	八坂地区 (P23)
	東雲地区 (P25)
	素鷲地区 (P27)

第3 B	道後地区 (P29)
	湯築地区 (P31)
	桑原地区 (P33)

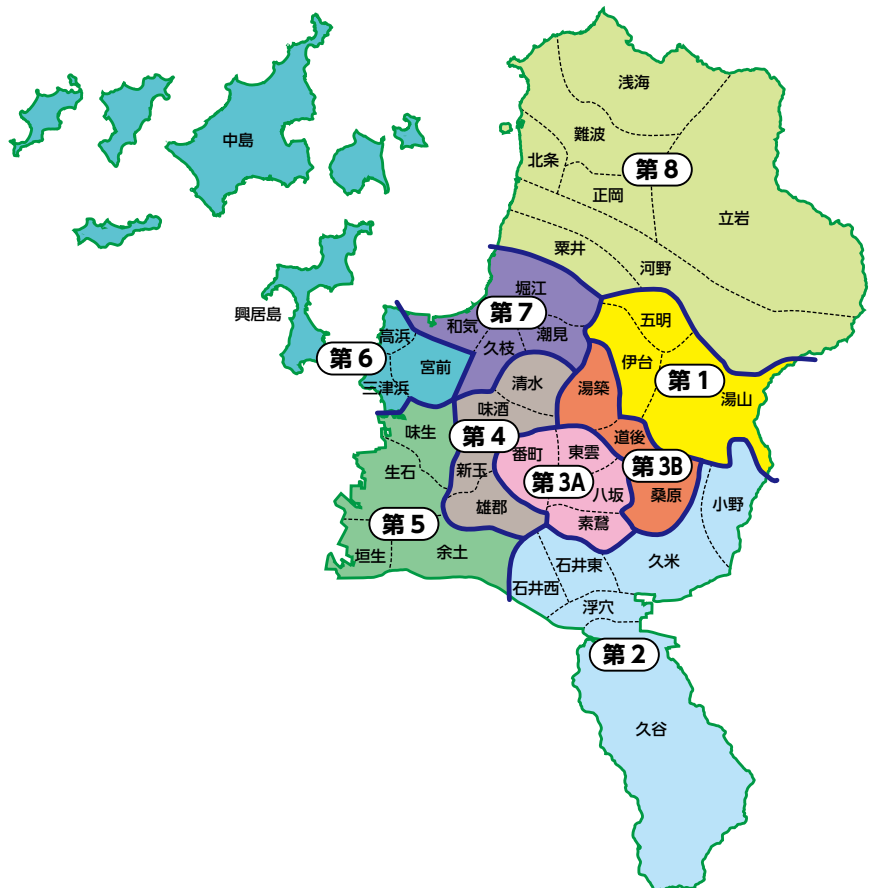
第4	雄郡地区 (P35)
	新玉地区 (P37)
	清水地区 (P39)
	味酒地区 (P41)

第5	余土地区 (P43)
	垣生地区 (P45)
	生石地区 (P47)
	味生地区 (P49)

第6	宮前地区 (P51)
	三津浜地区 (P53)
	高浜地区 (P55)
	興居島地区 (P57)
中島地区 (P59)	

第7	潮見地区 (P61)
	久枝地区 (P63)
	和気地区 (P65)
	堀江地区 (P67)

第8	浅海地区 (P69)
	立岩地区 (P71)
	難波地区 (P73)
	正岡地区 (P75)
	北条地区 (P77)
	河野地区 (P79)
	粟井地区 (P81)



<『地域カルテ』の見方>

掲載情報は随時、追加・更新し、各地区の地域福祉推進に活用していきます！

①地区の概要

五明地区 人口:426人(高齢化率48.8%) 世帯数:225世帯

【地区の特色】
五明地区は、市内中心より北東に位置し、標高300mの中山間地域で自然に恵まれた地域である。花崗岩土壌と豊潤な湿度帯がある立地条件を生かし、古くからふたつに別れている。また、五明太鼓などの「五明」源氏ボタルが自然発生する「五明川」が流れており、



五明小学校児童による五明太鼓と舞子

②地域住民からみた地域の状況

【地域住民からみた地域の状況】

- ・観光客が多く、この観光が過度である - 家庭内の事情がある程度わかっている
- ・老人でばらばらで若い物の受け合いもしている - 移動スピードが速る
- ・車での通勤 - 通学時間は遅くも早く20-30分で市内中心部へ行ける
- ・自然が豊かで季節を感じることが出来る - 食べ物のたけのこ、ふたごうがおいしい
- ・自主防災と連携し災害時の避難の仕組みを作っている - 乗合タクシーが利用できる
- ・まち協ができ、地域団体との連携が取れている
- ・田舎風気取りなど地域の子どもの通との交流

③地区社協の概要と取り組み

五明地区社会福祉協議会 人が好き 自然が好き 五明が大好き

構成団体	地区民協 区長会 まちづくり協議会 公民館
主な取り組み	活動内容
福祉計画	75歳以上の高齢者を対象に、安全確保を目的とした見守りも実施。4月にたけのこごはんを手作り配布しています。
まち協の活動	小学生が気持ちよく2学期を迎えることができるよう、通学路および小学校周辺を地域の方で清掃しています。
シクラメン節	シクラメンのついでに75歳以上の住民高齢者、90歳以上の高齢者を対象に、シクラメンのついでにプレゼントしています。

福祉学習事業の一環として、児童の教育と地域の福祉関係者から高齢者までの各種作業を通して児童の教育と地域の福祉関係者から高齢者までの交流を促進しています。

<地区社協が目指すもの>
五明地区社協は、公民館をはじめとする地区内の団体と連携し、自主防災訓練、敬老会、さくらまつり、たけのこまつり、産婦人科、地区運動会、しめ縄づくり、もちつき、ふるまひまつりなどの地域行事と連携した社会活動の実施を基本方針としています。
今後の目標としては、五明地区まちづくり協議会との連携をさらに深め、日常生活の困りごとを地域住民同士で支えあっているよう地域福祉活動の強化を目指していくものとします。

④地区内関係団体データ

地区民協	100018
まち協の設立	1977
町内会等	00018
高齢クラブ	50000
子ども会	50000
自主防災組織	50000

⑤地域福祉推進のポイント

人間関係の希薄化が懸念される現在において、五明地区では若い世代の働き手や子育て世代の定住が期待されています。このような状況があるからこそ、地域を守る自主防災訓練のほか、お祭りや運動会などの世代を超えた地域行事が継続されているといえます。

大人たちに支えられていると実感できる取り組みがたいへん重要です。人と人とのつながりや助け合いを生かして、様々な世代が地域での活動を支えあえる環境づくりが期待されています。

①地区の概要

- ・人口、世帯数、高齢化率は松山市地区別推計人口、また、年齢階層別人口は松山市地区別年齢別住民基本台帳登録の令和5年4月1日現在のデータを記載しています。
- ・地区の特色は松山市公民館連絡協議会ホームページを参考にしています。

②地域住民からみた地域の状況

- ・研修会のワークショップや会議の意見として、地区社協関係者や民生委員・児童委員をはじめとする地域住民の方々から出された内容をまとめて記載しています。

③地区社協の概要と取り組み

- ・令和5年度現在の各地区社協の活動状況及び地区社協が目指すものを記載しています。

④地区内関係団体データ

■地区民協	令和5年4月1日現在の定数
■まち協の設立	令和5年9月1日現在の設置状況
■町内会等	令和5年度町内会等状況調査(基準日:令和5年6月1日)
■高齢クラブ	松山市高齢クラブ連合会登録数(令和5年7月1日現在)
■子ども会	令和5年度松山市子ども会連合会加入数(令和5年5月1日現在)
■自主防災組織	自主防災組織 地区別結成状況(令和5年4月1日現在)

⑤地域福祉推進のポイント

- ・聖カタリナ大学 教授 村岡則子氏をはじめとする学識経験者のみなさまから地域福祉推進に向けたコメントをいただいております。

《ご協力いただいた聖カタリナ大学の先生方》教授 釜野鉄平氏、助教 雑賀正彦氏、助教 鬼頭裕美氏

2

第1

第2

第3A

第3B

第4

第5

第6

第7

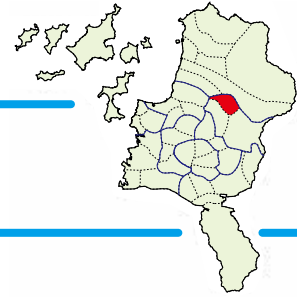
第8

ごみょう

五明地区

人口: 426人(高齢化率48.8%)

世帯数: 225世帯

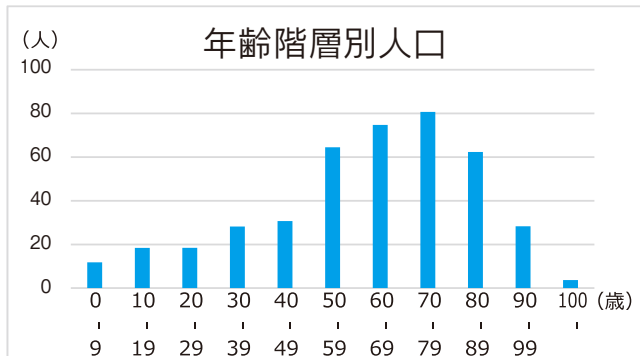


【地区の特色】

五明地区は、市内中心より北東に位置し、標高300mの中山間地域で自然に恵まれた地域である。花崗岩^{かこうがん}土壌と昼夜の温度差がある立地条件を生かし、古くからぶどう栽培に取り組んでいる。また、五明太鼓などの芸能文化の振興を盛んに行っている。地区内には源氏ボタルが自然発生する「五明川」が流れており、地域が一体となって「ふるさとの自然と文化の継承」に努めている。



五明小学校児童による五明太鼓と獅子舞



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りが多く、どこの誰だか把握できる ・家庭内の事情がある程度わかっている ・個人でゴミ捨てや買い物の助け合いをしている ・移動スーパーが来る ・車での通勤 ・通学時間は混雑も無く20~30分で市内中心部へ行ける ・自然が豊かで季節を肌で感じることができる ・食べ物(たけのこ、ぶどう)がおいしい ・自主防災と連携し災害時の避難の仕組みを作っている ・乗合タクシーが利用できる ・まち協ができ、地域団体との連携が取れている ・田植え稲刈りなど地域の子ども達との交流
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢家庭や独居家庭が増えた ・子どもが少ない ・若い人が街へ出てしまう ・交通の便が悪く、通院、買い物が不便 ・利用者数減によるバスの廃線 ・イノシシ、シカ、サルによる作物被害
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化と少子化(児童減少で小学校の存続が心配) ・交通の便が悪い ・免許証を返納すると外出が困難 ・金融機関が遠い ・店が少ない ・車の往来しにくい狭い道や、豪雨のたびに崩落が起きる悪路がある ・空き家、空き地も多く掃除が行き届いてない、活用できていない、危険 ・災害時の危険箇所が多い ・高齢者の地域の役が多く、交代が困難になってきている ・在宅で生活し続けることが難しい ・様々な役の後継者不足 ・集落によって課題の深刻度合いが異なる

五明地区社会福祉協議会

人が好き 自然が好き 五明が大好き

構成団体	地区民協・区長会・まちづくり協議会・公民館		
主な取り組み	活動内容		
福祉弁当	75歳以上の高齢者を対象に、安否確認を込めた見守りも含め、4月にたけのこごはんを作り配布しています。		
夏休み大清掃	小学生が気持ちよく二学期を迎えることができるよう、通学路および小学校周辺を地域の方で清掃しています。		
シクラメン配布	毎年12月に五明苑の入所者と在宅の75歳以上の独居高齢者、90歳以上の高齢者世帯を訪問し、シクラメンをプレゼントしています。		

お米作り体験学習

福祉学習事業の一環として、公民館、PTA、まちづくり協議会、民生委員・児童委員と連携し、田植えから稲刈り、もちつき、しめ縄作りまでの各種農作業を通して児童の教育と地域の幼稚園児から高齢者までの交流を支援しています。



<地区社協が目指すもの>

五明地区社協は、公民館をはじめとする地区内の団体と連携し、自主防災訓練、敬老会、さくらまつり、ほたるまつり、盆踊り大会、地区運動会、しめ縄づくり、もちつき、ふる里まつりなどの地域行事と並行した社協活動の実施を基本方針としています。

今後の目標としては、五明地区まちづくり協議会との連携をさらに深め、日常生活の困りごとを地域住民同士で支えあっていけるよう地域福祉活動の強化を目指していくものとします。

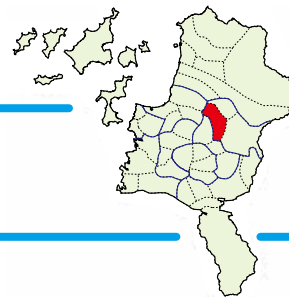
地区の状況	■地区民協	6名 2名	■町内会・自治会・区長会等	10団体
	民生委員		■高齢クラブ	0クラブ
	主任児童委員		■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成23年度	■自主防災組織	5組織

人間関係の希薄化が問題視される現在において、五明地区では互いの顔を知り助け合える関係が維持されています。このような関係性があるからこそ、地域を守る自主防災訓練のほか、お祭りや運動会などの恒例化された地域行事が継続されているといえるでしょう。中心部への若い世代の流出は多くの地区が抱える課題ですが、地域の子どもや小学生と田植えなどで交流を図っているほか、地域住民による小学校周辺の清掃活動などが精力的に行われています。これらの活動は子どもたちが地域の一員であり、地域の大人たちに支えられていると実感できる取り組みだといえるでしょう。人と人とのつながりという強みを生かして、様々な世代が地域での活動を支え楽しめる環境づくりが期待されています。



伊台地区

人口: 6,166人 (高齢化率31.8%)
世帯数: 2,693世帯

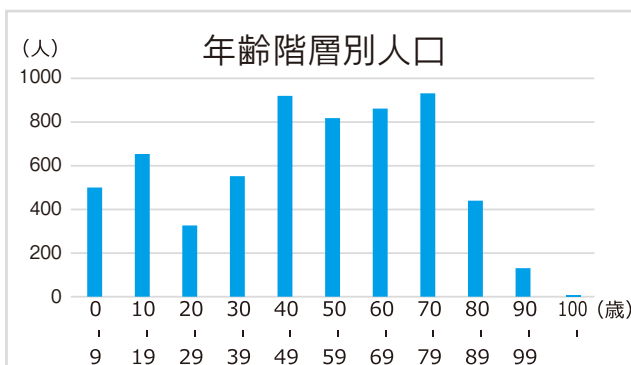


【地区の特色】

伊台地区は、松山市の北東に位置する標高約150mの盆地である。今でもたくさんの自然が残っており、野菜や果樹等の生産が盛んである。また「薄墨桜(うすすみざくら)」のある西法寺、本村天神社等数多くの史跡がある。市内からも近い為、松山市のベッドタウン的性格を持っており、地区外からの転入も多い。



薄墨桜



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・古い歴史を持った地域と新興地域とが融合した活動ができている ・Uターン家族が多い ・環境に恵まれており、住みやすいと感じている ・自主防災組織があり、防災への意識が強い ・ゴミ出しに困っている人を地域の人が助けるなど、地域の間関係がよい ・アップダウンが多くウォーキングに適した地形 ・犯罪が少ない ・新しく道ができて便利になった ・自治会ごとに子ども会が活発に活動している
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の運行が少ない ・店舗、医療機関が少ない ・土砂災害の危険箇所が多い ・鳥獣害問題(イノシシ、サルが増えている) ・上下水道が自己管理 ・小野、北条方面へのアクセスが便利になった反面、交通量が増加し、朝の通勤時に混みあう
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の割合が高い地域である ・独居高齢者の孤立 ・公共交通機関が少ない(本数、運行時間) ・店舗が少なく、買い物に不便を感じている ・各種団体役員の後継者不足

伊台地区社会福祉協議会

構成団体	地区民協・公民館・分館・小学校・中学校・社会福祉法人・地域代表者会 消防団・中央農協・自治会・駐在所・高齢クラブ・PTA・まちづくり協議会	
主な取り組み	活動内容	
サロン活動の支援	いきいきサロン5ヶ所と地域交流サロン1ヶ所の活動が充実し、サロン同士の繋がりが深まるように支援を継続して行っています。	
ふれあい交流会	毎年、小学校と高齢者がスポーツやそうめん流し、ピザ作りの交流会を通じて親睦を深めています。	
各種団体との連携	避難所開設時の支援や地域行事への参加協力など、地区内の各種団体と連携し活動の強化を図っています。	

買い物弱者等支援事業（毎月1回日曜日）

交通の不便解消の為、福祉工房いだい清風園（障がい者支援施設）と協働で毎月第2もしくは第3日曜日に高齢者・障がい者等を対象に、買い物支援を行っています。清風園のバスを活用し、市内のスーパーで買い物をしたり昼食をとるなど、参加者同士の交流にも繋がっています。



<地区社協が目指すもの>

「楽しく、笑顔のある町、安らぎと思いやりのある町」を目指して、まちづくり協議会、公民館などその他関係機関と協力しながら、薄墨桜祭り、校区大運動会、盆踊り大会、秋祭りなどを通じて、地区住民との交流を深めています。

さらに、サロン活動を通じて高齢者の介護予防に努めたり、地区の高齢者・障がい者の支援を目的に、買い物弱者等支援事業を福祉施設と協働で実施するなど、各種福祉サービスを通じて地域の福祉促進に努め、住み良いまちづくりを目指しています。

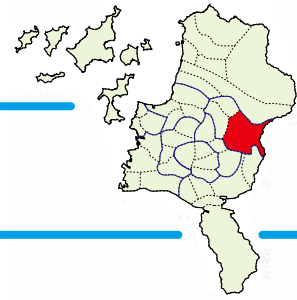
地区の状況	■地区民協	11名	■町内会・自治会・区長会等	13団体
	民生委員		■高齢クラブ	2クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成29年度	■自主防災組織	12組織

地区外からの転入の多い地域ではしばしば住民同士の軋轢が問題化することがありますが、それらを乗り越えて社会資源を共有する環境が作られています。このような関係性が作られているからこそ、自主防災組織が機能し、ゴミ出しなどでの助け合いが自然と取り組まれる土壌が定着したといえるでしょう。サロン活動や地域内の各種団体、地区内の福祉事業所との連携も活発に行われており、ふれあい交流会では多世代の交流がにぎやかに取り組まれています。地域内の様々な人や組織・団体がつながり助け合う姿を子どもたちが目にすることは、地域への愛着心を育てる貴重な機会となっており、将来の地域の担い手となることが期待されています。



ゆ や ま
湯山地区

人 口:8,471人(高齢化率34.5%)
世帯数:4,072世帯

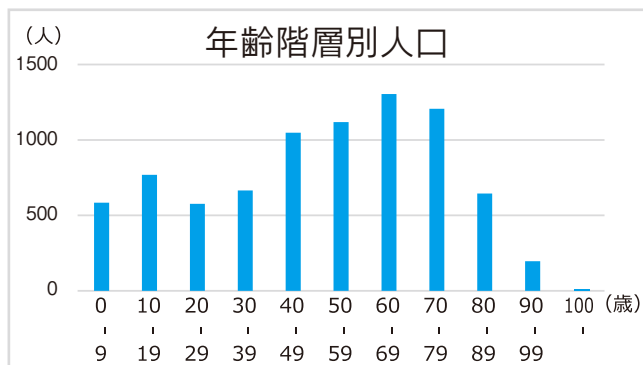


【地区の特色】

湯山地区は、松山市街東部・石手川の流域に位置し、以前はのどかな農山村であったが急速な宅地造成が進んでいる。また、石手川ダム上流の国道317号線沿いに位置する日浦地区は、近年は過疎化、高齢化が進んでいるが、石積みの棚田や彼岸花の自生する自然景観の美しい地域であり、地域全体が一丸となって、ほたるの里づくりなど水源保全地区ならではの活動を続けている。



夏まつり



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事等の参加者が多い ・地域がまとまりやすい ・顔を見るだけで誰かわかる関係ができています ・自然がいっぱい ・たけのこがおいしい ・市内中心部まで近い ・生活がしやすい ・家賃が安い ・出合い(伝統的な近隣の助け合いのしくみ)がある ・農地が宅地になり地区によっては若い世代が増えている ・ダム周りの整備がされている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・老老介護人口が増えている ・子どもが減っている ・個人情報の問題があり、家庭に入りにくい ・交通が不便である ・バスの便が少ない ・バス停までが遠い ・空き家、空き地が増えている ・坂道が多く、高齢者にはしんどい ・人を集めるのが大変 ・獣被害 ・出合いの活動が年約10回と少なくなった ・地区(湯山と日浦)によって差がある ・竹林放置 ・田んぼダムが無くなっている
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者が増え、高齢化率が進んでいる ・70歳以下の人が少ない(日浦地区) ・公共交通機関が少ない(バスの便が少ない) ・運転免許がないと生活できない ・地域によっては、生活関連施設や医療、福祉関連施設がない ・防災に関する不安(避難所に行くまでの不安、避難所の耐震性が不安) ・児童館や高齢者の集いの場がない ・地域を守ろうとする意識が低い

湯山地区社会福祉協議会

構成団体	地区民協・公民館・支所・地区連絡協議会・日浦区長連合会・まちづくり協議会
主な取り組み	活動内容
高齢者見守り活動	独居高齢者に手作り弁当の配布や寝たきり及び認知症の方のお宅を訪問しお見舞金を渡すなど、地区民協と協力し見守り活動を行っています。
世代間交流	小百合保育園の園児と地域の高齢者が、歌や工作を一緒に楽しむなどし、交流を深めています。
健康講座	健康維持に関する話を聞くとともに、活動を通して地域の絆が深まり、住みやすい地域づくりの推進になるよう開催しています。

夏休み将棋教室(8月)

地域の将棋名人が湯山児童クラブの子どもたちに毎年夏休みを利用して将棋を教えています。ここで将棋を学ぶ子や年々腕を上げる子も多く、対局を楽しみにしています。将棋教室を通じて世代間の交流が深まっています。



<地区社協が目指すもの>

湯山地区は、松山市の水瓶となる石手川ダムがある地区で、石手川の流域に集落が点在するのどかな農山村地域です。道後に隣接する地域では宅地造成等が進み、人口増加の傾向にあります。石手川ダム上流の日浦地区では特に少子高齢化や過疎化が進んでいます。

湯山地区では、地域住民の交流が図れるふれあい・いきいきサロン等を通じて、誰もが安全で安心して暮らせる地域・環境づくりを目指しています。また、災害時の救援活動として行政や諸関係機関・団体等と連携し、要支援者等の把握にも努めています。

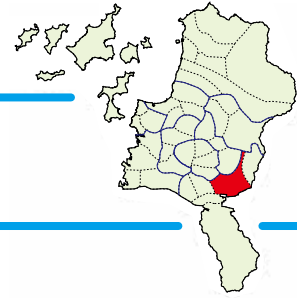
地区の状況	■地区民協	15名	■町内会・自治会・区長会等	43団体
	民生委員		■高齢クラブ	3クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	6団体
	■まち協の設立	平成28年度	■自主防災組織	40組織

他の地区と比べ、自主防災組織の組織数が多く地域内で「互いの顔がわかる関係」が構築され地区住民の凝集性が高い地区です。少子高齢化が課題となりつつも、高齢者見守り活動や保育園での世代間交流、大人と子どもの交流の場となる夏休み将棋教室など多様な世代が関わる活動が盛んに取り組まれています。結果、人間関係が豊かであるという地区の強みに繋がっているといえるでしょう。宅地が増えて若い世代が入ってくるなどの変化はありますが、地区の強みを生かして新しい住民と既存の強みをつなげ、さらに発展することを期待します。



くめ 久米地区

人口: 30,269人(高齢化率25.5%)
世帯数: 14,465世帯

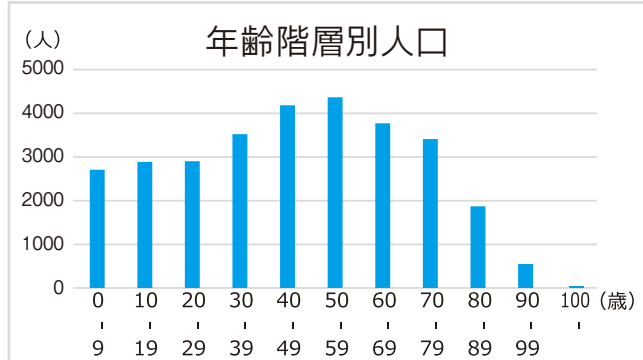


【地区の特色】

久米地区は、松山市の東部方面に位置し、国道11号の整備により交通の便がよくなったことから、人口が急増しており、松山市のベッドタウンとしての性格が一層濃くなってきている。また、地下にボーリングを打ちこみ温泉の開発に成功して東道後温泉郷としても知られている。



日尾八幡神社



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ◎公民館を中心として住民相互の繋がりを密に保った行事や諸活動が活発である <ul style="list-style-type: none"> ・公民館、自主防災、高齢クラブ、サロン活動が活発である ◎交通の利便性が良く、公共施設や生活関連施設等も充実している <ul style="list-style-type: none"> ・伊予鉄電車・バスが通っていて、相乗りタクシー(チョイソコおのくめ)がある ・小中学校、高等学校、高齢者施設、スーパー、コンビニ、病院等が多い ◎地域の自然や文化を活かした施設が整備され、それを活かした活動が盛んである <ul style="list-style-type: none"> ・里山公園があり、世代を超えて活動している ・4小学校、久米中学校、松山学院の児童生徒が地域の活動に関わり交流がある
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ◎少子高齢化、個人主義社会が進行してきている <ul style="list-style-type: none"> ・町内会への加入が減少している ・地域活動に参加する人が限られている ◎子どもや高齢者の活動が制限されている状況がみられる <ul style="list-style-type: none"> ・ボール遊びが制限されている公園が多い ・地域によっては交通手段がなく駅までが遠い ◎危険箇所や社会資源等を周知しきれていない状況がある <ul style="list-style-type: none"> ・社会資源について知ってもらう機会がない ・山間部の一部に土砂災害危険箇所がある
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ◎実態に基づく効果的な支援の充実と展開が不十分である <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の実態把握と効果的な支援が難しい ・認知症者のみまもりが難しい ◎個人情報の入手と保護及び関係団体との情報共有が不十分である <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の入手方法の整備と管理の徹底 ・マンション等住民の安否確認が難しい ・災害時に関係団体との情報交換や役割分担が難しい ◎住居地により社会的弱者の生活が困難な状況がある <ul style="list-style-type: none"> ・通院や買い物等の日常生活が不便である ・改善するための手立てが不十分である

久米地区社会福祉協議会

〈拠点〉 松山市鷹子町740 松山市鷹子老人福祉センター内 2F TEL:089-975-2882

構成団体	地区民協・公民館・ふれあいタウンづくり協議会・町内会・町内会長会・町内連合会 自治会・母子福祉会・婦人団体連絡協議会・PTA・小学校・中学校・高等学校 松山南交通安全協会・自主防災組織連合会・消防分団・高齢クラブ連合会
-------------	---

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回作成し、地域福祉に関する情報を発信するため町内会と連携し、広報連絡員を通じて全戸配布しています。
福祉交流会	登録している独居高齢者を対象に、毎年5月に「独居ふれあいお食事会」を開催しています。
災害時等MAP作製	要支援者名簿を基に災害時等に活用できるよう、個人情報適切な取り扱いの上、住宅地図への転記作業を行っています。

独居高齢者みまもり支援

民生委員・児童委員が登録している独居高齢者に対する毎月の見守りの他、在宅福祉の向上と生きがいづくりに向けて、夏季と冬季に1回ずつ久米地区民協と連携し、お見舞い品をお届けしています。直接顔を見てお話しする事でコミュニケーションが取れ、暑さ寒さの時期の安否確認になります。“ありがとう”と言われるとお互いに嬉しい気持ちになり、活動を継続する励みになっています。



〈地区社協が目指すもの〉

久米地区社協は松山市鷹子老人福祉センター内に事務所を置き、久米地区全体の福祉に関する相談窓口になっています。2017年度には町ごとに福祉施設の一覧表を掲載した福祉マップを作成し、2022年度には内容を更新しました。2018年度から災害時に一人では避難の困難な高齢者や障がい者の方々がスムーズに避難できるように、要支援者への連絡方法や避難場所及び避難手段についての現行化作業を継続しています。また、子どもたちの登下校時の見守りも積極的に行い、小中学校との情報共有に努め、老若男女誰もが安心・安全に暮らしていける地域づくりの実現を目指しています。

地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	12団体
	民生委員	41名	■高齢クラブ	10クラブ
	主任児童委員	3名	■子ども会	12団体
	■まち協の設立	平成26年度	■自主防災組織	12組織

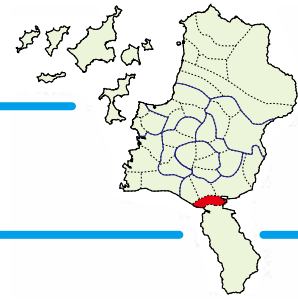
市のベッドタウンとしての側面を持った地区です。子どもたちの登下校見守りや独居高齢者見守り支援などは全世代が住みやすい街づくりを目指した活動といえます。

また、過去に小野川の氾濫や地震などを経験していることから、防災に対する意識が高く、災害要支援者名簿作成や防災マップ作りなど防災への取り組みを「見える化」しています。さらに福祉交流会や暑中寒中見舞いなど地域内の人間関係を維持する重要な活動は、今後の防災や減災に役立つことでしょう。



うけな
浮穴地区

人口:9,230人(高齢化率30.3%)
世帯数:4,342世帯

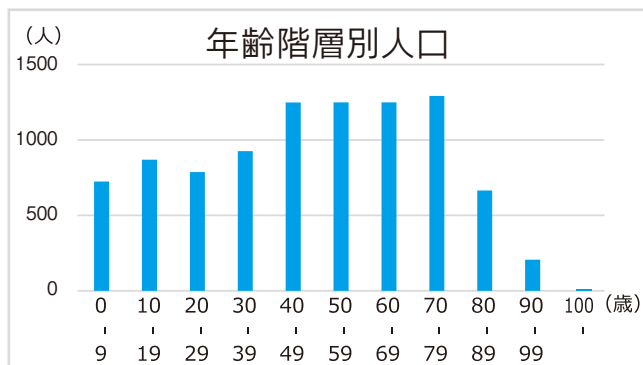


【地区の特色】

浮穴地区は、松山市の南部にあり東西約6.7km、南北は広いところで1.3kmと細長く、重信川と内川にはさまれた地形である。地区には伏流水と呼ばれる地下水の流水があり、全国名水百選に選ばれた杖ノ淵泉は親水公園として整備され、年間を通して大勢の人々が訪れている。近年は松山市で唯一、高速道路が開通し、急速に都市化が進んでいる。



松山インターチェンジの立体交差



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に子どもが積極的に参加していて近所の繋がりがあがる ・春祭りは、(井門・森松・南高井)各地区で行っている ・重信川の河川敷でスポーツや花壇、ウォーキング、サイクリングなどが楽しめる ・水が豊富で松山市の上水道の水源がある ・交通の要衝で高速道路[松山インターチェンジ]がある ・陸運局や軽自動車車検場、国土交通省重信川出張所、松山南郵便局などがある
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進んでいる ・若年層の流出 ・地区によっては公共交通機関が少ないので移動手段が少ない ・行事は多いが参加者が少ない(若い世代、男性) ・子どもの減少により、行事が出来なくなっている ・地域によっては高齢者が歩いて行ける距離にスーパーがない ・ていれぎ(川の植物が無くなった) ・水害の可能性(内水氾濫を含む)があるが、水害時に避難できる高台が無い
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化(地区の世話人等の高齢化、後継者問題) ・公共施設の老朽化、高齢者が公民館の2階に上がれない(エレベーター希望) ・老老介護、老人性うつ病の増加、高齢者の独居世帯の増加⇒孤独死 ・公共交通機関が少ない、ループバスを充実させて欲しい ・核家族化している。子供が外で遊ばなくなっている ・空き家問題⇒治安が悪くなる ・洪水時の要支援者等への対策は急務である ・新型コロナウイルス対策以降、高齢者のサロンや集会の参加者が少なくなった

浮穴地区社会福祉協議会

構成団体	南高井町・森松町・森松団地・森松町町内会・井門町・公民館・共同募金会 地区民協・自治会・交通安全協会・自主防災組織連合会	
	主な取り組み	活動内容
	福祉だよりの発行	年1回2月発行・大口共同募金者の掲載
	サロン交流会の開催	毎年3月公民館の文化祭で作品の展示・演芸の発表・お茶の接待
	福祉学習会の開催	年1回 一般地区住民対象

地域のために熱く議論

地区社協役員が疑問に思うことや地域の話題から「地域で出来ることとその対策」について意見を出し合い、地区の情報を共有します。



<地区社協が目指すもの>

地区の安心・安全な環境づくりに努めましょう。

善意の声をかけ易く、声をかけられ易い環境をつくりましょう。

地区の行事には参加し、交流を深めましょう。

生活の自立への支援に協力しましょう。

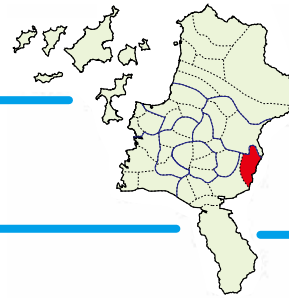
地区の状況	■地区民協	13名	■町内会・自治会・区長会等	5団体
	民生委員 主任児童委員		2名	■高齢クラブ
	■まち協の設立	—	■子ども会	3団体
			■自主防災組織	5組織

自主的に河川敷を活用した花壇の整備や清掃活動を行うなど、住民が主体となった地域活動ができる地区です。また、地区社協役員が定期的に地域情報の共有や課題検討を行う場があることも地区の強みの一つといえます。さらに地域行事が多く、子どもの積極的な参加がある一方で、参加者の数が減少しつつある課題を抱えていますが、子どもらの意見や要望に耳を傾けるなど地域や当事者の実情にあった取り組みが期待できる地域だといえるでしょう。



おの 小野地区

人口: 17,266人(高齢化率31.8%)
世帯数: 8,029世帯



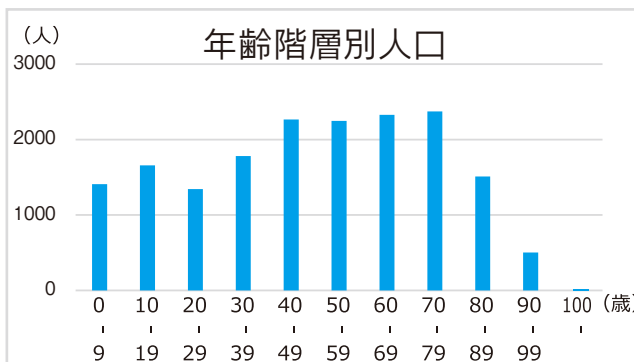
【地区の特色】

松山市の最東部に位置し、小野町、北梅本町、南梅本町、平井町、水泥町の5町から構成され、伊予鉄道横河原線沿線という好条件と病院や商業施設が備わった地域でありながら都会らしくもなく、そして程よい田園風景の残る地域で、近年急激に人口が増加している。

1公民館、1小学校、1中学校の地域性から住民同士の連帯感が強く、義理と人情がまだまだ残っている地域である。



小野地区の全景



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいサロン小野(月～金の毎日型) ・公民館や小野支所などが社協に協力的 ・サロンに各団体が集まり人材確保が容易、男性協力会員のサロン当番開始 ・自然が豊か ・包括支援センターによる出張相談 ・小学校からそのままのメンバー(生徒)で中学校に上がる ・地域全体で子どもの見守り、健全育成 ・子どもの挨拶が立派 ・犯罪が少ない ・災害が少ない ・地域の団結力 ・スポーツに熱心 ・地域役員の連携が密 ・相乗りタクシー(チョイソコおのくめ)48名利用
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動で若い人が少ない(協力会員も高齢化している) ・小野サロンの立地が地区の中心ではない ・小野サロンの施設の劣化 ・道路、通学路が狭い ・高齢化率約32% ・高齢者の交通不便 ・企業が少ない ・飲食店が少ない ・農業に従事する人の減少 ・災害の不安(山地部) ・スポーツ施設が少ない ・猪、サルなどの害獣被害の拡大 ・行事のお世話人さんなど後継者不足
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が年々高くなっている ・独居高齢者(特に男性高齢者)増加傾向 ・若い人、男性の福祉に対する関心が薄い ・認知症の人が増えている ・自力で移動できない人の増加 ・若い女性が勤めに出ているため活動に参加できない ・入院できる病院が少ない ・健康のため高齢者によるボランティア活動への参加促進 ・避難情報が出ても行動しない人が多い

小野地区社会福祉協議会

心響きあう♥与力の里

<拠点> 松山市水泥町972-1

TEL / FAX: 089-976-1200

構成団体	地区民協・公民館・分館・PTA・中学校・小学校・学識経験者 平井商店会・社会福祉法人
主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年に2回12,000部を作成・全戸配布し、地域活動のPRや福祉に関する情報を発信しています。
福祉のつどい	毎年4月に福祉施設と合同でミニ運動会を開催します。会場の小学校の体育館には約300人の地域住民(サロン参加者・幼稚園児)が集います。
福祉講座の開催	年1回、高齢者の身体や認知症など、生活に関する身近なテーマでの開催を目標として実施しています。

ふれあいサロン小野(月～金の週5回)

平井商店街の一角に地区社協の拠点でもある毎日型のふれあいサロン小野があります。常時、協力会員がおり、プロから講習を受けたコーヒーの提供や今後に向け、手作りカレーの再開などもあり、地域住民が気軽に集える場となっています。介護予防体操や手芸、囲碁や将棋も楽しめます。



<地区社協が目指すもの>

小野地区では地域の住民が気軽に集える憩いの場を作ることがを目的とし、平成16年に平井商店街の空き店舗を活用して地区社協の事務所とサロンを開設、平日(月～金)週5日運営を行っています。また、地域サロンの拠点として役割も担っています。

当初より「心響きあう♥与力の里」を基本理念に、地域の各種団体や施設等と連携しながら地域住民が安心して住みよい、住んで良かったと感じる地域を目指し、今後の高齢化社会に向け若い世代への活動拡大を目指します。

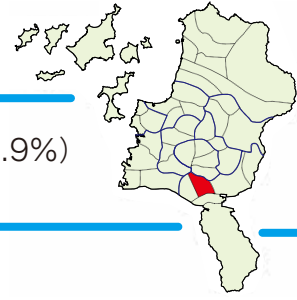
地区の状況	■地区民協	24名 2名	■町内会・自治会・区長会等	23団体
	民生委員		■高齢クラブ	3クラブ
	主任児童委員		■子ども会	15団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	17組織

地区には毎日型のふれあいサロンがあり、毎日の食事提供や参加者の趣味活動など多様な内容となっています。毎月行われる管理運営委員会が主に地区社協内の各部会の報告や情報共有、意見交換を行いながら常に活動内容のブラッシュアップを図っています。また他機関の役員を兼ねる参加者も多いことから、この会が他団体との連携を容易にしているというメリットもあります。こうした取り組みが他の団体や人々とつながり、さらに発展する地域福祉活動ができる地域だといえるでしょう。



いし い ひがし 石井東地区

人口: 29,851人 (高齢化率25.9%)
世帯数: 14,105世帯

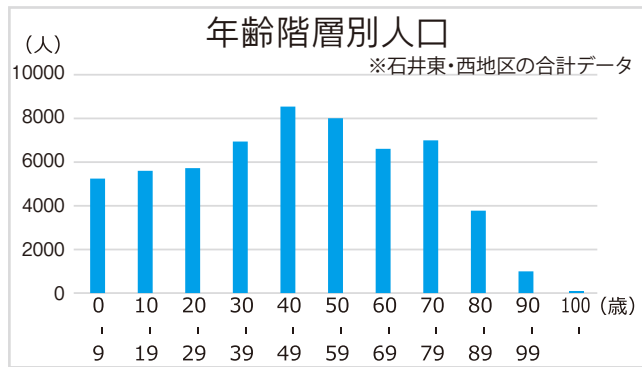


【地区の特色】

石井東地区は、市街地に近く天山・東山などの緑や温泉などの自然環境にも恵まれ、星岡古戦場・縦湊城跡など多くの史跡、文化財が残っており、肥沃広大な耕地をもとに穀倉地帯として発展してきた。また、毎年旧暦の正月七・八・九日の三日間に渡って行われる椿祭りでは、伊予豆比古命神社に多数の参拝客らが訪れる。近年では急速に市街化が進み、人口約3万人を数え、市内で最も発展を遂げている。



毎年賑わう椿まつり



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が多い(約3万人)・地域福祉サービス事業の活動が充実している ・協会会員約460名、民生委員・児童委員の連携が取れ活動が活発 ・地区内各団体との連携が取れている ・社会資源として、すべての面で恵まれている(介護事業所、南警察署、南消防署等) ・住民の活動が活発である・高齢クラブがほぼすべての町にある ・生活関連産業もたくさんある・交通の便がよい・松山インターチェンジがある ・稼働年齢層が多い・サロン17ヶ所、子育て支援センター2ヶ所で活動が盛ん ・各集会所にインターネット環境が整備されている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に避難する場所が少ない(約3万人が小学校2校、中学校1校のみ) ・川幅が狭いため、大雨時、氾濫の恐れがある ・人口に対して公園、スポーツ施設が少ない・人口に対して支所、公民館が狭い ・支所、公民館への交通手段が不便 ・将来的にヘルパーさんが関わる時間が短いと困る高齢者が増えるのではないかと懸念 ・交通渋滞が起きやすい・道が細く溝が多い箇所がある ・集会所の老朽化問題
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口約3万人に対して、高齢者が多い ・労働人口が多いので、支える側の絶対数が少ない ・人口に対して公民館、支所、その駐車場が少ない ・人口に対して避難場所が少ない ・交通の不便(一部の地域においては相乗りサービス「チョイソコいいい」の運行を実施) ・川幅が狭い為大雨時、氾濫の恐れがある・高速道路陸橋下の空き地の活用

石井東地区社会福祉協議会 安心を笑顔で支える「人つなぎ夢つむぎ」

＜拠点＞ 松山市居相1丁目8-26石井支所2F

TEL / FAX:089-904-4874

構成団体		地区民協・公民館・まちづくり協議会・町内会・総代会・高齢クラブ連合会
主な取り組み		活動内容
福祉だよりの発行		「夢つむぎ」として年3回12,000部を作成し、全戸配布。地域福祉に関する情報を発信しています。
地域の集いの場	IMAカフェ 居相ふれあい農園 星ぐるま	・月に1回日曜日に開催、地域で採れた野菜やコーヒーなどの提供 ・誰もが気軽に集える場として、毎週日曜日に野菜を育てています ・ひとり暮らしの高齢者へのお弁当作成及び配布による見守り
避難行動要支援者名簿作成		災害時等の避難誘導の際に活用出来るよう、世帯別状況を色分けし、毎年更新して名簿からMAPを作成します。

福祉交流会(10月頃)

地域の独居高齢者と障がいのある「おふくの会」の方約200名との交流会を開いています。手作りのちらし寿司を用意して、民生委員・児童委員、みまもり員による工夫を凝らした演芸を披露しています。また、参加者全員に配布される絵手紙を毎年楽しみに集めていらっしゃる方もいます。



＜地区社協が目指すもの＞

安心を笑顔で支える「人つなぎ、夢つむぎ」のコンセプトのもと、地域住民が主体となって互いに支え合う小地域福祉活動の推進に努めます。地区内には65才以上の高齢者の内、約4割3,500人(障がいのある人を含む)の災害時要支援者がおり、今後増え続ける要支援者を支える、支え合える「住民力」「地域力」の育成をめざします。超高齢社会の中で共生社会実現のためには向こう三軒両隣の顔の見える関係づくりが必要であり、一人ひとりが支えてこそ意義がある事を啓発すると共に地域に密着した福祉活動を推進していきます。

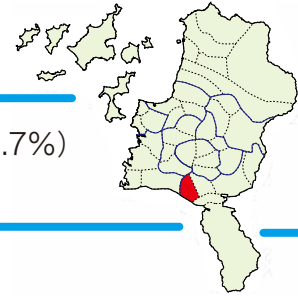
地区の状況	■地区民協	43名 3名	■町内会・自治会・区長会等	21団体
	民生委員		■高齢クラブ	16クラブ
	主任児童委員		■子ども会	10団体
	■まち協の設立	平成23年度	■自主防災組織	19組織

地区の特徴としては、市街地化していることです。そのため、福祉交流会や地域の通いの場(IMAカフェ、居相ふれあい農園、星ぐるまなど)多様な地域福祉活動が行われています。また、地区社協協力会員が多く、向こう三軒両隣の顔の見える関係性構築を推進することにより、支え合う小地域活動が展開されています。この活動を通して、災害時要支援者名簿策定や名簿の「見える化」としてのMAP作りなど災害への備えにも取り組んでいます。これからの活動を通し顔の見える関係構築により、地域福祉活動がより活発に行われることが期待できる地域だといえるでしょう。



石井西地区

人口: 28,810人 (高齢化率25.7%)
世帯数: 14,447世帯

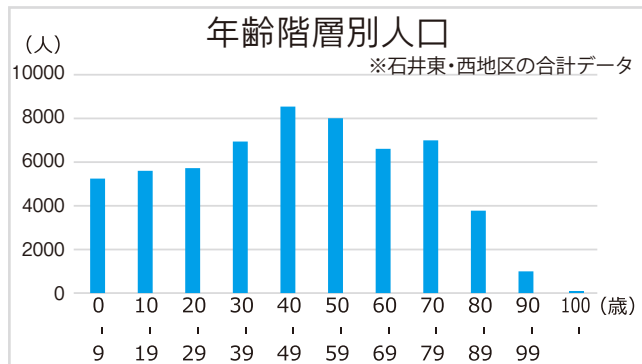


【地区の特色】

石井西地区は、松山市の南部に位置し、北部を西に流れる石手川・小野川、南部を西に流れる重信川・内川に囲まれた肥沃な穀倉地帯として発展してきた。近年、急速に市街化が進行したのは地理的・社会生活上の諸条件にも恵まれているためである。特に、地区の中心部に市道千舟古川線(古川はなみずき通り)や市道北久米和泉線が整備され、市民の散歩道として利用されるほか、松山市保健センター南部分室・南部児童センターが開所され、多くの市民に利用されている。



松山市はなみずきセンター



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、教育、買い物等、生活関連は揃っていて便利で人気のエリアである ・閑静な住宅街が多い ・高齢者の社会参加が活発である ・道路網が整備されており、市内市外移動は便利である ・子育てしやすい町づくりに取り組んでいる ・高齢者に優しい取り組みをしている ・近隣高校の生徒が南部児童センターで地域の子供たちと交流している
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の交通機関がバスしかないため、車の移動が多く道路の渋滞がはげしい ・マンション、新興住宅が増え、人と人の関わりが希薄である ・高齢化が進んでいるが対策が進んでいない ・地域によっては水害が起きた時に避難出来る場所が限られている
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が増え、地域社会への参加が少ない ・町内への関心が遠のいている ・地域によっては交通機関が限られており、移動が困難な高齢者等も居る ・近隣の間関係が少なくなっている ・世代間の交流がなくなっている ・子供の減少、遊び場がなくなっている ・若い世代の町内行事等への参加が少ない ・町内の担い手(町内の役員や民生委員など)がいない ・障がい者、独居、母子、父子家庭など個人情報保護があり、手助けしにくい ・人口に対して集会所が少ない ・駐車場がない集会所があり、利用づらい ・多くの人に利用してもらえるよう集会所をバリアフリーにしてほしい ・町内放送、防災無線が聞こえにくい ・住民の防災意識をひき続き高めていく必要がある

石井西地区社会福祉協議会 石井西 やすらぎのまち 愛の町

<拠点> 松山市居相1丁目8-26石井支所2F TEL:089-956-0248 / FAX:089-958-9962

構成団体	地区民協・公民館・町内会・まちづくり協議会	
主な取り組み	活動内容	
福祉だよりの発行	年3回発行。地区社協活動についての周知啓発と、イベントの参加募集を実施、若い世代からの参加者の拡大に努めています。	
災害に備えた取り組み	避難行動要支援者名簿の作成と更新及び「無事ですフラッグ」を利用した安否確認を防災訓練時に実施しています。	
高齢者の社会参加や交流の促進	ふれあい・いきいきサロン(緩和型含む)、地域交流サロン、福祉交流会の開催をしています。	

子育てパパ&ママのための防災講座

令和4年度からスタート。乳幼児を抱えてがんばっているパパやママのために、子供がいる家庭に特有の防災対策や避難生活について、気軽に参加できるオンライン講座で情報を提供しています。

また、夏休みには、幼児から小学生・保護者を対象に、ゲームを通じて防災について学ぼうと『親子防災講座』を開催しています。



<地区社協が目指すもの>

石井西地区では、コロナ下においてもオンラインの活用等、社会情勢に左右されることなく地域のつながりを切らさない方法を考え、活動してきました。また、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」に向けて、認知症サポーター養成講座、認知症キッズサポーター養成講座及び地域での声かけ訓練にも継続して取り組んでいます。こういった活動は災害時の助け合いにもつながっていくと考えています。今後も、地区の関係機関や諸団体との連携・協働を大切に、住民誰もが心豊かに暮らし続けることができる地域づくりを目指します。

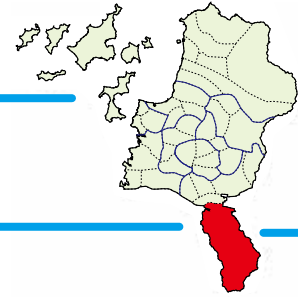
地区の状況	■地区民協	44名 3名	■町内会・自治会・区長会等	21団体
	民生委員		■高齢クラブ	16クラブ
	主任児童委員		■子ども会	10団体
	■まち協の設立	平成23年度	■自主防災組織	19組織

子育て世代が多い地区であるため、認知症サポーター養成講座のほか、オンラインでの子育てパパ&ママのための防災講座、「無事ですフラッグ」を利用した安否確認など世代間共通の課題で尚且つ、地域課題をテーマとした取り組みが活発であるといえます。これらの取り組みをさらに発展させ子どもから高齢者まで、多世代間が参加する防災・減災活動の場の創造が期待できる地域だといえるでしょう。



く たに 久谷地区

人口:9,592人(高齢化率37.6%)
世帯数:4,874世帯

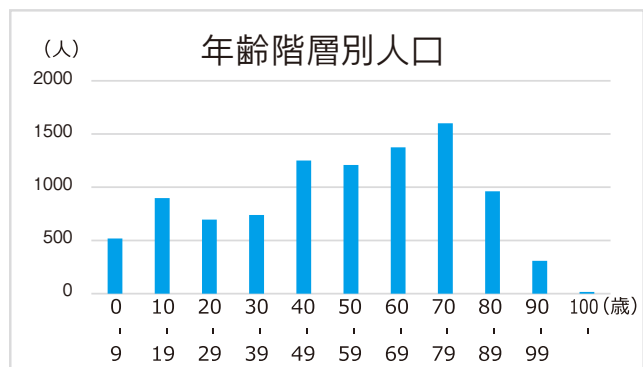


【地区の特色】

久谷地区は、松山市の南部に位置し、緑豊かな田園地帯である。文化財などの史跡伝説の町でもあり、また、昭和38年に決議された文教宣言に基づき、生涯教育の推進をモットーとしている。伝統文化の継承や仲間づくり、青少年の健全育成を図り、また、近隣愛を高めながらふるさとの再発見活動を展開している。



重信川からのぞむ久谷



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人協力してくれる ・おせっかいの文化がある ・昔からの集落なので隣近所3代に渡って顔見知り ・元気な高齢者が多い ・町内会のシステムが確立している ・自主防災の意識が強い ・地区の若い衆が今後を憂いて活動をしている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・家と家が遠い ・公共交通機関がなく生活に不便 ・市街化調整区域で新しい住宅が建設できない ・空き家が多い ・高齢者を雇う事業所がない ・80歳代以降の年金額が少ない(農業従事のため) ・少子高齢化が進んでいる ・過疎と高齢化に伴い労働力が低下し、行事等の共同作業が困難になりつつある
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、独居高齢者が多い ・空き家が多い ・子どもが減っていて伝統文化の継承が難しい ・高齢化により、地区の行事での共同作業が困難になりつつある ・買い物、通院の交通が不便

久谷地区社会福祉協議会 ふれあい、助け合い、おもてなしの里「くたに」

構成団体	地区民協・総代会・公民館・高齢クラブ連合会・女性連絡協議会 青少年健全育成連絡協議会・協力会・PTA・中学校・小学校・交通安全協会 福祉施設・支所
-------------	---

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回7,000部を作成し、地域福祉に関する情報を発信するため全戸配布しています。
年賀施設訪問(1月)	毎年約50箱のミカンを久谷地区にある高齢・障がい者施設へお年賀として贈呈しています。
福祉学習講座の開催	地域の暮らしに関するタイムリーな話題について、専門分野の方を講師にお迎えして開催しています。

交流会の開催

子どもや保護者、ボランティア等が世代を越えた交流会を行っています。レクリエーションや仲間づくり、情報交換や勉強会などを通して、子どもの成長を見守り互いの成長を目指しています。



<地区社協が目指すもの>

少子高齢化が進み、現在、高齢化率は37%を超えています。今後高齢者のみの世帯が増えてくる事が懸念されるこの地域では“ふれあい、助け合い、おもてなしの里「くたに」”を基本理念とし、地域で誰もがいつまでも安心して心豊かに暮らせる街づくりを目指して、今まで以上に地域内交流を盛んにし、伝統文化等の継承と仲間づくり、青少年健全育成と三世代の交流を深め、近隣愛と地域愛のある活動を進めていきます。

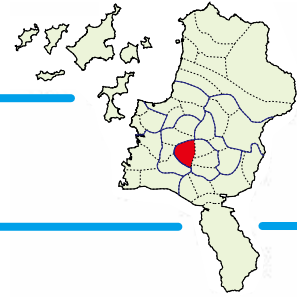
地区の状況	■地区民協	18名 2名	■町内会・自治会・区長会等	14団体
	民生委員		■高齢クラブ	8クラブ
	主任児童委員		■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成28年度	■自主防災組織	29組織

お接待の文化が浸透し助け合いの精神や共同体としての住民相互の絆が強い地区です。地域内には福祉施設が多く「年賀施設訪問」など定期的な交流を地域住民らと図っています。このお接待の精神を背景とした住民間の'つながりの強さ'はまさに地区の財産だと言えるでしょう。今後は、交流会などを通じた活動の展開により、次世代の担い手育成など世代間のプラスの連鎖が期待できる地域です。



ばん ちょう 番町地区

人口: 3,895人(高齢化率30.0%)
世帯数: 2,262世帯

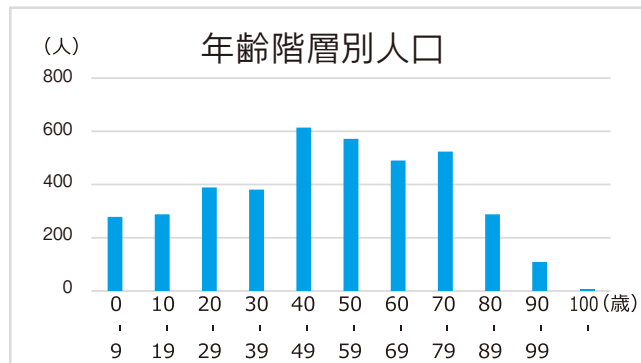


【地区の特色】

松山市の中心に位置し、官公庁・金融機関等のオフィスビルが建ち並び、大街道・銀天街・まつちかタウンのショッピングゾーンは連日買い物客でにぎわっている。一方、ドーナツ化現象のため人口は流出傾向にあるが、地域住民の強力な結束を基に、文化・スポーツ活動等が活発に行われている。



松山城と官公庁などのオフィスビル



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・街中なので夜も明るい ・交通機関の利便性がよい ・医療機関が多い ・柳井町町内会では近所付き合いが盛ん ・ゴミ出しなど町内ルールが守られている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーが少ない ・近所付き合いが希薄
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の増加 ・スーパーが少なく、高齢者等の買い物が困難 ・マンションが増え、オートロックマンション等により地域の情報周知が困難 ・交通量が多く、危険 ・集いの場が少ない ・近所付き合いが希薄

番町地区社会福祉協議会

構成団体	地区民協・公民館・共同募金会・小学校・PTA
主な取り組み	活動内容
独居高齢者の見守り	毎年12月に民生委員が見守りをしている独居高齢者へ靴下を配布し、見守り活動を行っています。
高齢者への記念品の配布	地区の80歳以上の高齢者を対象に記念品を配布しています。
小学生と高齢者の交流	小学1年生と高齢者が昔の遊びを通して交流を深めています。

お茶会(2月頃)

地域の高齢者、保育園児とその保護者が一堂に会しお茶会を実施しています。年長児が、いつも見守ってくれる地域の方や保護者の方に日頃学んだお作法を披露し、成長した姿を見てもらいます。世代間の交流とともに、子どもたちが地域の高齢者を思いやる心を育てています。



<地区社協が目指すもの>

松山市の中心地に位置する地区のため、諸々の活動に便利な点を活かして近隣地区とも協力し、子どもから高齢者まで住民一人ひとりが社会福祉に参加し、地域内の助け合いの気持ちを育てていける地区を目指します。

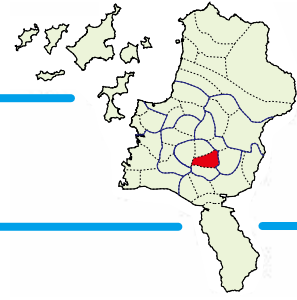
地区の状況	■地区民協	11名	■町内会・自治会・区長会等	36団体
	民生委員 主任児童委員		2名	■高齢クラブ
	■まち協の設立	—	■子ども会	3団体
			■自主防災組織	34組織

官公庁や医療機関が立ち並ぶオフィス街であり、交通の利便性がよく、保育園・小学校においても市内全域から園児や児童を受け入れている地区です。そのため、園児とのお茶会や小学生との昔あそびを通して世代間の交流を図っています。こうした活動は核家族化の進む中で、子どもたちの「学びの場」となり、子どもたちの福祉教育の一環となっているでしょう。このような市街地ならではの福祉活動をより発展させることで、地域内の相互交流及び福祉教育の新たな展開が期待できる地域だといえるでしょう。



八坂地区

人口:4,951人(高齢化率32.5%)
世帯数:3,237世帯

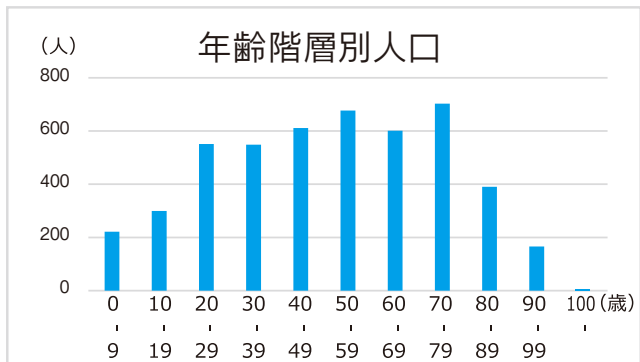


【地区の特色】

八坂の名の由来は京都の祇園神社にまで遡ることができる。明治27年12月5日に南八坂町に松山第3尋常小学校が開校し、持田や素鷲の方からも子どもたちが通っていた。この頃から通学区域を八坂校区と呼ぶようになった。現在の八坂校区には30の町がある。行政上の住所表示と異なり、昔からの町名の多くが残っているのがわが町「ふるさと八坂」。人々の交わり地方祭をはじめとする諸行事など生活上の様々な面で、今もそれぞれの街で昔からの強い絆を守りつづけている。



中の川通り



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・松山市の中心部(街中)に位置し、飲食店などが多く存在している ・マンションが増えている ・教育施設が多い ・高齢者福祉施設が多い ・コンビニ、駐車場が多い ・デパート・商店街(大街道、銀天街)が近い ・サロン活動が活発 ・元気な高齢者が多い ・近所の子ども顔が分かる ・子どもとの交流が多い ・公民館と学校の連携が強い ・公民館行事が多い ・街中で虫が見られる ・石手川公園は自然豊かで、人が集う場所になる
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が高い ・子どもがいる世帯が少ない ・交通量が多く危険 ・歩いて行ける範囲にスーパーがないため、買い物が不便 ・市役所の支所がない ・公民館にエレベーターがない(令和6年度に設置予定) ・個人商店が少なくなった
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯が増加しているが、見守りの対象にならないため、見守りが行き届かず不安 ・昔からの住民と新しい住民の交流が少ない ・マンション世帯との交流が少なく、世帯の情報を把握できない ・交通量が多く危険 ・子どもがいる世帯が少ない ・組織役員の後継者不足

八坂地区社会福祉協議会 気配りの種まき 福祉の芽が出る明るい八坂

構成団体	地区民協・公民館・婦人会・町内会・小学校・PTA・まち協・地域連絡会 自主防災連合会・保護司会・更生保護女性部
主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回、2,000部を作成し、地域福祉に関する情報を発信するため全戸配布しています。
サロン活動の支援	ふれあい・いきいきサロン4か所の活動が充実し、参加者が健康増進や交流を深められるように支援を行っています。
高齢者への訪問	毎年独居高齢者へ、年末におもち配り、3月3日のお節句にはちらし寿司を配布し、見守りをしています。

やさかちいきふれあいパーティー

八坂小学校にて1・2年生の児童と地域の高齢者が昔の遊びやゲーム・クイズ、劇の発表などを通して、ふれあう機会となっています。また、給食も一緒に食べながら話が弾み、お互いの心に残る楽しく有意義な時間を過ごしています。



<地区社協が目指すもの>

八坂地区ではホタルボランティアの人たちが蛍を長年育てており、また、地区の夏祭りで地域の各世代の人が八坂音頭を「みんな輪になり」で踊り継いでいます。

八坂地区社協では高齢者が健康でいきいき活動し、これまで培ってきた緑豊かな自然や人の輪を大切に、少子高齢化の中でも子どもから高齢者まで世代を超えて見守り・支えられるよう元気で心豊かに生活できる八坂を目指していきます。

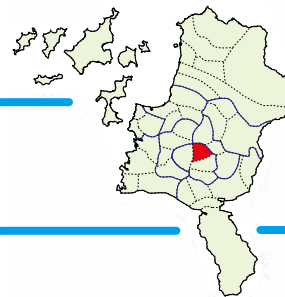
地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	16名 2名	■町内会・自治会・区長会等	28団体
			■高齢クラブ	0クラブ
			■子ども会	1団体
	■まち協の設立	平成25年度	■自主防災組織	25組織

中心部に位置しているため交通の利便性が高い地区です。その地の利を活用し、地区の夏祭りで八坂音頭を踊り、ふれあいパーティーでコミュニケーションを図るなど世代間交流を深める場づくりが行われています。また、高齢者住民への働きかけの一環として、高齢者訪問やふれあい・いきいきサロン(4か所)を開催し活動の充実に努めています。今後は小学校を中心とした小地域活動を中心に地区社協構成団体との継続した連携・協働を推進することで、住民の暮らしの質はさらに向上することでしょう。



しののめ 東雲地区

人口:8,852人(高齢化率27.7%)
世帯数:5,163世帯

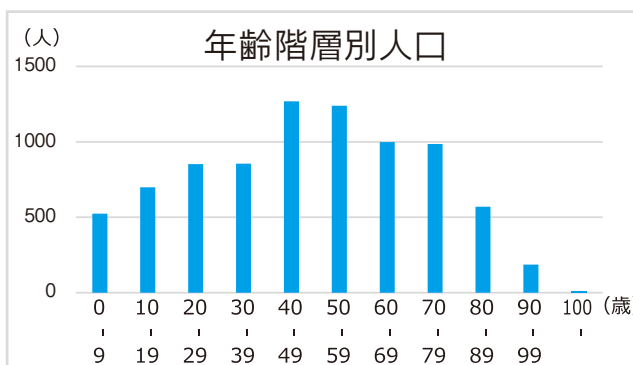


【地区の特色】

市の中心部に位置し、交通の便も良く、松山城を間近にみる文教商業地域であり、県知事公舎、裁判所長公舎、中予地方局、警察署等ビル群に囲まれている。また、教育機関も幼稚園・保育園・小・中・高・専門学校・大学とその数は14に及び、文教地区として発展している。



御幸寺山から見た東雲地区



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・市の中心部に位置し、バス・路面電車が走るなど交通の便が良い ・松山城、秋山兄弟生誕地、明教館など、観光、文化施設が多い ・中予地方局、松山東警察署、愛媛県総合福祉会館など、行政・福祉機関が多い ・一時減少傾向にあった人口が、マンション建設などで最近増加傾向にある ・幼稚園・保育園・小・中・高・専門学校・大学があり、教育環境に恵まれている ・日赤松山病院をはじめ、医療機関が多い ・子どもたちや高齢者の見守り活動が盛んである
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高層マンションの増加により、町内会未加入世帯が増加している ・高層マンションの増加により、景観が悪い ・新しい住民とのコミュニケーションが図りにくい ・学生の多い賃貸マンションのゴミ出しルールが守られていない ・スーパーマーケットが少なく、買い物が不便である ・交通量の増加により、交通事故の危険度が高い ・昔のままの道路が多く、道幅が狭く危険である
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯が増加しているため、見守り・情報共有などが困難である ・マンション世帯の増加等により、新しい住民とのコミュニケーションがとりにくい ・スーパーマーケットが少なく、日常の買い物が不便である ・道路幅が狭いため、見通しが悪い・緊急車両が入れないなど危険である ・地域福祉を支える側の人材が不足している

東雲地区社会福祉協議会 支えあう力で、明るく、元気な地域づくり

<拠点> 松山市勝山町2丁目11-5 東雲公民館

構成団体	地区民協・町内会連合会・共同募金会・公民館・交通安全協会・婦人会 高齢クラブ連合会・更生保護女性会・子ども会育成連合会
主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回、3,500部を作成し、地域の福祉に関する情報を発信するほか、2ヶ月に1回程度「東雲公民館だよりに」地区社協のスペースをもらい『しののめ福の輪だよりに』としても情報の発信を行っています。
小・中学生との交流	小・中学校で行われる地域福祉の学習や学校行事の事前・事後学習等の時に、その内容に合わせて地域の福祉関係者等が、活動内容や体験を話したり、児童生徒と話をするなどして交流を深めています。
いきいき健康体操教室	地域住民誰でも参加できるように、講師と一緒に、ゆつくり体を動かしながら、普段使っていない筋肉や関節のストレッチをしています。公民館と地区社協が共同で開催しています。

しののめ福の輪会(中学生と地域住民の交流会)

東中学校での総合的な学習の時間に、「地域福祉」を選択して講義等で学んでいる生徒と、地域住民との交流会です。地域からは、地区社協、民児協、公民館および各サロンの代表者が参加し、地域での活動の実態を理解してもらえるように協力しています。

※「しののめ福の輪会」とは、幸福の『福』、福祉の『福』を東雲地区のなかで、繋ぎ、広げていこう!との思いが込められた愛称です。



<地区社協が目指すもの>

東雲地区は、多くの史跡、文化財に恵まれた市の中心部に位置し、交通の便も良く、地域周辺にはコンビニをはじめ病院や保健福祉施設、警察署等の立地など住環境に恵まれる中、高層マンション建設等により新たな住民の流入に加え、少子高齢化の進展が著しくなっています。

今後は住民同士の繋がりやふれあいを高め、「地域はひとつ」の絆を高めるため、民児協、町内会等各団体の協力・支援等により各種事業を展開し、子どもから高齢者まで明るく、いきいき生活できる地域づくりを目指します。

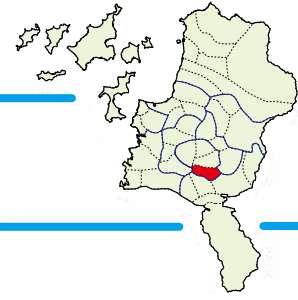
地区の状況	■地区民協	23名	■町内会・自治会・区長会等	38団体
	民生委員 主任児童委員		2名	■高齢クラブ
	■まち協の設立	—	■子ども会	5団体
			■自主防災組織	30組織

観光資源や医療・教育などの社会資源に恵まれた地区です。活動の一つには、しののめ福の輪会があり地域住民と中学生の交流会を通して、さらなる住民間のつながり強化が行われています。また、高層マンションの増加による新しい住民の流入が進む中、健康体操教室などの企画は地区になじみのない方でも参加しやすく、今後の地域福祉活動メニューを考える上で、今後の新たな活動展開が期待できます。



そが 素鷺地区

人口: 18,623人(高齢化率29.8%)
世帯数: 11,511世帯

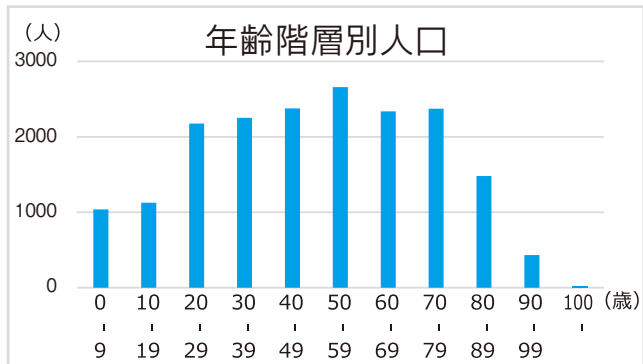


【地区の特色】

戦前は純農村地域であったが、近年市街地に隣接する地域として急激に住宅化が進み、通勤にも便利なためマンション等の建設も多く都市化が進んでいる。しかし、現在はそれ以上のドーナツ化現象のため、高齢化率も高くなり人口は横ばい状態となっている。そういう中であって、地域住民間の連帯感が薄れつつあり、近隣間のコミュニケーションがスムーズにっていない地域が増えるなど新たな問題が顕在化し、昔からの地域事情に若干の変化も見えてきている。



どろんこ運動会



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的便利で市内外へも行きやすい ・商店街がある ・高齢者の施設も多い ・市内の大きな病院を含め個人病院へも通いやすい ・公共交通の便がよく住みやすい ・教育関連機関や生活関連施設が多い ・若い世代の後継者が育っている ・まちづくり協議会や民生・児童委員、公民館関係者の連携がとれており、活動が活発 ・楽しい行事があり、地域住民が協力的(どろんこ運動会) ・登校時小中学生の見守り隊(保護者による旗当番)と地域の人による小中学生の見守り ・高齢者が気軽に相談できる窓口『そがのよりみち』(包括支援センターとの連携) ・公民館が改修され、エレベータや段差解消スロープの設置等バリアフリー化されたことにより、高齢者や車いすの方が利用しやすくなった
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者世帯が多い ・高齢者世帯が多い ・空き家が増えている ・道路が狭く緊急車両が入れない ・マンション住民との交流が少ない ・仕事など忙しく地域の手伝い等してくれる人の人材不足 ・健康診断の受診率が低い ・各種団体の役員、代表者、お世話さんらの後継者のなり手が少ない ・子どもの数が減っている ・子ども会や町内会に入らない世帯が増えてきている ・一部、公民館や集会所がない町があり、集まれる場がない ・低所得者でも安心して入所できる高齢者施設が地区内にない
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の増加(認知症や頼れる人がいないなどの課題) ・マンションが多く、把握と見守りがむずかしい ・空き家の増加(防犯・倒壊の危険) ・組織役員の後継者不足 ・子どもがいる世帯が増えない ・健康診断の受診率が低い ・防災訓練を行っているが、実際に支援の必要な世帯(高齢者・障がい者)の参加が少ない

素鷲地区社会福祉協議会

石手川 南に広がる そが福祉

<拠点> 松山市中村3丁目2-34(素鷲公民館内)

TEL:089-931-2745

構成団体	地区民協・町内会連合会・共同募金会・公民館・サロン代表者・高齢クラブ連合会 まちづくり協議会・自主防災連合会
------	---

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回、7,400部をカラー版で作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。
防災への取り組み	社協・民協・まち協・自主防災など地域内の各団体が日頃から連携し、定期的に防災についての会議や訓練を行っています。
健康についての取り組み	包括支援センターや各団体と連携し、健康増進・生活習慣病の予防のためセルフケア通信の発行や周知の協力、認知症についても認知症サポーター養成講座やチームオレンジの立ち上げに協力しています。

福祉講座(10月頃)

福祉課題の中でテーマを変えながら地域住民を対象に福祉講座を開催しています。毎年、分かりやすい内容を提供していることから多くの地域住民の参加があり、好評をいただいています。



<地区社協が目指すもの>

素鷲地区は、2万人近くの人口となり高齢者が多く、独居高齢者や生活保護受給者も多くいます。交通の便が良く買物や病院へ通いやすく、生活関連施設等も充実しています。毎年、拓南中学校にて松山市消防城東支署の協力を仰ぎながら生徒と一緒に炊き出し、AED体験、ドローンによる撮影、マップ作りなどの防災活動訓練を行っており、地区全体として防災関係に力を入れています。また、まちづくり協議会や他団体と連携しながら少しでもあたたかさを感じられる地域づくりを目指します。

地区の状況	■地区民協	49名	■町内会・自治会・区長会等	44団体	
	民生委員		3名	■高齢クラブ	9クラブ
	主任児童委員			■子ども会	10団体
	■まち協の設立	令和2年度	■自主防災組織	29組織	

かねてより独居高齢者が市内で多い地区ですが、近年は、新興住宅地の増加に伴いマンションが増えている地区です。そのため、民生委員・児童委員をはじめとする多様な福祉活動が求められます。また、地区防災活動訓練を中心として、中学校を拠点に地区住民参加による取り組みは、連携を促進する上で重要な活動であるといえます。この活動を軸としながら、地区社協構成団体が連携・協働し住民ニーズに基づく福祉講座の開催が行われています。今後は地域課題である独居高齢者対策として、集いや見守り活動など地域福祉活動の新たな取り組みが期待できる地域だといえるでしょう。



どうご 道後地区

人口: 11,142人(高齢化率25.6%)
世帯数: 5,302世帯

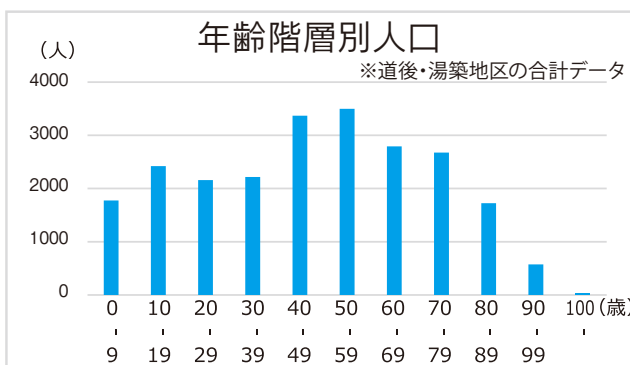


【地区の特色】

道後地区は、政治、経済、文化の中心として古くから発展しており、まさに「道後温泉」の名を冠とした歴史と文化の由緒ある地区名である。道後温泉本館の南東の方角に中世後期に伊予国を支配した河野氏の湯築城跡や子規記念博物館がある道後公園、また、東に四国八十八ヶ所51番札所「石手寺」など観光客や地区住民が訪れる憩いの場となっている。



道後公園 湯築城資料館



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・道後温泉や道後公園などの観光資源が多い ・平坦な土地で、災害も少なく住みやすい ・治安がよい ・中心市街地に近く通勤、通学等に便利である ・駅周辺地域は交通の便がよい ・病院、スーパー、学校など生活関連施設に恵まれており、移動図書館や移動スーパーも来るなど生活に便利である ・転校生が多い地域であるが、子どもたちが溶け込みやすい環境にある ・教育熱心な地区であり、通学路の見守り活動等も盛んである
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の増加 ・空き家が増えてきている ・自力で移動できない高齢者には、交通に不便な地域が一部ある(石手白石・新石手) ・公民館、集会所の老朽化 ・集会所が少ない(駐車場が少ない) ・マンションなど、町内会に入らない世帯が増加している ・児童が遊べる公園が少ない ・土地の価格が高く、家賃が高い
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立した高齢者の増加 ・高齢者は公民館、分館の階段が困難で利用しにくい(エレベーターがない) ・一部移動手段の不便な地域がある(石手白石・新石手) ・住民の防災意識が低い ・自主防災組織が一部団体に限られており、災害時に連携がとれるか不安がある ・地域行事への参加者が少ない ・役員やお世話役、活動に関わる後継者不足 ・マンションの増加や転勤族が多いため、近所づきあいが希薄化している ・人が集まり、活動する場所が少ない ・地域福祉サービス事業の活動がない

道後地区社会福祉協議会

ささ あい ゆ
支え愛 湯ったり暮らせる 道後の福祉

構成団体	地区民協・町内会連合会・自主防災連合会・小学校・中学校・公民館・支所 高齢クラブ連合会
------	--

主な取り組み	活動内容
福祉&防災MAPの作成	地区内の社会資源やバリアフリーの整備状況など福祉分野の情報に加え、防災の視点も取り入れたMAPを作成し、地域住民全戸に配布し、役立ててもらっています。
サロン交流会の開催	毎年1回、サロン代表者・世話人交流会を開催し意見交換を行うなど、3サロン(いきいき2、地域交流1)の支援を継続して行っています。
福祉講座の開催	道後・湯築地区社協が合同で、年度2回、高齢者の生活など福祉全般および防災に関する講演会を開催しています。

道後小3年生道後温泉入浴体験

道後小学校と協働し、毎年10月頃3年生児童を対象に歴史的建造物である道後温泉本館において地域の歴史を学ぶとともに、公衆浴場での入浴体験を通して入浴マナーの向上を図ることを目的として、平成24年度から実施しています。※本館保存修理工事中は飛鳥乃湯泉に場所を変え、コロナ禍に伴い周辺施設の見学のみ実施。



<地区社協が目指すもの>

道後地区は、道後温泉をはじめ子規記念博物館、湯築城跡のある道後公園など類をみない文化財や史跡があります。道後地区社協では「支え愛 湯ったり暮らせる 道後の福祉」を基本理念とし、温泉で育まれた温かさと支え合う心を大切に福祉活動を目指しています。また、地区の福祉課題でもある防災関連についても地区社協はもとより、関係機関・団体との連携・協働を推進していくことにより、地域ぐるみで防災意識の向上を図るとともに、子どもや高齢者、障がい者に優しく暮らしやすいまちづくりを目指していきます。

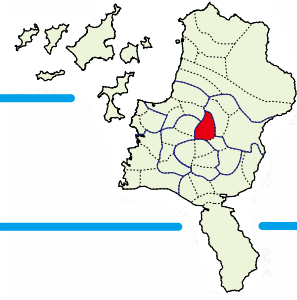
地区の状況	■地区民協	22名 2名	■町内会・自治会・区長会等	27団体
	民生委員		■高齢クラブ	2クラブ
	主任児童委員		■子ども会	0団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	3組織

歴史的、文化的拠点として観光地、商業地、住宅地として調和のとれた比較的災害の少ない暮らしやすい地区です。閑静な住宅地にはマンションが立ち並び転入者が多い一方で、町内会の未加入率の増加や高齢者世帯の増加などにより地域活動や行事運営に課題を有するなか、地域特有の社会資源を活かし工夫を凝らした取り組みが特徴的といえるでしょう。とりわけ小学生への道後温泉入浴体験の取り組みは、子どもたちに入浴マナーの習得や多世代との交流を「入浴体験」を通して学んでもらい、地域の歴史だけでなく文化や風習への理解を深化させる貴重な機会となっています。こうした経験の蓄積が地域への愛着をさらに育むことでしょう。



湯築地区

人口: 11,609人(高齢化率29.3%)
世帯数: 6,439世帯

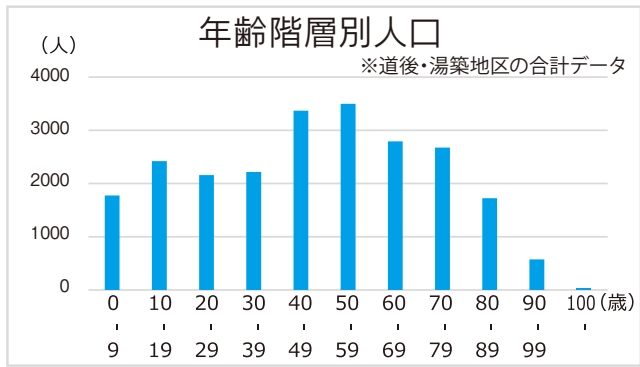


【地区の特色】

湯築は、道後温泉の中心地、道後湯之町・白鷺伝説の鷺谷から西の御幸山の麓まで広がる祝谷(湯湧谷が転訛 旧温泉郡道後村)の農村地域であったが、現在は松山の中心市街地や文京地区に近く、閑静な住宅地として発展変容してきている。近年定住された世帯は高齢者比率が非常に高く独居高齢者世帯も多くなっている。また、農地の宅地転用の中小規模賃貸マンション・貸家の比率が高く、年間の転出入が多い。



道後温泉駅前放生園のカラクリ時計



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・道後温泉をはじめ歴史伝統文化史跡が多くある ・中心市街地、文教地区に近く、閑静で自然豊かな住宅地 ・愛媛大学、松山大学が近く、学生や若者が住みやすい町 ・教育に熱心な校区とされ、移住の希望が多い ・病院、介護施設が多い ・秋祭りの炊き出しにおいて団結力がある(祝谷公園)
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・現役世代が少なく高齢者世帯が多い ・坂が多く高齢者が歩くのが大変 ・伊予鉄バスの便が少なく不便 ・地盤が弱く土石流危険箇所が多い ・避難場所が少ない ・交流ができる場所が少ない ・役員のなり手がなく子ども会が減少している ・若者の行事への参加が少ない ・大型マンションが多く安否確認が難しい場合がある
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯、高齢者独居世帯、老老介護世帯が多い ・特に山間部では買い物難民の増加が危惧される ・一部公共の乗り物の不便さがある ・若い世代は共働きが多く行事の参加が難しい ・役員のなり手が少ない ・災害時の支援体制が整っていない ・大型マンションの住人と地域住民の交流が少ない

湯築地区社会福祉協議会

子どもを安心して育てられる町 お年寄りに優しい町
誰もが地域行事を楽しみに参加できる町

構成団体	地区民協・道後温泉旅館組合・道後商店街振興組合・中学校・小学校 公民館・自治会連絡協議会・高齢クラブ長寿会
------	--

主な取り組み	活動内容
ふれあい料理教室	食生活の改善や近隣住民とのふれあいの場を目的として5月から9月にかけて毎月開催しています。高齢者を中心に老若男女だれでも気軽に参加できます。
三世代交流	秋祭りの奴踊り、獅子舞や年末年始のもちつき、しめ縄作り、七草がゆ、盆踊りなどの行事を通して、世代間の交流が深まるように活動を支援しています。
福祉講座の開催	湯築・道後地区社協が合同で、毎年2回、高齢者の生活や健康問題などの福祉に関する講演会を開催しています。

湯築小学校5年生入浴体験

平成22年度から始まった入浴体験では道後温泉に初めて入浴する子どもや公衆浴場のマナーを教わる子どもも多く、入浴マナーや道後の歴史などを学ぶことにより、道後温泉の魅力や再発見し郷土愛の醸成を図ることを目的としています。さらに、観光客等に対して、みかんを配る等「お接待」の体験も行っています。



<地区社協が目指すもの>

湯築地区社協は、「子どもを安心して育てられる町」「お年寄りに優しい町」「誰もが地域行事を楽しみに参加できる町」この3つの町づくり基本骨子の推進活動を目標にしています。

<活動方針>①湯築地区地域福祉活動計画に基づき、身近なかかりつけ医の周知啓発を図る。②地区の小学校・中学校への福祉学習支援を行う。③福祉講座開催により福祉活動への参加意欲の自己啓発を図る。④福祉だより等の広報により地域福祉活動の意識向上を図る。⑤ふれあいサロン等、地域住民の交流促進とリーダーの育成を行う。

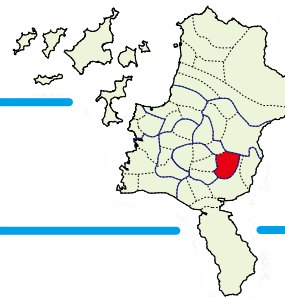
地区の状況	■地区民協	28名 2名	■町内会・自治会・区長会等	45団体
	民生委員		■高齢クラブ	0クラブ
	主任児童委員		■子ども会	3団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	1組織

地区社協の構成団体に旅館組合や商店街組合などの観光地特有の団体が参画しており、子どもから高齢者まですべての地域住民を対象とした幅広い地域活動が特徴的です。多くの大学が立ち並び若者層の住民や子育て世代の住民が増加しつつあるなか、高齢者世帯を含めたその他の世代との接点が少なく課題となっています。しかしながら現在取り組んでいる「小学生の入浴体験」「ふれあい料理教室」「福祉講座の開催」「三世代交流」などは、性別や年齢を超え地域住民全体を包括した取り組みといえます。今後はこれらの活動を地域住民だけでなく参画団体と連携・協働しながら拡充していくことで、さらなる地域活動の発展が期待できるでしょう。



くわばら
桑原地区

人口: 25,688人(高齢化率27.2%)
世帯数: 12,911世帯

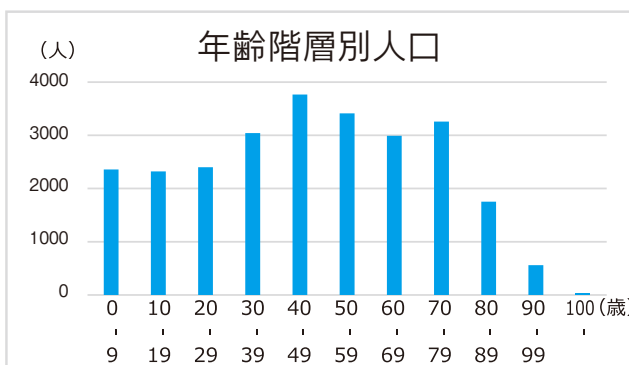


【地区の特色】

桑原地区は、松山市の東に位置し、経石山(きょうせきざん)古墳があり古くから開けていた町である。また、松山藩主久松氏の別邸が「東野お茶屋跡」として残っている。昭和40年代後半からは、都市化の急激な発展とともに新興住宅地が広がっている。現在では、小学校三校、中学校、高等学校各一校、大学は短大を含め三大学が立地している。



淡路ヶ岬から望む桑原地区



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者多機能型事業所きらりの森と児童館が併設されており多くの人が利用している ・松山市中心部にも近く、自然にも恵まれており住みやすい環境である ・2つの大学があり学生や留学生との交流の機会がある ・交通の便もよく、生活関連施設にも恵まれており、生活がしやすい ・まちづくり協議会の活動が盛んである ・青壮年有志の会やくわばら女子会、学生部の交流が盛んである ・防犯対策が進んでいる ・町内行事に参加者が多く、協力的である ・サロン代表者会でサロン間の情報交換が図られている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・一部地域は住居からお店が遠く、買い物に不便である ・一部地域はバス停までの距離が遠く不便である ・災害の時、一部の地域で山崩れやため池の氾濫が不安材料となる ・大雨による川付川の氾濫の不安がある ・一部の住民でゴミ出しルールが守られていない
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・集会所のない地区では、横の繋がりが取りにくい ・買い物場所が遠く、車を持たない高齢者等には不便 ・通学路が狭くて危険な場所がある ・指定避難所としての桑原中学校は上り坂があるため高齢者等の避難には不向き ・高齢化で独居世帯が施設等へ入所することにより空き家が増えているため、防犯面の不安がある ・東部環状線の交通量が多く歩道等の整備が遅れていて危険である ・公民館区と校区の違いにより、同じ町内でも近所付き合いが希薄になる

桑原地区社会福祉協議会 桑原の郷 みなでささえて安心ぞ!なもし

構成団体	まちづくり協議会・広報協議委員会・地区民協・公民館・水利組合・校区婦人会・町内会 自主防災・消防団・防犯協会・高齢クラブ連合会・土地改良区長会・女性防火クラブ連合会 遺族会・交通安全協会・中学校・小学校・支所・更生保護会・スポーツ協会・いきいきサロン
-------------	---

主な取り組み	活動内容
福祉講座の開催	地域で高齢者が健康で安心して生活できるように、毎年3地区ごとに福祉講座を開催しています。
福祉教育の充実	桑原中学校の生徒が高齢者福祉施設を毎年2回訪問し、利用者の方々と交流を深め、人を敬う気持ちを育てています。
独居高齢者給食サービス	75歳以上の独居高齢者の方々に、特別メニューのお弁当(商品券)を民生委員・児童委員の協力を得て配布し、喜ばれています。

高齢者ふれあい運動会(11月頃)

平成24年から開催している65歳以上の高齢者の運動会で、毎年150名以上が参加しています。高齢クラブやいきいきサロン、地域の高齢者の健康増進や交流の場になるよう活動を支援しています。



<地区社協が目指すもの>

桑原地区は、世帯数12,911世帯、人口25,688名(令和5年4月現在)と松山市40地区の中で6番目に多くの皆さんが生活されています。桑原地区社協では、まちづくり協議会や、民生児童委員との連携強化を図りながら、健全な「まち」としての環境を整え、人の暮らしを見据えたまちづくりを推進し福祉の充実を図ります。さらに、高齢者の生きがいづくり・健康増進等のための「サロン」活動やレクリエーション活動を推進し、多様な人材の出会いや交流を深めて活動の幅を広げることに努めます。また、地域の防災・減災・防犯活動を通して地域安全の向上を目指します。

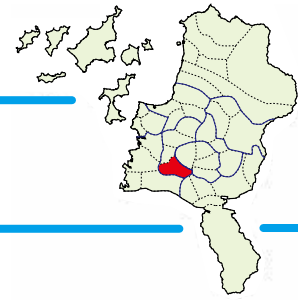
地区の状況	■地区民協	39名 2名	■町内会・自治会・区長会等	22団体
	民生委員		■高齢クラブ	7クラブ
	主任児童委員		■子ども会	13団体
	■まち協の設立	平成21年度	■自主防災組織	22組織

市中心部に近いながらも自然豊かで、小学校から大学まで数多くの教育施設が立ち並び文教地区です。高齢化が進展するなかで、高齢者の単身世帯や空き家が増加し防犯や災害時の対応など課題がある一方で、就学児や若者世代も多く彼らへの「福祉教育の充実」や、「高齢者ふれあい運動会」「独居高齢者給食サービス」などの取り組みがなされています。若年層からの福祉教育は、地域住民の一員としての自覚を芽生えさせるほか、自己肯定感や対人関係の向上、人権の重要性を実感する貴重な機会となり、また、高齢者ふれあい運動会は、参加者の心身の健康維持だけでなく仲間意識の向上など地域住民の凝集性を高め、地域住民間のつながりがさらに強固なものへともたらすことでしょう。



ゆうぐん
雄郡地区

人口: 32,662人(高齢化率24.5%)
世帯数: 17,457世帯

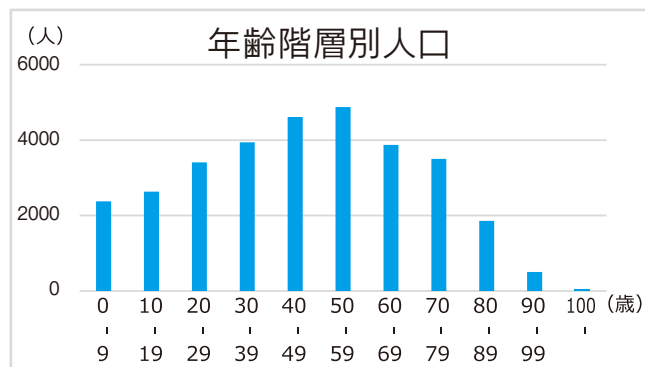


【地区の特色】

農地の宅地化、マンション化が急速に進み、市内でも人口が多い地区である。シンボルは「子規の歩いた道」で、子規によって俳句が詠まれた句どころ(雄郡神社・末広町の正宗寺など)も多い。郷土の芸能では竹原町・針田町の獅子舞が保存会により演じられており、義士祭・福運祭などがにぎやかに行われている。地区の木は「榿の木」で、花は「サルビア」である。近年は都市化が一段と進んでいるが、今なお伝統や文化を大切にする気質が残っている地域である。



サルビア夏祭り



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・松山市中心部に位置し、住宅地区と商業地区が共存しており、生活しやすい ・サロン活動が活発である・地域、学校、PTAなど各団体が協力している ・保育園、幼稚園、学校施設が多く所在し、子どもを育てやすい ・郡中線により中心部との行き来は便利・災害が少ない ・雄郡公民館と連携して充実した活動ができている・Re再来館の活動が盛ん ・歩道が整備されつつある・水質がよいため井戸水を使用しているところもある ・まちづくり協議会が中心となり三世代交流や芝居、認知症カフェなど行事が盛んである
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地区が広いこと事業活動の分割を余儀なくされ、一カ所で事業を行うと参集しにくい ・人口に対して交番が少ない・西部は交通が不便なところがある ・マンション、駐車場が増え住民のつながりが希薄になりやすい ・放置された田畑や空き家が増えている・場所によっては歩道の整備が不十分 ・消防や救急車が入れないような木造の密集家屋が多い場所も存在する ・ボール遊びをする場所がない・高校生の自転車の通学(交通)マナーが良くない ・独居高齢者は増えているが高齢クラブに入会する人数は減少している
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化が進み、高齢クラブやふれあい・いきいきサロン数が減少 ・地域が広く、一人暮らしをしている人や生活困難者の把握がしにくい ・マンション住民と地域住民との関係が希薄になりやすい ・個人商店が減って、高齢者等の買い物困難者が心配される ・ゴミ出しが困難な高齢者がいる・空き家対策 ・建替えできない家屋や狭い道路が多い場所がある・飼い主のいない猫の対策 ・世話役など中心的な役割を担う人を見つけにくい(町内会の役員になる人がいない)

雄郡地区社会福祉協議会 こころをつなぐ”絆”まちづくり

<拠点> TEL:080-4037-0294

構成団体	自治連合会・まちづくり協議会・公民館・分館・地区民協・高齢クラブ連合会
-------------	-------------------------------------

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年3回12,000部を作成し、回覧板で地域福祉に関する情報を発信しています。小中学校にも配布し、家庭へ持ち帰ってもらうことにより地域の情報を幅広く周知できるよう工夫しています。
交流会の開催	サロン代表者会や活動研修会などで体操や脳トレーニングを学び、小学校4年生との認知症サポーター養成講座や認知症カフェ、ディスコン大会を開催するなど交流を深めています。
福祉講座の開催	地域で暮らしていくために、まずは地域を知るところからと考え、年数回、専門講師による認知症などの学習を行っています。

認知症キッズサポーター養成講座

地区内3つの小学校で4年生を対象に、毎年講座を開催しています。地域包括支援センター雄郡・新玉の協力をいただき、市社協とも連携して、今後増えていくと思われる認知症の人にどのように声かけしていけばみんなが安心して暮らしていけるか、主体的に考えるきっかけとなり、助け合いの絆を育んでいます。



<地区社協が目指すもの>

雄郡地区では田畑の宅地化やマンション建築が急速に進み、子育て世代の人口が増えています。また、生活に困難を抱える高齢世帯も増加しています。高齢者にとって住みよい地域は障がいのある方や子どもにとっても住みよい地域となると考え、地域住民がお互いさまの気持ちで支え合える絆づくりを大事にしています。たとえ認知症になっても安心して暮らせる地域となるよう、公民館、まちづくり協議会、高齢クラブ、地区民協、小中学校と協働して福祉活動への参加をつないでいきたいと考えています。

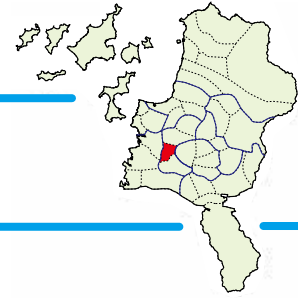
地区の状況	■地区民協	48名 3名	■町内会・自治会・区長会等	26団体
	民生委員		■高齢クラブ	7クラブ
	主任児童委員		■子ども会	23団体
	■まち協の設立	平成21年度	■自主防災組織	41組織

松山市駅があり交通アクセスが良く利便性に富んだ都市であると共に、多くの小学校や高校が集まる文教地区でもあります。それゆえ子どもたちを対象にした「認知症キッズサポーター養成講座」や「交流会」の開催は、地域にとっても重要な意味を持つこととなります。子どもたちは、近隣の認知症高齢者に限らず様々な年代、立場の人々とコミュニケーションをとる中で、多くの価値観に触れ他者を思いやる気持ちや多様性を尊重することの意味を知ります。さらに地域住民との交流は、地域やそこに暮らす他者を知ることによって地域への愛着にもつながることでしょう。この積み重ねが地域の福祉力向上につながると考えます。



あら たま
新玉地区

人口: 11,231人(高齢化率28.6%)
世帯数: 6,620世帯

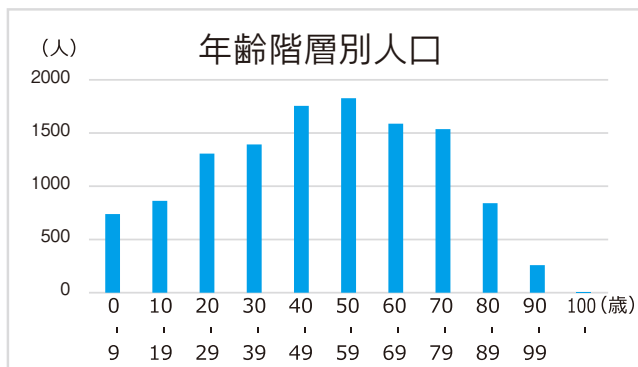


【地区の特色】

新玉地区は、松山市の陸の玄関口JR松山駅を中心に東西南北に広がっている。西側地区は農・商・住宅地であり文化遺産も多い。東側地区は商工地域とともに都市型に発展しており、両地区の生活環境が相まって文化度も高い。特に組織間での連帯感が強く、調和のとれた地区である。



日本唯一のダイヤモンドクロス(大手町)



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館が地区の中心地にあるのでみんなが集まりやすい ・交通の便が良い ・住宅地では顔見知りも多く声かけがしやすい ・地域の一体感がある ・地区内の各団体と連携が取れている ・防災大会への参加者が多い ・防災の意識が高い ・住環境が整っている(病院、スーパー、食事所、文化施設など) ・地域の広報誌が充実している ・災害が少ない ・コミュニティーセンターがある
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションの住人等地区のコミュニケーションが少ない ・サロン等への男性の参加が少ない ・商店が減っている ・商業地域なので住宅地が少ない ・危険箇所がある(宮前川処理場附近) ・災害のとき集合場所が少ないので遠くていけない(高齢者等) ・独居高齢者や高齢者のみ世帯の増加 ・後継者や担い手不足 ・空き家が増加している ・一部地域によっては住居からスーパー等が遠く、高齢者等の買い物が不便
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・中心地のためマンションが多く、住民間の交流が少ない ・オートロックマンションや外出しない高齢者の安否確認が難しい ・緊急連絡先になりたくない家族等、身寄りの無い高齢者がいる ・関わってほしくない独居高齢者がいる ・見守りの対象とならない高齢者夫婦が心配 ・日中独居や近くに家族がいる高齢者の安否確認 ・高齢者や子ども等はフライブルク通りを渡るための地下道が利用しづらい(体力面・防犯面)

新玉地区社会福祉協議会 新玉に 笑顔の福祉 広げよう

構成団体	地区民協・公民館・自治連合会・まちづくり協議会・食生活推進協議会・高齢クラブ連合会 青少年健全育成連絡協議会・交通安全協会・ボーイスカウト・小学校・中学校
------	--

主な取り組み	活動内容
れんげ草まつり	毎年4月に地区の畑をお借りして、新小学1年生と高齢者など地域の方が集まり、沢山のれんげの花に囲まれ、かんむりや首飾りなどを作り、交流を深めています。
ふれあい料理教室	年に5回、地域の高齢者と一緒に調理し、食事やゲームなどで交流を図っています。
福祉講座や研修会の開催	高齢者の生活に関するテーマに沿った講演を年2回実施しています。また、福祉施設等への見学を1日研修として行っています。

年末独居高齢者訪問(12月)

年末にボーイスカウトと一緒に独居高齢者を訪問しています。地域の小中学生が祖父母に宛てた敬老作文「おじいさんおばあさんお元気ですか」(冊子)と、ボーイスカウト手作りのプレゼントを配布しています。毎年の訪問を高齢者はとても楽しみにしています。



<地区社協が目指すもの>

JR松山駅周辺では開発が進んでおり、地区の環境や景観も大きく変わっています。JR予讃線の高架化事業は令和6年秋には完了し、東西交通の安全性と利便性が向上して、今よりもっと住みやすくなります。今後、駅周辺の開発が進むと人の交流や人口増加も予想され、益々魅力ある地域へと変化する事でしょう。地区には、文化とスポーツの拠点となる松山市総合コミュニティセンターがあります。また、憩いの場でもある松山総合公園にも隣接した地域です。地区社協は「新玉に 笑顔の福祉 広げよう」の理念のもと心豊かな地域を目指します。

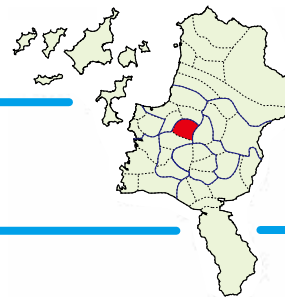
地区の状況	■地区民協	25名 2名	■町内会・自治会・区長会等	24団体
	民生委員		■高齢クラブ	5クラブ
	主任児童委員		■子ども会	9団体
	■まち協の設立	平成27年度	■自主防災組織	4組織

松山の玄関口となるJR松山駅があり、そこを拠点とし市内各地へと移動できる交通の利便性が良い地区です。マンションが立ち並び住民間の交流が少ないことや、高齢者世帯が増加し空き家が目立つなど課題を抱えていますが、各団体の組織力と地域住民相互の連携によって日々の暮らしが展開されています。「年末独居高齢者訪問」は、独居高齢者にとって地域の一員であることを確認できる機会であると共に子どもたちにとっては毎年、敬老作文を書くことで年長者を敬う気持ちや他者を思いやる豊かな心の醸成につながっています。また、子どもの遊び場も充実しており、子育て世帯にとっても「子どもの健やかな成長を育む」には最適の環境といえるでしょう。



しみず 清水地区

人口: 22,556人 (高齢化率26.5%)
世帯数: 13,359世帯

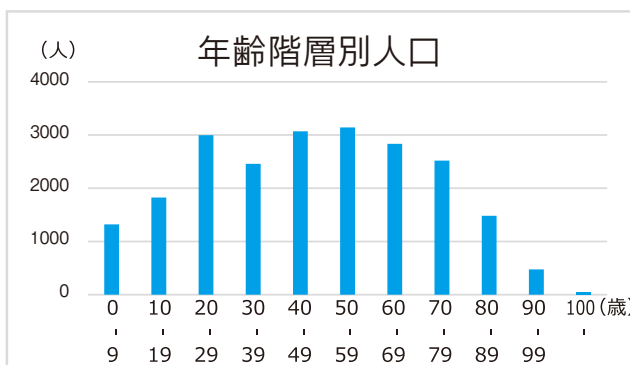


【地区の特色】

清水地区は、六つの小・中・高・大学がバランス良く配置された文教地区であり、加えて松山城の築城最高責任者であった足立重信の墓所、そして日露戦争で捕虜となったロシア兵を温かく迎えこの地で亡くなられた方を手厚く葬っているロシア兵墓地がある。放浪の俳人山頭火の終の住処となった一草庵を始め、由緒ある神社仏閣等の文化遺産も数多くあり、まさに躍動する新しい町と歴史の町がうまく融和し発展している地区である。



一草庵



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・いきがい交流センターしみずに拠点があるため民生委員・児童委員や地域包括支援センターとのつながりが強い ・清水公民館や清水ふれあいセンターの催し物が多く地域の人に参加しやすい ・小、中学生の登下校の見守りができている ・水がきれい ・各組織の協力体制ができている ・自主防災意識が高い ・地域福祉サービス事業などの助け合い活動が盛ん ・空き家の改修が進んでいる ・ボランティア活動が活発 ・大学生の地域行事への参加 ・ゴミステーションの担当割等のルールが整備され、ゴミ出しのマナーが改善されている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションも多く隣人との付き合いが少なくなっている ・組織役員(町内会長等)の担い手不足 ・町内会の行事が少ない ・坂が多い区域がある ・交通の不便な区域がある ・一部地域にはスーパーがないところがある
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、独居高齢者の増加 → 住民の高齢化(地域でお世話する方の減少) ・短期居住者(大学生)との関係性が希薄 ・交通の不便な区域がある ・買い物に不便な地域がある ・移動スーパーの必要性が高まる ・認知症高齢者の対応 ・見守りが必要な世帯の増加 ・エリアによっては子どもの減少が見られる ・組織役員(担い手)不足 ・ゴミ出しが難しくなる ・働く場所が少なくなる

清水地区社会福祉協議会 ささえ合う 福祉のまちや 清水の輪

<拠点> 松山市清水町3丁目15番地 清水小学校北校舎2階 TEL / FAX:089-916-9179

構成団体	地区民協・町内会連合会・公民館・高齢クラブ連合会・女性防火クラブ・PTA まちづくり協議会・自主防災組織・子ども会
-------------	--

主な取り組み	活動内容
ふれあい教室(7教室)	60歳以上の方を対象とした趣味活動の場であり、交流を通じて住民同士の助け合い活動に繋がっています。(コーラス、絵手紙、書道、太極拳、茶道、英会話、フォークダンス)
地域住民と小学生との交流	一緒に給食を食べたり、もちつきや昔の遊びを“地域の名人”の高齢者に学んだりして小学校の各学年との交流を促しています。
福祉講座の開催	頭や身体を使った体操やワークショップを取り入れるなど、年2回テーマを話し合っ開催しており、福祉だよりにて周知啓発しています。

しみず祭(4月)

毎年4月の第3日曜日に、いきがい交流センターしみず及び清水小学校を会場として「しみず祭」が開催されています。ふれあい教室の発表やうどん、おはぎ、コーヒーなどの提供、高齢者と子どもたちによるステージ発表など関係団体・地域の皆さんのご協力もあり、毎年500名を超える来場者が交流を深めています。



<地区社協が目指すもの>

清水地区は他地区同様、今後想定される少子高齢化・人口減少を最優先課題として捉え、地区内の各種団体との連携を図り、地区の特性でもある学生が多く住む街、新興のマンションや集合住宅の増加という問題に対し、住民同士の連携、コミュニケーションの強化を真剣に考えていきます。そして「歴史と文化と自然のまち清水」に住んで良かったと言える地域づくりを目指し、「いきがい交流センターしみず」に拠点を置く清水地区社会福祉協議会が、地域の交流の場・コミュニティの場となることを願います。

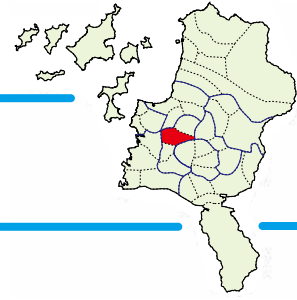
地区の状況	■地区民協	48名 3名	■町内会・自治会・区長会等	88団体
	民生委員		■高齢クラブ	5クラブ
	主任児童委員		■子ども会	4団体
	■まち協の設立	平成27年度	■自主防災組織	36組織

清水地区は小学校、中学校、高校、大学など多くの教育施設が立ち並ぶ文教地区です。そのため学生層の住民が多く今後の人口減少や高齢化を鑑み彼らを巻き込みながら地域福祉活動を推進していくことが重要といえるでしょう。そうした観点から考えると「しみず祭(4月)」は、地域住民や関係団体が連携して開催することで、これらの活動を通して若い世代が地域の文化を理解し、また世代を超えた相互理解の場であり人間関係の形成の場ともなっていることでしょう。「しみず祭(4月)」を含めた様々な活動を維持し発展させることにより、地域住民の連帯や地域のアイデンティティを醸成することにもなるでしょう。



味酒地区

人口: 20,625人(高齢化率26.6%)
世帯数: 11,970世帯

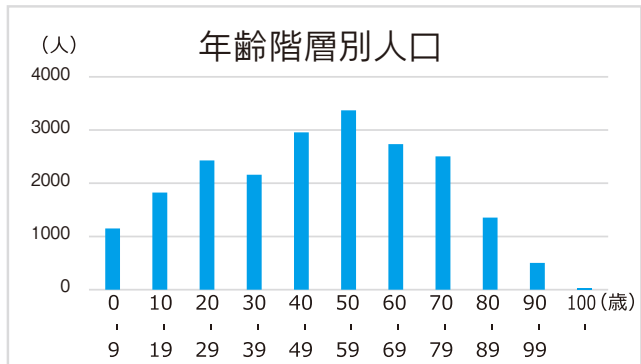


【地区の特色】

味酒地区は、十五万石の城下松山の西部にあつて城下町として栄えた地区であり、数多くの文化財や史跡が残っている。代表的なものとしては、全国に名の知れた俳人 栗田樗堂(くりた ちよど)が寛政十二年に建てた庚申庵がある。ここで樗堂は松山の俳人と句作を楽しんだとされている。なお、この庵は平成15年5月に改修整備を終え、史跡庭園として現在開園している。



大嶺ヶ台(西山)



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・病院、福祉施設、生活関連施設が充分あり自然豊かで生活しやすい地域 ・陸海空交通の便が良い ・水がよい ・災害が少ない ・教育機関(小、中)の活動が活発で、遊び場や子どもの数も多く地域に元気がある ・児童の見守りができている(校庭にある児童クラブが大きい) ・青パト活動等地域の団結力が強い ・寺などの地域資源や物知りが多く、人の繋がりのある地区
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会員数が少ない→ゴミ出しについて善意の協力をしてくれる人がほしい ・交通量が多い、道が狭い、坂が多い ・バスの路線変更、市内電車路線の廃止、電車の本数が少ない等の問題がある ・マンションが多く建ち、近隣者のお付き合いが希薄 ・町内会に入る人が少ない ・独居高齢者の存在が明確でない
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者増 ・転入者が多く、地域コミュニケーションが取りにくい ・経済的な支援を必要とする人が増えてきた ・空家が多い ・防災防犯に課題がある ・地域の団結を強めていくためのリーダー育成が必要 ・避難所が少ない(見直しが必要) ・経済的に厳しい家庭が増える ・味酒小学校を中心に東方面に集会所があればよい

味酒地区社会福祉協議会

ささえ合い 心をつなぐ

うまざけ
味酒の

和・話・輪

<拠点> 松山市若草町8番地2 松山市総合福祉センター内3F

構成団体	地区民協・公民館・高齢クラブ連合会・町内会連合会
主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回14,000部を作成し、地域福祉に関する情報や地区の貴重な人材についての紹介などを掲載し、回覧板にて全戸配布しています。
味酒小学校で敬老会	75歳以上の高齢者を対象に5月に開催し、お弁当を食べながら演芸発表などを楽しみ交流を深めています。
サロン活動の支援	いきいきサロン4カ所、緩和型サロン2カ所の支援を継続して実施し、介護予防や住民の交流の場の促進に努めています。

福祉講座の開催

地域住民の生活に関するテーマを設定し、年3回実施しています。「特殊詐欺の被害に遭わないために」「くすりと健康」「DV、児童虐待、気づいてつなぐ!」など時代に沿ったテーマを住民の視点から取り入れています。



<地区社協が目指すもの>

味酒地区社協は、今までの実践を大切にしながら、新しく天災地変時に生じやすい大峰ヶ台山麓、宮前川両所の再度点検と避難所への誘導方法について検討し今後盛り込んでいく予定です。また、地域での福祉活動が絵に描いたもちにならないよう、一緒にスクラムを組み取り組んでくれる人材の確保に努めなければならないと考えます。そのためにも福祉だよりの発行や福祉講座等を利用し、公民館、まちづくり協議会、町内会連合会、高齢クラブ、学校、その他地区内の関係団体との協力関係を築き、人間同志の心と心を密にする事こそを活動の最大の目標とします。

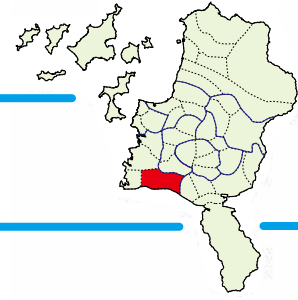
地区の状況	■地区民協	40名 3名	■町内会・自治会・区長会等	62団体
	民生委員		■高齢クラブ	6クラブ
	主任児童委員		■子ども会	2団体
	■まち協の設立	平成28年度	■自主防災組織	24組織

かやまち商店街をはじめとした商業施設が立ち並ぶ一方で、医療・福祉関係施設が充実しており市内中心部に近いことから、地域住民の多様な生活パターン(ライフスタイル)が混在しているため支え合いのかたちも多様な活動が求められる地区です。「福祉講座の開催」は、地域住民の生活に関するテーマで開催し、年代・性別・職種を問わず「共に暮らす」なかで課題となる項目が選定されています。また転入者が多く地域コミュニケーションがとりにくいことが課題としてありますが、「防犯・防災」は、地域住民にとって共通課題であるためこのようなテーマを切り口に、子育て世代を含めた多世代との交流を展開してみるとさらに良いでしょう。



よと 余土地区

人口: 23,757人(高齢化率26.0%)
世帯数: 10,913世帯

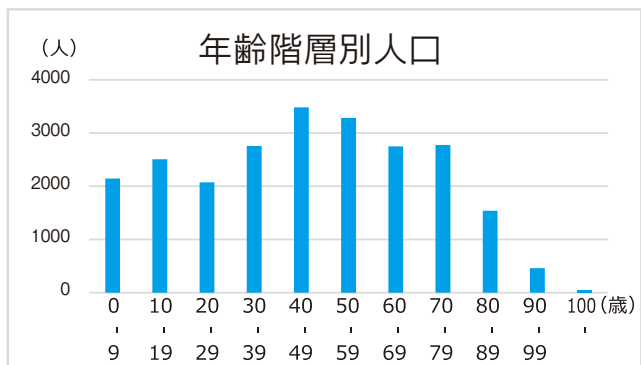


【地区の特色】

余土地区は、余土・保免・市坪の3つの町からなり、石手川と重信川が合流する地域に位置している。昔から農業の大変盛んな農村地であったが、近年は国道56号線を中心に住宅や店舗が建ち、他の地域からの転居者も増え、人口は松山市の上位にランクされるようになった。また、松山中央公園には「坊っちゃんスタジアム」や「県武道館」など大型公共施設が集中しており、今後の町の活性化がますます期待されている。



松山中央公園と眼下に流れる石手川



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が小さい(地理的) ・交通の利便性が高い(電車、バス、空港、高速道路近く) ・地区社協拠点がある ・高齢者、障がい者の施設が充実 ・移動スーパーが来る ・まちづくり協議会が充実(人づくり) ・街灯が多く夜明るい ・警察と連携した見守り活動 ・公民館のスポーツ大会の充実(ソフトボール、グラウンドゴルフ、ペタンクなど) ・中央公園ができてスポーツ関係が充実し、町が明るくなってきた ・中央公園地域の散歩、ジョギングの利用増大 ・地区の見守りがあり、繋がりが強い ・地域活動に中心になる人が多い ・新しい宅地に若い人が頑張っている ・小中学校に防災ベンチ ・県武道館の避難所指定
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・マンション、コーポの増加で人間関係が希薄になっている ・道路建設により地域が分断されている(余戸南) ・空き家が多い(管理の問題) ・役員の担い手が少ない ・各団体は利用者が限定される ・水害時の心配(避難場所が少ないうえに遠い、道が狭い) ・屋外で運動する場所が少ない ・駅やバス停が遠い ・公民館にも防災ベンチが欲しい ・歩道が整備されていないので車いすが押しにくい ・電動車いすも通りづらく買い物が不便(高齢者が不便) ・買い物に不便な地域がある ・地区内の愛護班の繋がりが薄くなった
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により活動が難しい ・子ども会活動の停滞 ・住宅化が進み近所付き合いが希薄になっている ・高齢者世帯が増加し空き家も増加 ・近所のコミュニケーションがとりにくい ・歩道の整備・郵便ポストが少ない ・分譲住宅は同年代が多く一気に高齢化する恐れがある ・災害時の高齢者の避難(防災士との連携) ・移動が不便なのでちよいソコを検討中 ・ループバスがない ・自転車のマナーが悪い

余土地区社会福祉協議会

助け合い 笑顔が輪になる 余土のまち

〈拠点〉 松山市余戸東4-4-34(余土公民館内)

構成団体	地区民協・議員・公民館・中学校・小学校・消防分団・交通安全協会・交番・農協・町内会連合会 高齢クラブ・保育園・母子福祉会・地域包括支援センター・自主防災連合会
-------------	--

主な取り組み	活動内容
災害マップの作成	平成23年度から独居・寝たきり・障がい者の支援を目的に地区民協と連携して作成し各町単位で更新しながら活用しています。
福祉学習の推進	公民館と共催し、地域にある公民館・分館3か所で年2回ずつテーマ性に富んだ福祉学習事業を行っています。
福祉用具の貸し出し	短期の旅行や病院受診などの際に介助が必要な方を対象に、車いす2台の貸し出しを行っています。

拠点を活かした取り組み

余土公民館、まちづくり協議会、地区社協が入る拠点の機能を活かして、様々な連携・協働事業を行っています。
松山市が定めた「まつやま子どもの日」にちなんだ子ども夏フェスやクリスマス会、余土地区総合文化祭など住民みんなが楽しめる参加型イベントを開催しています。



〈地区社協が目指すもの〉

余土地区社協では平成29年にかねてから念願であった活動拠点を余土公民館の中に設けることができました。また隣接には子育て関連の施設も入り分野を超えた連携が期待されています。

今後、地域内の問題がますます複雑になっていくこととは思いますが、関係する様々な団体が互いに連携し、それぞれの特徴を活かした地域福祉活動を展開することが重要であると考えます。拠点を活かした取り組みを重ねながら、少しでも地域の活性化に貢献したいと考えております。

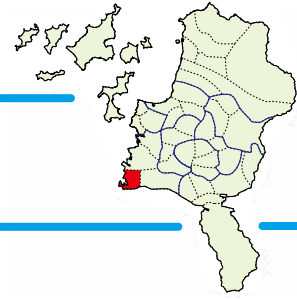
地区の状況	■地区民協	34名 2名	■町内会・自治会・区長会等	54団体
	民生委員		■高齢クラブ	9クラブ
	主任児童委員		■子ども会	14団体
	■まち協の設立	平成21年度	■自主防災組織	8組織

地区の特徴は、地区社協構成団体が多いこと、また他団体との連携・協働を可能としている活動拠点にあるといえます。それは、地区社協の活動拠点が公民館内に設けられたことで、地域内の関係団体との連携強化により活動の幅が広がっていることです。特に子育て世代向けの参加型イベントを通して、子ども達の地域への愛着形成が図られているといえます。また、災害対策として、単位地区ごとに災害マップを作成し、助け合いができる仕組みを構築しています。これらの取り組みから、新たな地域福祉活動が展開されることが期待できる地域だといえるでしょう。



はぶ 垣生地区

人口: 12,060人(高齢化率24.0%)
世帯数: 5,219世帯



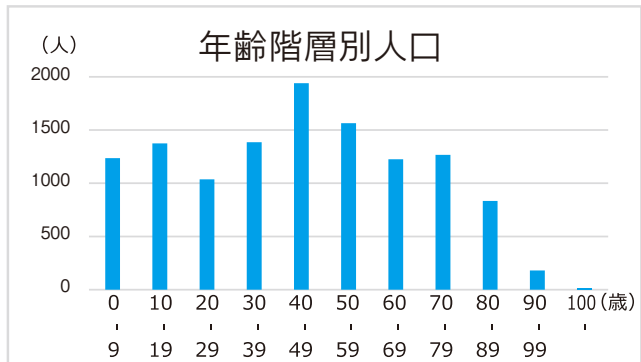
【地区の特色】

松山市の西南端に位置する垣生地区は、南に重信川河口、美しい夕日の落ちる風光明媚な所、年間を通して3,000羽の渡り鳥が羽根を休める。半農半漁のこの町も時代の流れと共に企業や会社人口も増しているが、新旧住民の意志疎通は図られている。

また、地区住民の幸せを願って西国33霊場のお地藏様が町の角々に建てられているのもこの地域ならではの特色であり、伊予絃の発案者で有名な鍵谷力ナの生誕の地でもある。



重信川河口から見る夕日



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・防災関連の活動が活発(防災士、自主防災会、女性防火クラブなど) ・俳句の里としての歴史が残っている ・サロン活動が活発 ・子どもの見守り ・夏祭り盆踊り大会 ・医療機関が多い ・生活関連施設に恵まれ生活しやすい ・公園、グラウンドが多い ・保育園、幼稚園、小中学校が地域に溶け込んでいる ・町内会行事の参加者が多い ・ループバス便が15分~30分毎にある ・自然が残っている ・公共機関が地区の中央にある ・歴史が豊か ・人口が増加している ・児童が増えている ・道路が広い(東垣生) ・空港が見える公園
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅が多いので連絡が取りにくくなった ・若者が町内会に加入しない ・団体数が多く連携が難しい ・人口の増加により、新旧住民との関係がうまくいかない ・地域色が強すぎる ・交通の便が悪い(高齢者は特に不便) ・西垣生は生活道路が狭く空き家が多い ・街灯や外灯が少なく暗い場所が多い ・西垣生の道が狭く収集車が入らない ・市営墓地の駐車場が無く路駐が多い ・ごみステーションの問題(ルールを守らない人がいる) ・中心部の道路が狭い ・地域住民が集まれる複合型コミュニティ施設がない ・公民館が古くなっている(駐車場がない、エレベーターがない)
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者は個人からの申請がないので把握できない ・災害時の高齢者のための避難施設の整備が必要 ・老老介護の方が増えている ・道が狭く救急車が入りづらい(西垣生町内) ・ループバスが南北にもあればよい ・高齢者と若者で地域への関わり方の意識に差がある ・独居の認知症高齢者を地域で支える方法 ・空港整備で町のつながりが変化してきた ・住所標記ができていない ・地域の繋がりが希薄 ・地区内の幼稚園と保育園に入れにくい

垣生地区社会福祉協議会

構成団体	共同募金会・地区民協・公民館・分館・PTA・更生保護女性会・町内会連盟 女性防火クラブ・高齢クラブ連合会・協議会・防犯協会・レディースネットワーク
------	--

主な取り組み	活動内容
特別支援学級児童との交流行事	小学校の特別支援学級に通う児童との交流行事を開催し、りんご狩りなどの学外活動を中心に社会体験の提供に努めています。
高齢者・児童の見守り	地区民協と協力して、独居高齢者宅を毎月訪問し安否確認等を行っています。また、小・中学校と連携し夏休み・冬休みのパトロールを行っています。
ひとり親世帯の支援	毎月第3土曜日に親子カフェを開催し、食事の提供と交流を実施しています。

かぎ や さい 鍵谷祭

伊予かすりを考案した鍵谷カナの命日である5月28日にあわせ垣生地区で行われている「鍵谷祭」において、公民館と連携してもちつきや販売、サロン作品の展示などを行っています。伝統文化を次世代に伝えるため、地区社協として支援しています。



<地区社協が目指すもの>

垣生地区は、伊予^{せいげつ}紘の考案者鍵谷カナや俳人村上^{はきょう}霽月・石田波郷を生んだ伝統と文化溢れる地です。現在は、若い世代のUターンや農地の宅地化に伴い新しく移り住む人も多くいます。一方で高齢者も増加しており、世代を超えた交流或いは新旧住民が一体となった活動が必要です。地域住民交流の場として、まちづくり協議会が検討している複合型施設の整備が必要であり、地区社協として協力しています。今後も地域の関係団体と連携し、地域の実情に応じた福祉活動を展開して、「みんなで作ろう！笑顔でつなぐ垣生のまち」の実現を目指します。

地区の状況	■地区民協	16名 2名	■町内会・自治会・区長会等	53団体
	民生委員		■高齢クラブ	0クラブ
	主任児童委員		■子ども会	15団体
	■まち協の設立	平成26年度	■自主防災組織	33組織

Uターンで戻ってくる若い世代が多く、また農地の住宅地化に伴い人口が増加傾向にあります。そのため、地域行事への参加者も多く、地域活動に興味・関心の高い地区と言えるでしょう。また、地区社協の構成団体も多様で、関係機関と連携・協働した活動が展開されています。例えば高齢者・児童の見守り活動、ひとり親世帯への支援としての親子カフェ、食事の提供と交流などがあります。さらに、鍵谷祭を通して、地域住民に伝統文化が継承されるなど、これらの取り組みから新しい形でのつながりが期待できる地域だといえるでしょう。

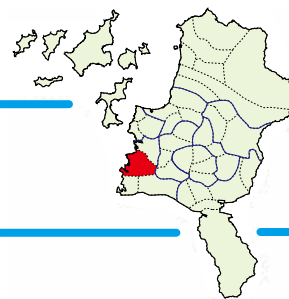


しょう せき

生石地区

人口: 18,899人(高齢化率26.7%)

世帯数: 8,788世帯

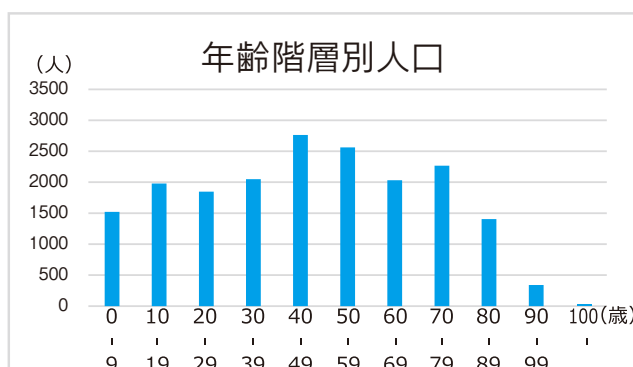


【地区の特色】

生石地区は、松山市の西部、瀬戸内海に面した位置にあり、自然と緑豊かな垣生山を中心に、伊予節で有名な吉田挿桃(さしもも)を初め、生石八幡神社・金刀比羅神社等、数多くの史跡が残っている。かつては、大根・ラッキョウ・さつまいも等の野菜栽培が主な産業の田舎であった。戦後は、(株)帝人を始め次々と企業が進出し、旧軍滑走路は松山空港となり、周辺の整備事業も進み、国際化へ向って愛媛の空の玄関として大きく変わってきている。



愛媛の空の玄関、松山空港



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会と連携した活動 ・防災訓練に熱心 ・陸海空の交通が至便。空港があり県外へのアクセスが良好 ・買い物などスーパーが多く便利 ・避難所が多い ・企業OBが協力的 ・公園で子どもたちがよく遊んでいる ・住民によって垣生山の整備活動が行われている ・公民館活動が盛んでコミュニケーションが取れている ・保育園と地域住民の交流がある ・子どもたちがよく挨拶する児童数市内No.1 ・子ども見守り隊の見守り員が多い ・自然に恵まれている ・山側を歩くと空気がキレイ ・健康意識が高い
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポなど自治会にも入らない人達とのコミュニケーションが取りにくい ・若い人の地域行事参加が少ない ・土石流の心配がある ・信号の時間が短いところがある ・脇道が狭く車の量が多い ・交通量が多い ・バスの遅延(朝・夕) ・時間によって交通混雑、渋滞がある ・地域によるゴミ出しの分別が守られていない ・公園の利用マナーが悪いところもある
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法により、個人情報が出ないので把握できない事が多い ・独居世帯が増加(日常生活への支援が必要) ・高齢者が話し相手をほしがっている ・賃貸マンションの住民との交流 ・スーパーが多くなり、小売店が少なくなる(高齢者の買い物が不便) ・役員の担い手不足・行事を行うにも他人事 ・住民同士の関わりが希薄になる

生石地区社会福祉協議会

つないだ手 温もり伝わる 生石の輪

構成団体	地区民協・町内会長・区長・自治会長
------	-------------------

主な取り組み	活動内容
地域住民の生活支援 (地域福祉サービス事業)	ゴミ出しや買い物支援等、高齢者の生活を地域住民の手で支えようと、協力会員、民生委員・児童委員、みまもり員が簡易な生活援助を行っています。
生石小学校における 福祉学習	福祉学習の一環として、障がいのある人や高齢者の生活への理解促進を目的に車いすや点字、高齢者擬似体験の活動を支援しています。
高齢者福祉講座	まちづくり協議会と連携し、主に高齢者を対象とした福祉講座を開催しています。高齢者が身近に感じる事をテーマに取り上げています。

お一人住いの皆様と共に

独居高齢者を対象に、交流と慰労を目的とした催しを行っています。保育園児による劇や中学生によるコーラスなど、様々な関係機関と連携して絆と思いやりの種まきを行っています。

平成元年から続く活動で現在までに30回開催しております。



<地区社協が目指すもの>

地域社会の変化と多様化、例えば新旧住民の関係、地域への愛着度、少子高齢化、防災など課題山積のなか、これまでの行事・活動を漫然と続けていては活性化は望めません。まずは地区まちづくり協議会、その構成組織・団体との連携強化と交流に努めます。すでに高齢者健康福祉講座、認知症サポーター養成講座、防災訓練、災害時要援護者対策で実績を積み、意見交換を始めている分野もあるため、この流れを地道に継続し、拡大・普遍化する先に「助け合う社会」「安全安心の暮らし」「地域文化の継承」などの展望が開けてくると考えています。

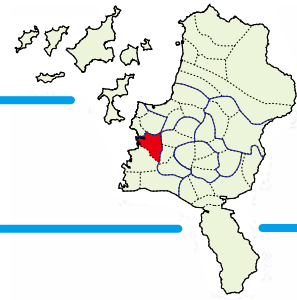
地区の状況	■地区民協	25名 2名	■町内会・自治会・区長会等	9団体
	民生委員		■高齢クラブ	7クラブ
	主任児童委員		■子ども会	7団体
	■まち協の設立	平成26年度	■自主防災組織	16組織

児童が市内でも多く在住し、交通や生活の利便性が高い地区です。そのため、子どもに対する活動が中心となっています。地区社協が目指す「絆と思いやりの種まき」を具現化する試みとして独居高齢者を対象に子どもを含めた交流会、地域住民による地域福祉サービス事業の展開、子ども向け福祉学習や福祉講座を開催しています。これらの活動は、子どもの地域愛着形成につながり福祉教育の充実に向けた実践といえるでしょう。



みぶ 味生地区

人口: 27,055人(高齢化率26.1%)
世帯数: 12,676世帯

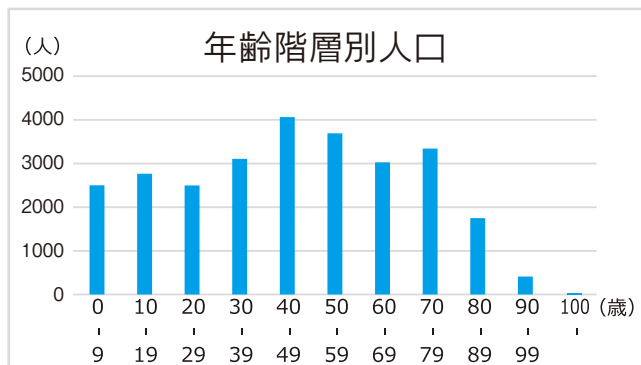


【地区の特色】

味生地区は、松山市の南西部に位置し、南斎院・空港通・北斎院・別府・清住・大可賀・山西の各町から成る静かな住宅地域である。松山市の空の玄関口である「松山空港」に隣接するとともに、貿易促進地区 (FAZ愛媛) の指定に伴い、西部の海岸地帯は近代化学工業が立地する臨海工業地帯である。また、古くから神社・寺院も多く、味生地区の史跡(古照遺跡)を展示する考古館や小・中・高校を地区内に有する文化と教育の地域である。



南斎院町の長屋門



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会がある ・自主防災が各地区で整備されている ・人が穏やか ・面倒見が良い人が多い ・生活がしやすい ・病院が多い ・バスの便が良い(南斎院) ・電車(山西)が通っている ・文化財が多い ・子ども見守り隊の活動が活発 ・自活力が強い ・社会福祉法人(施設等)との交流が盛ん ・若い人たちの居住が増えた ・教育関連施設が充実 ・町内会長がしっかりしている ・賃貸住宅多数、分譲地多数→毎月人口増加 ・子ども会が充実(味生小・味生第二小1,300人) ・コミュニティースクールができた(味生小・味生第二小・津田中) ・レクバレーチーム数20以上 ・ソフトボール、卓球、グラウンドゴルフも盛ん ・地域活動への参加多数 ・医療福祉が充実 ・公民館に賞状とトロフィー多数 ・松山市民体育祭で上位 ・喫茶店が通い場になっている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動のPR不足 ・福祉学習へ新たな参加者を増やすための呼びかけ方法 ・坂道が危険(軽井沢団地、津田団地) ・ふれあいセンター前の道がせまい ・真情橋(まごころばし)の道路に歩道が必要 ・郵便局ポストが少ない ・新旧住民問題 ・山西地区は大雨台風時に浸水の恐れあり ・川が危ないところがある ・東西の道路が狭い ・一部マナーが悪い(ゴミ、犬のフン)人がいる ・ゴミ出し ・近所付き合いが希薄化 ・空き家問題がある ・共同募金を集めるのが難しい ・児童クラブがパンク ・子ども会の役員会が担い手不足 ・農家が減っている(保水力が心配)
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多くなり地域の役員の担い手がなくなる(仕掛け人が不足) ・高齢者の増加による支援(ゴミ出しなどの生活関連) ・障がい者の把握がよくできていない ・高齢者に対する理解不足 ・独居高齢者の居場所→安心して本音を話せる場所が必要 ・空き家問題 ・ゴミ出しのマナーが徹底されていない ・近隣付き合いの希薄化 ・高齢者と若い世代とのコミュニケーションが少ない ・公共の行事(市民大清掃など)の参加者が少ない(町内による) ・児童クラブ問題(第二小が溢れている) ・子ども食堂の安定的な運営

味生地区社会福祉協議会

まごころ
真情で 仲間とはぐくむ 味生のまち つなぐ

構成団体	地区民協・広報委員・町内会長連絡協議会・公民館・まちづくり協議会 自主防災連合会・支所・PTA・食生活推進協議会・高齢クラブ連合会・小学校・中学校 保健推進協力会・保育園・地域包括支援センター・少年警察ボランティア協会
------	---

主な取り組み	活動内容
全国方言ラジオ体操	「食べて笑って体操で味生を元気に」を合言葉に集い場づくりを目指し、味生地区公園を巡っています。
ふれあい教室	手芸教室や、地域包括支援センターを交えた健康教室を定期的に開催しています。
小学生から高齢者へのメッセージカード	一人暮らしの高齢者を対象に、小学生がつくったメッセージカードを持って民生委員が訪問しています。

味生福祉のつどい

地域のサロンや学校、障がい者施設、地域包括支援センターなど様々な関係機関や団体が協働し、福祉啓発を目的としたつどいを開催しています。サロンによる作品発表会や健康相談などを実施しており毎回、大勢の方が来場されます。



<地区社協が目指すもの>

「あなたの笑顔はまちの笑顔」を合言葉に、地域の皆さんが明るく楽しく元気よく生活できるよう支援活動の輪を広げ地域福祉の向上をめざします。

1、まちづくり協議会など関係組織との連携を強化し、多くの課題をより効果的に解決するよう取り組みます。 2、地域のニーズを的確に把握し事業内容や予算に反映させます。 3、高齢者・子育て世代・障がい者の方々の方々の日常生活での困りごとのお手伝いを支援する地域福祉サービス事業の充実・強化に取り組みます。

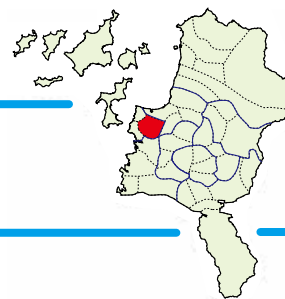
地区の状況	■地区民協	38名 2名	■町内会・自治会・区長会等	32団体
	民生委員		■高齢クラブ	4クラブ
	主任児童委員		■子ども会	31団体
	■まち協の設立	平成30年度	■自主防災組織	33組織

地区社協構成団体や子ども会の数が多い地区です。そのため、地区社協や関係団体の取り組みも子どもに焦点をあてたもの、もしくは子どもと協働しながら活動するものが多くを占め、新旧の子育て世代の住民が地域に馴染みやすい環境であるといえます。また具体的取り組みの一つ「味生福祉のつどい」は、関係機関の連携強化、生活課題の解決に向けた協働実践が形成される場となっており、今後は地域福祉サービス事業の充実や強化につながる取り組みが期待できるでしょう。



みや まえ 宮前地区

人口: 14,213人(高齢化率33.3%)
世帯数: 7,096世帯

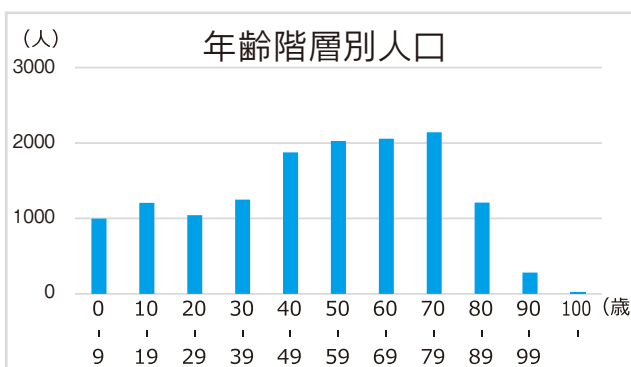


【地区の特色】

宮前地区は、松山市の北西部に位置し、松山の海の玄関である三津浜・高浜地区に隣接している。以前は農業を中心とした地区であったが、近年は商業施設や宅地の造成等が進んでいる。また、文楽「伊予源之丞」や虎舞といった郷土芸能、文化財史跡の保存にも力を入れ、あらゆる活動を通して明るく住みよいまちづくりを推進している。



郷土芸能文化祭



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校のグラウンドにて防災訓練を行い、避難経路の確認や炊き出し訓練を行っている ・新しい家、若い世代も増えて、一部では子ども会も復活し、三世代交流が行われている ・高齢クラブやグラウンドゴルフ愛好者などが、利用する公園や地域の美化に努めている ・公民館が中心となって、伝統芸能の伝承活動の支援、サークル活動の発表や個人の作品の展示会など、各種の文化活動が盛んである ・交通機関、医療福祉施設、生活関連施設、教育施設等も充実しており、住みやすい ・様々な団体との連携、協力体制がよく、役員OBとの連携も継続している ・三津教会の子ども食堂(フードバンク) ・75歳以上の高齢者の把握(約2,500人訪問) ・内浜町で子どもと地域の人がラジオ体操をする(夏休み)
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤の低い一部の地区や道路の狭い地区では、災害など緊急時の避難体制に不安がある ・要援護者の把握と支援体制が不十分で、地域防災との連携強化が必要である ・町内会加入世帯の減少に伴い、近隣との関係が希薄な地域もある ・各団体のリーダーの高齢化が進み、次世代リーダーの育成が遅れている ・災害時一斉連絡の手段がない ・子ども会が減っている ・祓川町の町内放送のスピーカーを危険があったため撤去されたので、災害時に困る ・高齢者の情報弱者多い(IT化やスマホの普及)
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年々高齢者が増加し、独居高齢者・高齢者世帯の対策が必要 ・増加する高齢者、要支援者の把握 ・介護が必要にならないようにするための対策(健康寿命の促進方策) ・近所づきあいの希薄化、地域コミュニティ不足への対応 ・ひとり親世帯や障がい者の実態把握と支援体制 ・高齢者で耳のとおい方の電話対応が難しい ・民生委員が訪問すると嫌がられ、氏名を名乗れと言われる

宮前地区社会福祉協議会

次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく

構成団体	地区民協・公民館・PTA・母子会・保護司会・婦人会・高齢クラブ連合会・支所 中学校・小学校・広報連絡協議会・サロン(緩和型含む)代表者・子ども会連合会
------	--

主な取り組み	活動内容
3地区合同施設訪問	毎年、三津浜・高浜・宮前地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。
高齢者の見守り活動	民協会と協働して75歳以上の高齢者や寝たきり・独居高齢者を訪問して品物を贈り、現況を確認するなど見守り活動を行っています。
地域団体との連携	地域で活動している様々な団体に助成を行うとともに、情報共有して連携した活動が強化されるよう取り組んでいます。

福祉学習事業

宮前小学校のこどもたちが地域の高齢者や障がい者を招いて体験学習をしています。

見守りをしている独居高齢者に、暑中見舞いや年賀状、手作り作品を送っています。



<地区社協が目指すもの>

宮前地区社協は、基本理念を「次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく」とし、地区内の各団体や、小・中学校へ支援をし、福祉活動を推進しています。

宮前地区社協独自の活動に地区民協と協力し、75歳以上の高齢者を毎年9月に訪問し、敬老の記念品を渡し「悩み事相談」を行い現況の把握に努めています。

また、年間を通じて定期研修を行い地区の人達や各団体と連携して、健康寿命を延ばす活動を行い心豊かに安心して暮らし、次世代へつなぐ地域づくりを目指して行きます。

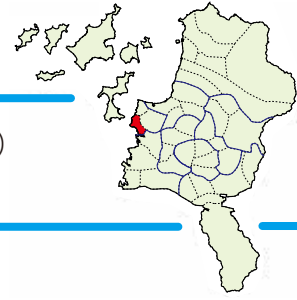
地区の状況	■地区民協	23名 2名	■町内会・自治会・区長会等	32団体
	民生委員		■高齢クラブ	3クラブ
	主任児童委員		■子ども会	20団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	30組織

交通至便、教育・医療・福祉施設も充実、転入者が多い地区で、子ども会復活の動きもみられます。様々な団体間の関係がよく、連携体制がとれていることが地区の特徴です。「次世代へつなぐ温かい地域」という理念を大切に、地区社協の活動が展開されています。世代間交流活動においては、新旧住民がなじみ、ともに地域の一員であることを実感できる機会を提供しています。高齢者(約2,500人)の訪問は、地区社協ならではの細やかな関係作りや現状把握の機会として貴重な取り組みです。子ども食堂(フードバンク)などの地域資源とも連携をとっていきことや、担い手を確保するための新たなスタイルを取り入れ、次世代につないでいくことが期待されます。



み つ はま 三津浜地区

人口:4,653人(高齢化率37.5%)
世帯数:2,532世帯

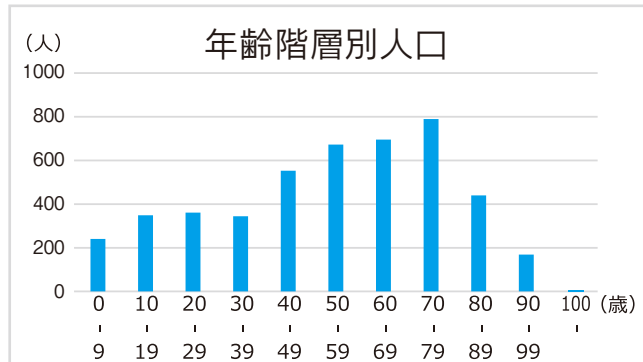


【地区の特色】

三津浜地区は、松山市の西部に位置し、南には松山空港、北には海の玄関口である松山観光港があり、それらの中間部に位置する。江戸時代から藩港として開け、明治以降海運や商業の町として栄えてきた地域である。地理的には宮前川と瀬戸内海に挟まれた海岸沿いの狭い地域に人が居住しており、コンパクトシティ的な町並みが形成されている。地域には三津と港山を結ぶ「渡し船」や古民家がある等昔の情緒が多々残っており、「花火大会」が開催される等近年町に賑わいがみられる。



瀬戸内海側から見た三津の街



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・街並みが古く、昔の雰囲気情緒が色々残っている地域である ・社会資源が豊富で、陸海空の交通アクセスが良く生活に便利 ・自然災害が少なく、安心して暮らせる地域である ・このような地域環境を背景に、近年三津浜地区への移住者が僅かではあるが増加傾向にあり、若者の挑戦・活躍に期待がかかる ・各種団体の役員がリーダーとなって地区の活性化に努めている ・渡し船、三津浜焼き等をアピールして地区の盛り上がり・活性化が期待できる
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のリーダー(役員・スタッフ等)として活動している人は高齢者が多く、一人が多くの役を引き受けている ・リーダーの交代が進んでおらず、若い人が力を発揮出来る環境整備が必要な状況にある ・住民どうしの交流の場が少なく、世代交流の機会も少ない ・空家・空き店舗が増加していて、近頃は安全管理上、老朽家屋の解体更地化が散見される ・狭い道路が多く危険で、一時停車も禁止区域が多く、外来者用駐車場の確保が難しく、車社会に合っていない ・戦災に合っていない為、区画や道路整備が出来ていないが、人口密集地であり整備が困難 ・少子高齢化がより進んでおり、町内会数38に対し、子ども会が減少している為、町内会の下部組織として一体運営が出来ない状況にある ・三津浜地区にあった古来伝統文化が伝承されず、一部途絶え消滅状態にある
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のゴミ出し、買い物、通院支援が必要であり、これらを行う手段の確保が必要 ・ヤングケアラー、引きこもり家族のいる家庭、一人親家族、老々介護世帯等に対する福祉サービス事業の多様化が進み、情報収集と対策支援が必要である ・高齢者と若い世代の交流が少ない ・自主防災組織の再建(今在る既存組織が十分に機能しておらず再構築が望まれる) ・団体の活動が縦割れしており連携が不十分。各団体が一堂に会する話し合いの場等が必要 ・個人情報保護法が壁になり、きめ細やかな福祉活動がその先へ進めない事が多々ある

三津浜地区社会福祉協議会

ふれ合いで、笑顔あふれる、三津の街

<拠点> 松山市住吉2丁目5番25号(ふれあいサロン三津浜内)

構成団体	地区民協・公民館・子ども会育成者連絡協議会・高齢クラブ連合会・広報部会 自主防災組織連合会・松山西交通安全協会三津浜支部・母子会・保護司会第9分区 中学校・小学校・PTA・婦人会・西地区少年警察ボランティア協会・まちづくり協議会
主な取り組み	活動内容
3地区合同施設訪問	毎年、宮前・高浜・三津浜地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。
三津浜地区敬老会	毎年敬老の日に、地区の社協とまち協が協働で80歳以上の高齢者約500人強を対象に敬老行事を実施しています。会場に参集して頂ける健康な高齢者のフレイル予防のため、式典や小・中学生、地域の方による余興等を楽しんで頂く様企画しています。
基金の有効利用	高齢者福祉、青少年の健全育成、地域交流促進等のために各種事業の実施に当り、善意の基金(兼清福祉基金)の有効利用に努めています。

伊予鉄三津駅前花壇整備

地域福祉サービス事業の一環として、年間を通じ三津浜地区の協力会員が三津の玄関口である伊予鉄三津駅前帯の環境美化のために水やりと花壇の清掃に取り組んでいます。



<地区社協が目指すもの>

三津浜地区では急速に少子高齢化と過疎化が進み、高齢化率は約38%で市街地では高い比率となっており、今後も上昇すると見込まれています。

このような状況下において、誰もが参加できるコミュニケーションの機会やふれあいの場をつくり、老いも若きも笑顔でふれあう機会を増やすことが高齢者のフレイルを予防して健康寿命を延ばし、若年層の情操教育にも有効であると考えています。

このため地区社協では更なる福祉向上に向け地域の各種団体が横に連携して、全世代を対象とした施策を積極的に講じることとしています。

地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	38団体
	民生委員	19名	■高齢クラブ	2クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	19団体
	■まち協の設立	平成22年度	■自主防災組織	29組織

港があり、海運や商業の街として栄えた昔の情緒が現在も町並みに残っています。渡し船、三津浜焼など、町のブランディング化により、移住者や訪問者が増え、地区に盛り上がりが見られます。地区社協では、年間を通じて三津駅前花壇整備を行い、住民や訪れる人の目を楽しませ、市内最大の花火大会においては、住民と中学生ボランティアが協力し、夏を盛り上げています。また高齢者が地域のリーダーとして活躍しており、健康寿命を延ばすことにつながっているといえます。一方で、既存の組織体制では地域団体の運営は困難になりつつあるという認識が住民にあることから、次世代育成、各種団体の横の連携、全世代を対象とした取り組みが期待されます。

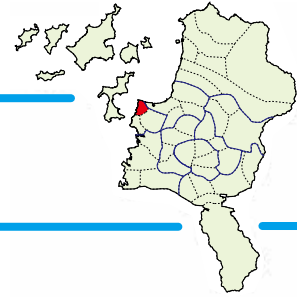


たか はま

高浜地区

人口:6,883人(高齢化率40.6%)

世帯数:3,516世帯

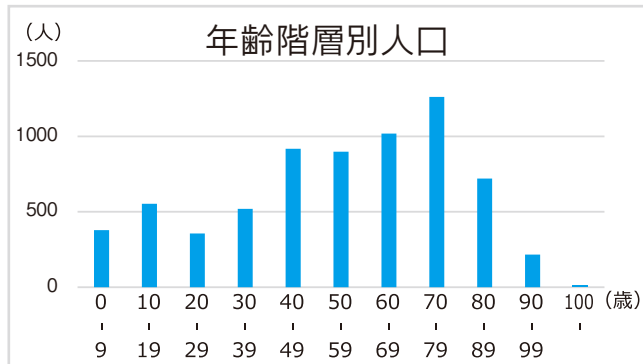


【地区の特色】

松山市の北に位置する高浜地区は、緑濃い山を背景に目の前には穏やかで美しい瀬戸の海を望む自然豊かな地区である。松山の海の玄関としての役割を持ち、文化財にも恵まれている。また、高浜は带状に長く、北から南まで5kmほどある。以前は農業と漁業のまちであったが、市内中心部にほど近いこともあり、最近では会社勤めの人が多くなってきている。



伊予鉄道梅津寺駅



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、子どもたちへの挨拶や声かけがとても良くできている ・地域行事への参加が多い(特に祭り好き) ・近隣住民の支援体制ができている ・隣近所の情報がよく分かっている ・タクシーを乗り合わせて買い物に行く近所づきあいがある ・U ターンして住む人や移住してくる若い世代(松ノ木・石風呂)もあり、住みやすく人気の地区である ・防災意識が高い(災害があったので) ・地区内に別荘地がある ・災害時の要援護者の把握ができている ・高浜地区の各種団体の連携がとれている ・食べ物(特に野菜)がおいしい ・移動スーパーが増えた
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会などへの参加者が少ない ・分館、集会所に駐車場がなく、行事への参加がしにくい ・スーパー、病院が少ない ・漁師の跡継ぎが少ない ・ループバスが通っているがバス停が少ないため、駅から離れた地域は交通手段に困る ・公民館の立地場所 ・幼稚園が無くなり小中学生の減少、更に子ども会に未加入が増え祭りができなくなった
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・南北に長いので生活状態が異なる ・地区内にスーパーがないため、買い物に不便 ・総合病院が遠いので不便 ・交通手段がないため、タクシーの利用頻度が高い(病院、買い物など)

高浜地区社会福祉協議会

海の高浜 福祉はひとつ

構成団体	地区民協・公民館・町内会連合会・まちづくり協議会・高齢クラブ連合会・保護司会 自主防災連合会交通安全協会高浜支部・警察協助手高浜支部 青少年健全育成連絡協議会・おやじの会・PTA・ノラねこ対策隊
-------------	---

主な取り組み	活動内容
3地区合同施設訪問	毎年、宮前・三津浜・高浜地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。
福祉学習事業への支援	毎年、小・中学生とその親を対象とした地引網や学校へ泊ろう大作戦、親子スポーツデーに助成し、活動を支援しています。
資源ごみの回収	プルタブ・ベルマーク・ペットボトルのフタを公民館で集めて小学校へ届けることで、小学校活動に協力しています。

友愛訪問（毎年3月1日）

福祉学習事業の一環として、高浜中学校の一年生と民生委員・児童委員が高齢者施設を訪問し、ゲームや話をするなど交流を深める活動をしています。また、中学一年生が独居高齢者の皆さん全員へ手紙を書き、民生委員・児童委員が、それを自宅へ届ける活動をしています。



<地区社協が目指すもの>

高浜地区は、松山観光港がある松山市の海の玄関口であり、また、夏目漱石の小説「坊っちゃん」に出てくる四十島（ターナー島）のある魅力あふれる地区です。最近では少子高齢化が進み、安心して住みよい高浜地区を目指すには、引続き基盤整備を行う必要があります。高浜地区社協・民協・公民館・町内会連合会の諸団体と令和元年度に発足した「まちづくり協議会」との連携強化により、この5年間で高浜地区の活性化が少し前進してきました。今後もこれを継続して誰もが住みやすい地域を目指していきます。また、海の玄関口である地域として、観光客にもいい印象をもってもらえる地域でありたいと思っています。

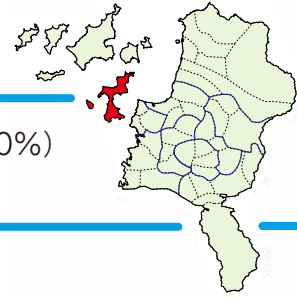
地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	16団体
	民生委員	16名	■高齢クラブ	5クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	1団体
	■まち協の設立	令和元年度	■自主防災組織	16組織

もともと防災意識が高かった地区ですが、防災力ひいては地域力が強化されています。平成30年7月豪雨では、住民が声かけしあい、早期の避難を実現、多数の土砂崩れにも関わらず、人命をまもることができました。この経験を教訓に、地区社協・民協と自主防災組織等の連携作りが行われています。一般的に災害では高齢者や障がいのある人の被災率が高いことから、この地区の取り組みは、全国のモデルとなります。子育て世代の応援体制が作られているのも特徴で、小中学生や親子向けの楽しい地域イベントへの支援を行っています。地区社協によるこのような取り組みや小学校活動への協力は、若い世代が地域に愛着をもつきっかけになっていると考えられます。



興居島地区

人口: 1,005人 (高齢化率62.0%)
世帯数: 618世帯

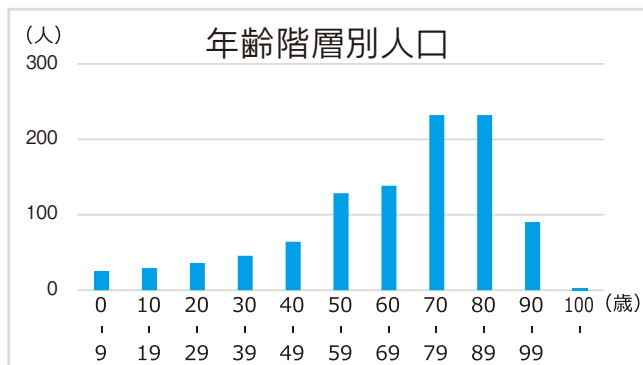


【地区の特色】

松山沖に位置し、瀬戸内特有の温暖な気候に恵まれ、人情味溢れる住民、おいしい柑橘・魚貝類など自然にめぐまれた地域である。最近が高齢化・少子化が進み人口減少が著しいが、縄文土器の出土をはじめ、古代伊予国の説話を伝える和気比売神社や平安時代からはじまると伝えられる県無形文化財指定の「船踊り」・「行基創建の観音寺」・「伊予の小富士山」など、島の歴史は古く奥深い。



無形文化財「船踊り」



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団結が強い ・住民間でのつきあいがある ・治安がいい ・人が優しい、温かい ・子ども達からのあいさつが活発 ・海の幸、山の幸がある ・みかんがおいしい ・自然が多い ・釣り人が来る ・お試し移住施設(ハイムインゼルごごしま)がある ・ヘリポートが4カ所 ・島内に幼小中があり通える ・島内に診療所や福祉施設がある ・空き家の相談窓口設置 ・移住者の増加(5件) ・移住者家族に子育て世帯が増えている ・地区外に誇れる無形文化財「船踊り」がある ・ふれあいタクシーの運転手の研修を年間2名受けている(現在、車8台・運転手9名)
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪い ・食堂がない ・獣害(いのしし) ・鳥害 ・空き家が多い(放置された空き家問題) ・農業をする若い世帯は通いで来ている ・運転手の高齢化 ・平地が少ない ・戸締まりをしない(無施錠) ・道路横の農地が放置され手が出せない
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみの世帯、高齢者の独居世帯が多いので身寄りが無い人が多くなった ・足腰が弱るとゴミ捨てや畑のある山に行けない ・災害発生時の避難補助が必要 ・子ども、若者が少ない ・公共の交通機関がない ・買い物や通院が不便 ・島外への病院(専門科)へ行きづらい ・介護保険で利用できる事業所の選択肢が少ない ・各町の婦人会組織が無くなっている(担い手不足) ・離島であることから、救急搬送の問題 ・海上タクシーが無くなった

興居島地区社会福祉協議会

思いやり 心で結ぶ ごご島の里

構成団体	地区民協・公民館・町内会・各町連絡会協議会・まちづくり協議会
------	--------------------------------

主な取り組み	活動内容
福祉学習の推進	小・中学校と連携し、高齢者サロンと子どもの交流や清掃活動など福祉学習の推進をしています。
各種団体への支援	島内で活動している様々な団体へ助成し、活動の支援を行っています。また、共同募金の配分金を活用し青少年の健全育成に寄与しています。
地区高齢者の見守り活動	地区民協と連携して島内の高齢者宅を訪問し、生活上の心配ごとを聞いて、必要であれば地域包括支援センターに繋ぐなどの活動を行っています。

ふれあいタクシー(過疎地有償運送事業)

島内には公共の交通機関がなく、移動手段のない住民を地域住民の手で支えるため福祉施設と連携して平成27年から「ふれあいタクシー」の運行を開始しました。令和4年度現在、車9台、運転手10名で運行しており、買い物や通院などに年間延べ約1,149名の利用があります。



<地区社協が目指すもの>

少子高齢化が著しく進む興居島地区の地区社協が目指す究極の形は、「島民同士が共に助け合いながら穏やかに安心して暮らすこと」に尽きると考えます。そのため、島民が助け合う仕組みの「ふれあいタクシー」をはじめ、県が進めるDXアイランド興居島事業で設置された「見守りカメラ」・「獣害罨センサー」・「防災ドローン」の導入や「空き家対策」・「移住者交流」など、あらゆる機会を通して「安心して暮らせる」仕組みづくりを目指します。

さらには、「心温まる声を掛けあう地域活動」の活性化などを通じて、地域福祉の推進を図ります。

地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	9団体
	民生委員	12名	■高齢クラブ	6クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	1団体
	■まち協の設立	平成29年度	■自主防災組織	9組織

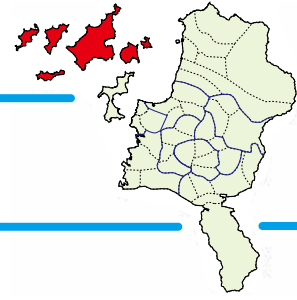
人口減少が進む一方で、移住者が増加し、離島に新しい風が吹いています。公共交通はありませんが、ヘリポートが設置され、「ふれあいタクシー(過疎地有償運送事業)」の運営が行われています。担い手を確保し、取り組みを維持することは容易なことではなく、地域が協力して困難な地域課題に取り組む素晴らしい実践です。公共交通機関では難しい、細やかなニーズに対応し、島民の暮らしを支えています。子どもから高齢者まで、お互いに助けあう、声をかけあうという気持ちがあり、地区社協でも高齢者サロンで子どもとの交流を行うなど、つながりの機会を作っています。DXを活用した「安心」の島で、伝統を次世代に受け継いでいくことが期待されます。



なか しま

中島地区

人口: 3,122人(高齢化率68.8%)
世帯数: 1,902世帯

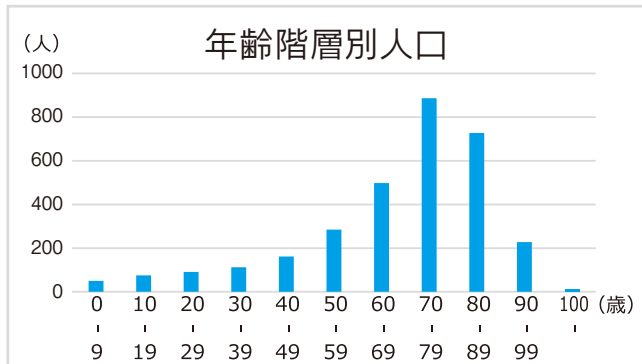


【地区の特色】

瀬戸内海の沖合いに浮かぶ中島は、6つの有人島と22の無人島から成っており、古くから忽那諸島と呼ばれ、豪族の忽那氏が瀬戸内海を舞台に活躍した栄華の名残りが今もなお跡をとどめている。温暖な気候と恵まれた自然があふれ、年間を通じて釣りが楽しめるほか、春にはみかんの花が咲き、夏にはトライアスロン大会や海水浴、秋には黄金色の実が甘い香りが島全体を包んでいる。



夏の風物詩 トライアスロン



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が少数のため、災害時等の場合には協力体制は強い ・住民がみんな顔見知り ・地区消防団員の活動が盛ん ・隣組制度がある ・強い自治組織が確立されている ・配達(コープ)があるため子どもがいる家庭は便利 ・グラウンドゴルフ、クロッケーの活動が盛ん ・伝統行事を守ろうとする意識が強い ・みかん、魚がおいしい ・畑が借りやすい(移住者を呼び込みやすい) ・移住者が多い ・移動スーパーが新鮮 ・子育てに安心(外国人にも顔見知りがいる)
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が少ないため新しい行事、活動に取り組む意欲がない ・島を盛り上げたいという一体感がない ・働く場所が無い ・様々な組織の会長、リーダーの高齢化、後継者不足 ・民生委員・児童委員、見守り員による活動範囲の限界 ・高齢化率が高く、災害時の避難行動が不安 ・休耕地、耕作放棄地が多い ・若者の結婚が少ない ・隣組制度が崩れてきている ・スーパーの閉店時間が早く、商品が古い
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の数が多い ・女性の高齢者、一人暮らしをする人が増加 ・会長、リーダーの高齢化・後継者不足 ・跡取り、介護者不足 ・若者が住めるための産業がない ・海のため、交通が不便 ・民生委員・児童委員、見守り員の高齢化により活動に限界がある ・高齢者の行く場所がない ・島で最期を迎えられない ・高齢者もしてもらっただけではなくできることをするという意識 ・独居ではない高齢世帯でも不安がある

中島地区社会福祉協議会

広げよう 6つの島の 福祉の輪

<拠点> 松山市役所中島支所2階 TEL:089-997-1822 / FAX:089-997-1833

構成団体	地区民協・公民館・総代会・松山市中島支所・サロン代表・福祉施設・学識経験者 ボランティア代表・議員
-------------	--

主な取り組み	活動内容
給食サービス	70歳以上の1人暮らしの高齢者・要援護世帯の方を対象に、春・秋・歳末に各地区民生委員が訪問しお弁当を配っています。
健康体操	1日でも長く自立した生活を送ることを目的とし、ストレッチと筋トレを行っています。毎週水・日曜日、参加費は無料です。
サロン事業	いきいきサロン10ヶ所、地域交流3ヶ所、地区社協独自1ヶ所の支援を継続して実施し、住民の交流の場の促進に努めています。

中島地区社会福祉大会

関係団体との連携を図りながら住み慣れた地域で誰もが安心して福祉サービスを利用し、個々の尊厳の保持と自分らしい生活を送ることができる地域社会づくりを推進することを目的として毎年開催しています。参加者の皆様の協力による「伊予柑1個運動」で集まった伊予柑を市内の福祉施設(児童養護施設等)へ贈っています。



<地区社協が目指すもの>

中島地区では急速な少子高齢化や人口減少社会の到来、情報化社会の進展など私たちを取り巻く社会情勢が大きく変化し、地域コミュニティにおける人間関係が希薄となる中で、児童虐待、引きこもりや孤独死、さらには高齢者を狙った振り込め詐欺など大きな社会問題が顕在化しています。

そのため、「誰もが笑顔で安心して暮らすことが出来る福祉のまちづくり」を推進していくためには、色々な社会問題に対し私たち住民自らが主体的に支えあい「自分たちの住む地域は自分たちで守り創る」という住民意識の醸成と実践が何よりも重要と考えています。

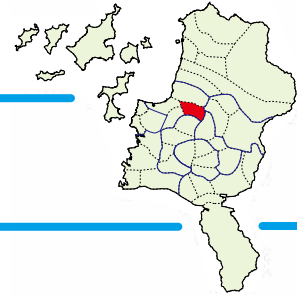
地区の状況	■地区民協	27名	■町内会・自治会・区長会等	17団体
	民生委員		■高齢クラブ	0クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成20年度	■自主防災組織	17組織

夏の風物詩、中島トライアスロンでは全国からのアスリートを受け入れ、島全体で盛り上げています。社会福祉大会では、島外の福祉施設に心をこめて育てた伊予柑を贈る「伊予柑1個運動」を行ったり、小学生が劇を上演したり、心温まる取り組みが行われています。災害時の協力体制や地区消防団員の活動など、皆が顔見知りだという点をいかした活動も活発に実施されています。地区社協による給食サービスやサロン事業は高齢者の孤立を予防し、交流を維持する基盤になっています。趣味やスポーツなど地域組織への参加は、特に健康に望ましいため、グラウンドゴルフ、ストレッチ等の活動の機会を維持し、健康寿命を延ばすことが期待されます。



しおみ 潮見地区

人口: 9,998人(高齢化率29.0%)
世帯数: 4,809世帯

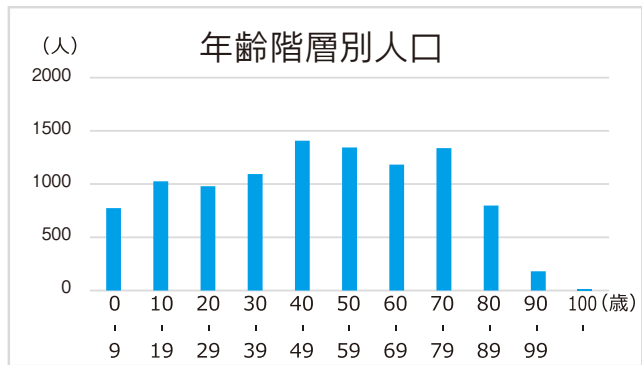


【地区の特色】

「潮見」という地名は、その昔、この地方が台風があるいは大地震のような天災に見舞われ、大津波がこの辺りまで押し寄せ、村人たちは山に駆け登って難を逃れ、日夜潮の動静を窺ったことに由来しているといわれており、地域には神社・仏閣・史跡など多く伝説や民話も数多く残っている。「潮見地区史跡八十八ヶ所巡り」として、冊子にまとめられ、住民が史跡巡りを楽しんでいる。また「宮内伊予柑」の原産地であり、柑橘栽培の立地条件にも大変恵まれていて、昭和40年頃より全国に誇れる特産品の地場産業として大きな役割を果たしている。



宮内いよかん



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・古い地域への新しい世代の参加がスムーズ ・自然が豊か、大川沿いには野鳥が多い ・高齢者の年齢が松山市平均と同じくらいである ・伝統文化の継承ができています ・生活関連施設に恵まれている ・学区の人气が高く他地域からの転入も多い ・自転車で移動可能な範囲が広い ・県営、市営住宅がある ・学社融合(小、中、公民館) ・もちつきなど世代間交流の行事がある ・全地区にまたがりサロン活動(14サロン)が活発である ・地域福祉活動(協力会員)の体制が整っている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に若者の参加が少ない ・地域組織の役員になり手が少ない ・勤労世代間の交流が少ない ・一部交通の不便な地域、街灯の少ない危険な地域がある ・下水道不整備なところがある ・川の近くに災害時避難所がある ・大雨時に浸水や、土砂崩れの恐れがある危険地域がある ・農家が減ってきている
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事への参加が限られた人になりがちである ・県営、市営団地内の情報把握が難しいことがある ・独居高齢者の増加傾向 ・高齢者の見守りや在宅医療の支援が困難 ・空き家問題増加傾向(独居の方が子どもさんとの同居で地区を離れる等)

潮見地区社会福祉協議会

しんせつで おもいやりある みんなの潮見

構成団体	地区民協・公民館・支所・議員・まちづくり協議会・高齢クラブ連合会・小、中学校 PTA・町内会・地域連絡会・交通安全協会・日赤奉仕団・自主防災連合会・福祉団体
------	---

主な取り組み	活動内容
高齢者が楽しめる場づくり(各種大会)	地域の高齢者の方の楽しみの場づくりを目的に、毎年1回ずつ潮見小学校グラウンドなどを活用し、グラウンドゴルフ・パタンク・ゲートボール大会等を主催しています。
世代間交流会	高齢者、小・中学生との交流を促進することを目的に、もちつき・ゲーム・うどん昼食などのイベントを開催しています。
配食サービス	一人暮らし高齢者、高齢者世帯を対象に日赤奉仕団の方々と連携して、手作りのちらし寿司の配布を民生児童委員が行っています。

福祉のつどい

地区内に暮らしている独居高齢者を対象とした「福祉のつどい」を公民館で開催しています。マジックやミニコンサート、ゲームなど会場全体が楽しめる内容となっております。参加できない高齢者にも、広くサービスが行き渡るようお弁当を届けています。



<地区社協が目指すもの>

潮見地区では令和2年度に地域福祉活動計画を作成し、①地区社協の基盤整備 ②福祉学習とボランティア ③在宅福祉 ④関係団体との協働を基本に、住民の方々の主体的参加による活動を進めております。

目標テーマの「しんせつでおもいやりあるみんなの潮見」を目指し、地域における人と人とのつながりを大切に、互いに笑顔で声かけあい、助け合いの心あふれる、住みよい潮見地区となるよう、より一層の協力・支え合いに取り組んでまいります。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	20名 2名	■町内会・自治会・区長会等	8団体
			■高齢クラブ	5クラブ
			■子ども会	15団体
	■まち協の設立	平成24年度	■自主防災組織	20組織

地区名も含め地域内にある史跡や伝統文化など多様な角度から歴史に触れることのできる特色のある歴史的文化遺産が多い地区です。独居高齢者を対象とした福祉のつどいのほか、配食サービスや小中学生との交流の場や潮見小学校のグラウンドを活用したスポーツの大会など、高齢者が社会参加をする場が多様な形で設けられていることも特徴として挙げられます。特にイベントに参加できない高齢者にもお弁当を届けるなど、皆が住民として気遣い合える地区でもあります。転入者の増加に伴って、地域活動への若い世代の参入が減少していることから、地区の宝である人のつながりを若い世代にも引き継いでさらに活発化していくことが、未来の住民に残す大きな資産となるでしょう。

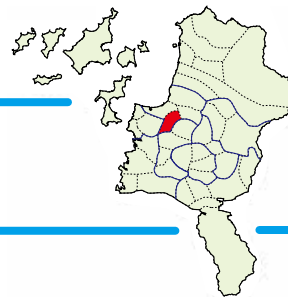


ひさえだ

久枝地区

人口: 19,861人(高齢化率26.0%)

世帯数: 9,378世帯

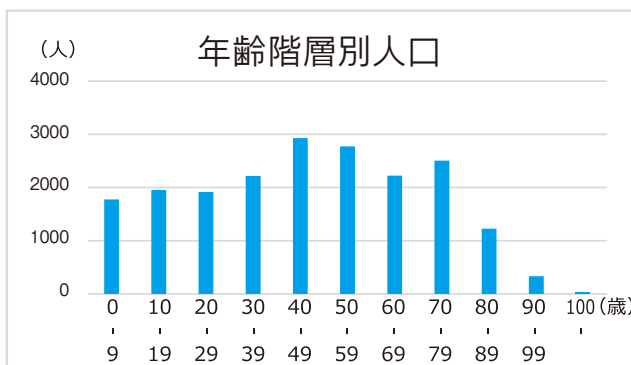


【地区の特色】

久枝地区は、松山城の北西の方向にあり東西約2km、南北約4kmの長方形のような形をしている。かつてはのどかな田園地帯であったが、市街化区域に指定されてからは南は住宅地域、北は農業地域、中央付近には工場が建ち並ぶように変貌してきた。バイパスや県道が縦横に走り、多くの企業をはじめ、学校・病院・マンションや住宅等が建ち並ぶ町となった。近年、人口が増え、交通の便も良くなってきたこともあって、居を求めてくる人々が多くなる傾向が見られる。



眼下の中央卸売市場



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の登下校の見守りを地域の人が行っている ・地区の行事が多い ・医療、教育、買い物、金融機関等生活環境が整っている ・良い人が多い ・子どもがよく挨拶をしてくれる ・チョイソコ事業があり高齢者には交通の便が良い ・川狩り等の伝統文化を大切にしている ・久万川周辺地以外の災害は少ない ・久万川の改修により渡り鳥が来ている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい住民が地域の行事になかなか参加してくれない ・久枝公民館は建屋、駐車場が狭く、地区集会場でも駐車場が少ない ・公共の交通機関がバスしかなく、さらに本数が減少 ・基幹道路の交通量が多い ・改修が進んではいけるが久万川の水害が心配 ・空き家、休耕地や耕作放棄地が多い ・町内会の申請で増えてはいけるが防犯灯、街灯が少ない
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民の人間関係が希薄になり、世代間の交流も少ない ・町内会に入る世帯が減っている ・子どもの減少・老々介護の増加 ・町内の担い手(町内の役員や民生委員)が育たない ・県道の交通量が多く危険 ・ため池があり事故及び災害等の安全面で不安 ・空き家が増加している ・災害時の避難ルートが分かりにくい ・災害無線が聞こえにくい ・イヌネコの糞害 ・ゴミ置き場のカラス被害

久枝地区社会福祉協議会

人いきいき 誰もが住みたい 久枝に

構成団体	地区民協・公民館・町内会連合会・まちづくり協議会・支所
------	-----------------------------

主な取り組み	活動内容
各種講座の開催と通知	脳トレや体操、福祉講座を実施、年に2回発行の福祉だよりにて福祉情報の周知・啓発に努めています。
昔遊び集会 名人さんに学ぼう	地域住民が昔の遊びや名人芸などを伝え、小学生との交流の機会を図っています。また、児童館行事にも積極的に関わっています。
独居高齢者訪問事業	地域内の一人暮らし高齢者を対象に日常生活の慰労を目的として地区民協と連携し、自宅を訪ねる活動を続けています。

夏まつり

「老いも若きも誰もが気軽に集い会える久枝でありたい」との思いを重ねた夏祭りが、およそ100名の来場者を迎え盛況のうちに開催されました。幼な児の愛らしい浴衣姿に癒され、お兄ちゃんに教えてもらいながらの輪投げも一投毎に歓声が挙がり、世代を超えた夏祭りとなりました。継続した活動になればと願っております。



<地区社協が目指すもの>

《城の西北 緑の丘に 名も久枝…》と小学校の校歌にも歌われてきた久枝地区です。都市化が進み、当時の田園風景を残しながらも住宅地区が増え、中央卸売市場を代表とする商業施設があり、小学校・中学校・高校・盲学校・児童館など教育施設も充実している街と自負しています。

そうした中、『人いきいき誰もが住みたい久枝に』を基本理念とし、何時でも気軽にお互いに声を掛け合い、おしゃべりをしたり助け合ったり、子ども達の成長を見守り、高齢者や弱者を気遣う、そのような久枝地区でありたいと願っています。

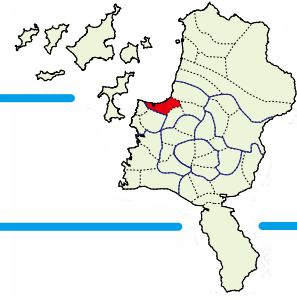
地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	28名 2名	■町内会・自治会・区長会等 ■高齢クラブ ■子ども会	14団体 2クラブ 3団体
	■まち協の設立	平成29年度	■自主防災組織	15組織

バイパスなど交通環境に恵まれており、様々な企業や商業施設がみられ、医療機関や教育機関などの暮らしに必要な社会資源も充実した地区となっています。高齢者を対象とした各種講座が開催されるほか独居高齢者訪問事業など、高齢者を支える取り組みが多くみられるだけでなく、高齢者の持つ知恵や技術を交流も兼ねて次世代へつなげる昔遊び集会をみてもわかるように、高齢者が支援者ともなっています。新しく転入してきた住民も地域の行事や支え合いの輪に入り、地区社協の目標にもなっている住民が互いに助け合い、子どもの成長を見守り、互いに気遣い合える環境整備の実現のモデルとなることが期待されます。



わ け 和気地区

人 口: 11,987人 (高齢化率31.7%)
世帯数: 5,674世帯

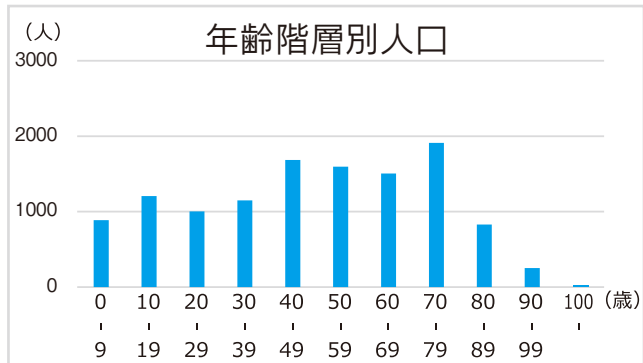


【地区の特色】

和気地区は、松山市の北部に位置し、かつては農業と漁業を中心とした地域であったが、時代の都市化とともに、企業をはじめマンションや住宅等が凌ぎを削りあうように建ち並ぶ地域となった。また、他地域からの転居者も増加し、住民意識も変化しつつある。しかし、日頃から町内会や各種団体は相互の親睦や連携がとれており、地域一体となった様々な活動が展開されている。



大声大会in和気浜海岸



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関(公民館、町内会連合会、地区民協、病院、警察等)との連携が取れている ・和気公民館のリーダーシップ ・青パトによる安全パトロール(毎月5、15、25日) ・小中学校、みなら特別支援学校城北分校の福祉活動への協力体制が整っている ・お接待、グループホーム訪問、独居老人安否確認パトロール ・地区社協と地区民協との協力(地区民協の会合に参加) ・宿泊体験学習(防災教育)、ウォークラリー(三世代交流) ・和気つ子安全パトロールによる安心安全のまちづくりが行われている ・福祉施設が多くあり、秋祭りには神輿を迎え入れてくれる ・海の日の大声大会(1200人参加)による防災意識の強いまちづくり ・災害が少ない ・地域の大きな行事が多く参加者も多い ・地域の団結力がある ・緑多き田園地域 ・65才以上の高齢者が活動的 ・休耕地にソーラーを設置活用 ・はまぼうふ(希少植物)がある ・和気浜海岸清掃
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・和気浜海岸が近いため、南海トラフ地震への不安が大きい ・子ども会が減っている ・児童の親との親睦が少ない ・仕事をしている世帯の地域行事への参加が少ない ・福祉活動に携わる年齢が高い ・地域のつながりの希薄化が現在進行中 ・田舎なので夜間の道が暗い ・休耕地、耕作放棄地の増加 ・鳥獣被害
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化により地域の負担が増大する ・地区社協活動への理解 ・町内会で地域活動に温度差がある ・町内会の役員の引き受け手が少ない ・現役世代の関わりが少ない ・興味のある行事にしか参加しない ・一部、買い物や通院に不便な地域がある ・集いの場に行きたくても手段がない ・隣近所の付き合いが希薄化しており、昔のような井戸端会議がなくなった ・独居高齢者の把握が難しい ・公共交通の乗り物が少ない

和気地区社会福祉協議会

安心・安全・笑顔^{わけ}を和気よう!

構成団体	地区民協・町内会連合会・公民館・共同募金会・小学校・中学校 支所・農協・自主防災組織
------	---

主な取り組み	活動内容
独居老人安否確認 パトロール	一人暮らし高齢者を対象に、防犯・防災のパンフレットと、和気小学校の児童による手紙を持ち、北・内宮中学校の生徒が地域プロジェクトメンバーとともに高齢者宅を訪問し、高齢者の安否確認や地域での見守りの強化を図っています。
合同研修会	地区社協・地区民児協、町内会連合会と連携を高めるため、毎年合同で研修会を実施しています。
放課後子ども教室への 協力・支援	地区社協・地区民児協の関係者による放課後子ども教室の支援及び和気っ子安全パトロール隊によるみまもり支援を行っています。

お接待

公民館と連携し、和気地区にある四国八十八ヶ所の札所「太山寺」から「圓明寺」に向かう道沿いに位置する和気公民館施設にて、毎月歩き遍路の人々をお接待でお迎えしています。

子どもたちによるお接待の日もあり、地区社協としても活動支援を行い地域での福祉学習を推進しています。



<地区社協が目指すもの>

和気地区社協は、高齢者、子ども及び障がい者への福祉を3本柱とし、公民館・地区民協・町内会連合会との連携を密にして地域福祉の推進に取り組んでいます。

- (1) 独居老人安否確認パトロール
- (2) お接待
- (3) 放課後子ども教室への協力・支援
- (4) 合同研修会(社協・民児協・町内会連合会)
- (5) みなら特別支援学校城北分校との交流
- (6) グループホーム訪問

以上の事業を中心に今後も地域住民の方が安心・安全に暮らせる和気地区を目指しています。

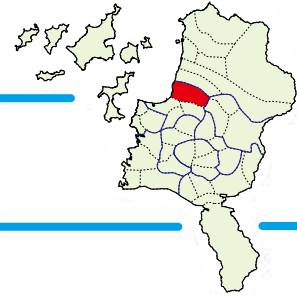
地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	22団体
	民生委員	22名	■高齢クラブ	6クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	1団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	26組織

過去の一次産業中心の地区から、現在は企業やマンションの増加に伴い新しく移り住む住民も多くなりました。そのような中でも住民を中心とした様々な地域組織と社会資源との連携が円滑にとれる体制が整えられており、災害など有事に地区レベルで取り組むための基盤ができていけるといえるでしょう。防災教育を行う宿泊体験学習のほか、独居老人安否確認パトロールなど現在の取り組みやつながりも、今後の防災力向上にどのように連携・発展するのか興味深いところです。また、歩き遍路の方々へのお接待文化や子どもたちの見守りなどは、子どもの地域への愛着心が育つ貴重な取り組みとなっており、今後は新たに転入してきた住民や多世代も加わった活動や行事がどのように展開されるのかを期待させられる地区です。



ほりえ 堀江地区

人口: 11,308人(高齢化率31.7%)
世帯数: 5,530世帯

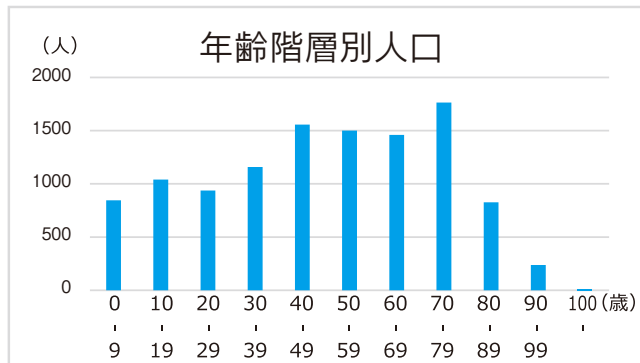


【地区の特色】

堀江地区は、「おだやかな堀江湾に明美な瀬戸の風景、神霊と史跡の宿る山並や心もなごむ出で湯、ほのほのとした人情とあつい血潮の流れる人里」である。北谷古墳からもうかがえるように、古代から村落的な社会共同体が形成され、生活が営まれていた。そして、海路の要所として海からの文化がいぶき、人々の心に刻まれていった。現在は、地域の自然や歴史、文化などを生かした個性のあるふるさとづくりが活発に行われている。



親水公園(秋のコスモス)



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地区コミュニティ会議の充実 ・公民館と小学校の学社融合がしっかりしている(かかし作り、しめなわ作り、国道の清掃活動) ・サロン活動が充実している ・愛媛マラソン時の事前清掃活動、小学生の希望者がカレー作りで応援 ・高齢者クラブの活動が熱心(男性料理教室) ・医療機関の充実 ・スポーツの街 ・海、山があり、空気がきれい ・自主防災活動の充実 ・中学校への地域の対応
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の中には各行事の実施にあたり横の連携が不足しているところもある ・各団体の役員のなり手がいない、新しい加入者も少ない (高齢クラブでは会長のなり手がいないため休会となるケースが出ている) ・交通の便が悪く生活に不便な地域がある ・坂が多い ・海が近いため、災害に不安(海拔0メートルの所がある)
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会ができていない団地があり、地域内の連携を取る事が難しい場合がある ・災害援助活動について、自主防災組織、地区民協、消防との連携が必要 ・各団体の役員のなり手が少ない ・消防団員の確保が難しい ・空き家が増えてきた ・独居高齢者の増加、若い夫婦・子どもの減少 ・新しい住人を地区の行事に迎え入れる方法を検討する必要がある ・大きな障がい者施設の現状が把握できない ・元気な高齢者が活躍できる場が必要 ・海の近くに福祉施設があり災害時心配 ・昔の川の氾濫を忘れて防災の意識が低い

堀江地区社会福祉協議会

構成団体	地区民協・公民館・高齢クラブ連合会・議会・中学校・小学校・PTA 郵便局・農協・消防分団・支所・交通安全協会・母子福祉会・教育会・遺族会 区長会・駐在所・まちづくりコミュニティ
-------------	--

主な取り組み	活動内容
独居高齢者 年賀状配布	民生委員が見守りをしている一人暮らしの高齢者を対象に、メッセージを添え、毎年年賀状をお送りしています。
学校における 福祉学習の支援	地区内の小・中学校と連携し、地域の美化、海岸の清掃活動、共同募金の街頭募金への様々な社会体験を提供できるよう支援しています。
地区社協会費制度	堀江地区社協は地区社協会費制度を導入しており、貴重な福祉事業の財源となっています。町内会と連携することで福祉活動への理解の拡大に努めています。

サロン活動支援

地区内に9か所ある「ふれあい・いきいきサロン」、6か所の「緩和型サロン」の支援を行っています。年に2回サロン代表者会を行うなどサロン間の情報交換もできており、今後も誰でも気軽に集まれる通い場の創出や活動支援に力を入れていきます。



<地区社協が目指すもの>

地区のグラウンドゴルフ、スポーツ競技、小・中学校との交流、公民館やコミュニティ会議との連携活動、歩こう会、遺跡めぐり、うみてらすの活動のほか、自主防災会との訓練等に積極的に参加協力し、地区内の各団体や機関との連携強化を図るとともに、福祉活動を通じて住み慣れた地域で堀江地区の住民の皆さんが安心して生活できるような町作りを目指します。

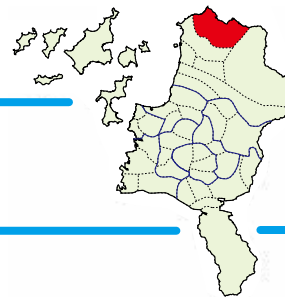
地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	20団体
	民生委員	17名	■高齢クラブ	2クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	3団体
	■まち協の設立	平成18年度	■自主防災組織	23組織

堀江湾をはじめとした豊かな自然や史跡などもみられる穏やかに時間が流れる地区です。しめ縄づくりなど公民館と小学校との学社融合が活発であり、愛媛マラソン時にはカレー作りに小学生が関わるほか、地域の美化・清掃活動にも小中学生も参加するなど、子どもたちは地域の大人たちに支えられ、自らも地域の活動を支えることで社会の一員であることを実感できる環境が整えられています。高齢者に対しても独居高齢者年賀状配布のほか、サロン活動や高齢者クラブも精力的に取り組まれています。現状の素晴らしい活動を維持・向上するための地域活動への子どもたちのさらなる参加や、親世代を巻き込むなど堀江地区ならではの人情を活かした新しい取り組みが期待されています。



あさ なみ
浅海地区

人口: 1,020人(高齢化率53.1%)
世帯数: 524世帯

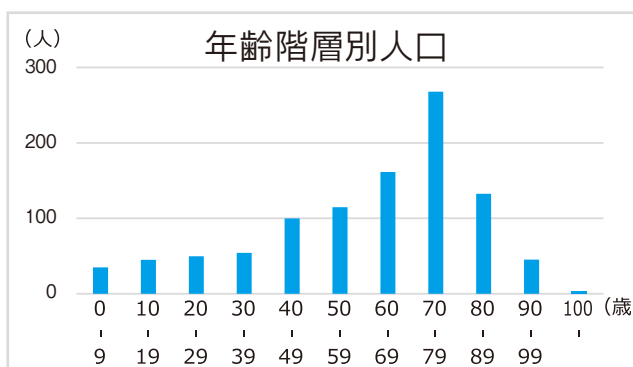


【地区の特色】

松山市の最北端に位置し、国道196号線に沿っている。東南に恵良山、西に腰折山、新城山、北に名石山、千波ヶ嶽と三方を山に囲まれているが、しまなみ海道の開通でより交通量が増加した。最近の生活様式の多様化により兼業農家に移行しつつあり、かんきつ地帯として将来発展の道をたどる地区である。また、地区住民の協調的な意識は盛んであり、人情も細やかで各種社会教育的な行事に参加しようとする気風も高まりつつある。



ふるさと夏祭り



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事(運動会、まつり等)に多数の人が参加する ・知り合いが多い ・自然がある(海、山) ・コスモス畑 ・遍路道、遍路宿がある ・神社 ・あさなみマルシェの実施 ・公民館、保育園、小学校教員など地域の各種団体との繋がりが強い ・近隣住民間での共助の風習がある(見守り) ・おいしい高級柑橘(紅まどんな・せとか・甘平)の栽培 ・新たな通いの場(水曜どうでしょう)の開催
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関がない ・スーパー、コンビニ等がない ・交通の便が悪い ・空き家の増加 ・少子化、高齢化 ・農業の後継者が少ない
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーやコンビニがなく買い物に不便 ・医療機関がない ・高齢者のゴミ出し ・交通の便が悪い ・各種団体の後継者不足 ・高齢者の増加による災害時の援護等の不安

浅海地区社会福祉協議会

思いやり・温もり・感動・笑顔の浅海

構成団体	地区民協・公民館・分館・日赤奉仕団・保護司会・小学校・保育園・PTA・消防団 高齢クラブ・区長・交通安全協会・みまもり員
------	---

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回(8月、2月)作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。
通いの場の実施 (水曜どうでしょう)	介護予防や生きがいづくり、また健康や介護について相談できる住民だれもが参加できる通いの場です。毎月第3水曜日に公民館で実施しています。
独居高齢者給食サービス	年3回、地区内の独居高齢者を対象に、お弁当を配布しています。

伝統文化の継承(浅海獅子舞保存会)

浅海獅子舞は地域住民の無病息災、五穀豊穡等の願いを込めて地元神社に奉納される伝統芸能として受け継がれています。永く後世に伝え継ぐとともに、地域振興のために活動をしています。子どもから大人まで、伝統文化の継承を通じて世代間の交流にもなっています。



<地区社協が目指すもの>

地区の住民の中で65歳以上が半数を超えるようになった一方で、小学校の児童の数は年々減少をしています。このことを踏まえて、高齢者福祉の向上と子供たちの健全育成を活動の原点と認識し、高齢者が誰でも気軽に参加できる通いの場の運営やサロン活動の助成を積極的に実施するとともに、まちづくり協議会や公民館の催し物、加えて小学校の行事などにも協力をして世代間の交流を進めます。また、高齢者や子供たちが安心して、安全に暮らせるような環境を目指して見守り活動を継続していきます。

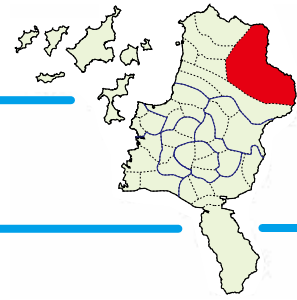
地区の状況	■地区民協	5名 2名	■町内会・自治会・区長会等	9団体
	民生委員		■高齢クラブ	1クラブ
	主任児童委員		■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成28年度	■自主防災組織	3組織

スーパーやコンビニがなく買い物に不便という課題を抱えています。[あさなみマルシェ]の開催や、地域住民の高齢化に向けて介護予防や生きがいづくりをめざし通いの場「水曜どうでしょう」を開設するなど課題発見力と課題解決力を持ち合わせた地区です。また「浅海獅子舞保存会」を中心に子どもから大人まで伝承文化の継承に取り組んでおり、子どもたちはこうした活動に参加することによって地域の歴史を知り、地域住民と共に世代を超えた交流を通して地域のアイデンティや感性を培う貴重な機会となっています。



たて いわ
立岩地区

人口: 756人(高齢化率59.9%)
世帯数: 425世帯

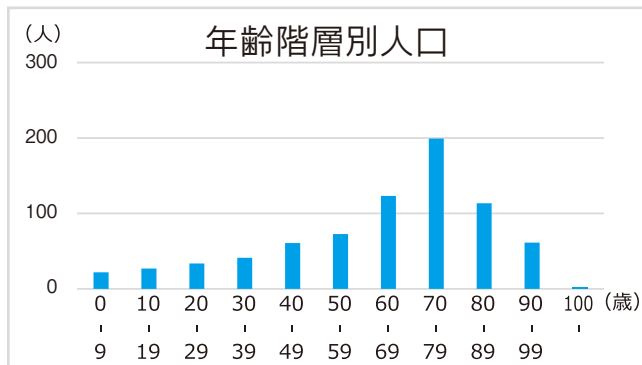


【地区の特色】

高縄山の北側、立岩川流域の18地区からなる立岩地域は、豊かな自然に囲まれた山間ののどかな山村地域である。子どもから高齢者まで地域住民全員参加の運動会、文化祭、スポーツレクリエーション、交流活動等が多数開催され、毎年5月には山一面につつじの花が咲き誇る貫之山を地域のシンボルとして守り育てている。



立岩つつじまつり



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のため、各家庭の状況を皆が把握している ・区長会が機能している(町内行事参加率約98%) ・公民館の活動が活発→区長会が協力 ・地区内の関係団体等の連携がとりやすい ・自然が豊か
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、高齢化傾向が顕著 ・高齢化率約60%(80歳以上の割合が問題) ・若者が少なく諸行事が負担になる ・子どもが減り後継者がなく、獅子舞をやめた ・緊急車両が入りにくい道路がある ・働く場所がない ・自然が多いため、災害の危険がある(地すべり、傾斜が多い) ・車がないと外出が困難
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に集まれる場所がない ・自然災害時の危険箇所(120カ所)の不安 ・大雨時、避難場所が利用できない場所にある ・高齢者の避難方法が不安 ・車がないと外出が困難(買い物、通院、集まり、畑など) ・道幅が狭く、緊急車両が入りにくい場所がある ・子どもが少なく、行事ができない、若手不足で負担が大きい ・公民館・集会所の和室は、高齢者や足の悪い方は利用しづらい

立岩地区社会福祉協議会 よりそい、気配り、支え合い一笑顔あふれる花垣の里ー

構成団体	地区民協・公民館運営審議会・公民館・福祉施設・日赤奉仕団・小学校・みまもり員 青少年健全育成会・PTA・スポーツ少年団・JAえひめ・交通安全協会・学識経験者
------	---

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年1回作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。
給食サービス (花垣弁当)	毎月1回、独居・寝たきり高齢者の希望者に対し、安否確認をかねて弁当とおやつを配っています。※紀貫之来遊伝説より立岩地区を「花垣の里」といわれたことから「花垣弁当」と名づけられました。
小学校との交流	小学生と地域住民が、小学校の校舎や校庭の清掃活動やもちつきを一緒に行い交流をしています。

いきいき健康教室

約20年続いているいきいき健康教室。2ヶ月に1回、地域内の福祉施設と公民館と協力し、健康に関する講座や調理から行う栄養教室、身体を実際に動かしての体操教室を開催しています。時には、ゲームや物づくりをするなど、地域住民誰もが楽しめる場となっています。



<地区社協が目指すもの>

立岩地区は、高縄山北側の山間地域です。ますます高齢化が進み、不安な課題もありますが、ふるさとを大切にする住民の熱意と結束は、とても強い地域です。ツツジまつり・夏まつり・住民参加の運動会・公民館まつり等多くのイベントがあり地域内・地域外を含め交流の場となっています。準備を含め助け合い・支え合い精神を育む場となっています。地区社協の活動として、まつイチ体操・いきいき健康教室・地区でのサロン活動等を通じ、健康増進・ふれあいの場づくり・機会づくりをし、地域でいきいきした暮らしができるよう応援します。

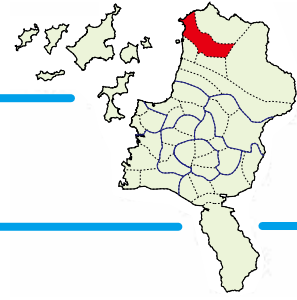
地区の状況	■地区民協	5名	■町内会・自治会・区長会等	17団体	
	民生委員		2名	■高齢クラブ	0クラブ
	主任児童委員			■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成30年度	■自主防災組織	12組織	

中山間地域で人口減少や住民の高齢化が課題としてありますが、豊かな自然と住民同士の支え合う力や、高いネットワーク形成力を活かし様々な地域活動が盛んな地区でもあります。年間を通して実施される配食サービスでの独居・寝たきり高齢者の安否確認や、小学校と地域住民との清掃活動、餅つきといった季節行事を通しての交流会、ツツジまつり開催など地区の特性を活かして高齢者の孤立化防止や、伝統行事・文化の継承に取り組んでいます。こうした普段の暮らしから派生する行事や交流の継続が、地域力を高め防災や防犯につながる力を培うことでしょう。



なんば 難波地区

人口: 1,772人(高齢化率42.6%)
世帯数: 935世帯

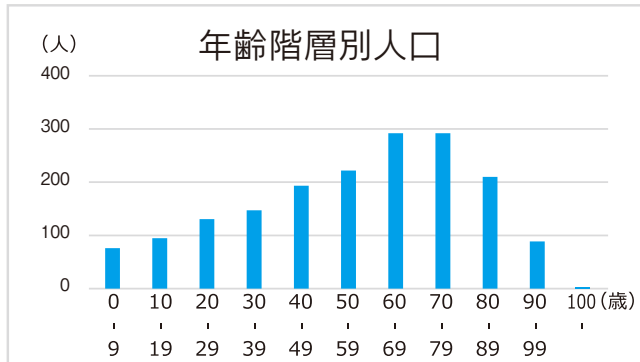


【地区の特色】

難波地区は、高縄山系から北側に連なる恵良山や国の天然記念物エヒメアヤメの自生する腰折山の麓と瀬戸内に面した豊かな自然に包まれ、伝統ある歴史・文化が継承されてきたのどかな農山村地域である。難波に住んで良かったとお互いが思える街づくりを目指し、地域住民のコミュニケーションづくりを展開している。



風早火事祭り



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に対する気遣いがある ・ゲートボールやグラウンドゴルフを楽しみにしている ・高齢者や障がい者施設がある ・障がい者施設のまつり(北条育成園)がある ・自然に恵まれている ・同居世帯が多い ・スーパー、コンビニがある ・公民館活動が盛んで公民館、学校、地域が連携している ・地域行事への参加が多い ・難波子ども教室で子どもを見守っている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが増えない ・銀行がない ・空き家が増えてきた ・交通の便が悪い ・津波の心配がある ・土砂災害警戒区域が多い ・独居高齢者が多い ・高齢者が遊ぶところ、機会が少ない ・独居高齢者の見守りが大変(対象者が増加) ・地域の役の担い手がない(人手不足) ・鳥獣の被害が多い
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪い ・高齢者の集いの場が少ない ・土砂災害警戒区域が多い ・各種団体の後継者不足 ・独居高齢者が増加している ・買い物困難者が多い

難波地区社会福祉協議会

ささえあい 思いやりが育つさと 難波

構成団体	地区民協・公民館・区長会・公民館運営審議会・交通安全協会 保育園・高齢クラブ・小学校・サロン代表者・独居高齢者みまもり員 PTA・高齢者施設・包括支援センター
-------------	---

主な取り組み	活動内容
いじめや差別のない地域の推進(人権啓発)	難波地区内でいじめや言われなき差別がなくなるよう、小学校・公民館と共に協力して推進しています。
高齢者が元気で生きがいを感じる地域の推進	高齢者がどのような状態であろうとも、元気で生きがいを持って過ごせるよう支援すると共に行事等を通じて交流を図っています。
防災に強い地域づくりの推進と地域住民との連携	公民館活動を中心に避難しやすい避難所の充実と自主防災組織との連携で安全な地域づくりを推進します。

笑顔でいきいき健康教室

地域住民を対象にいきいきとした生活が送れるよう、日頃の食事の大切さや偏らない食事の方法等栄養について学んだり、レクリエーションを通じて運動の大切さ、認知症を予防するための脳トレ等の体験をする等皆で楽しく行っています。



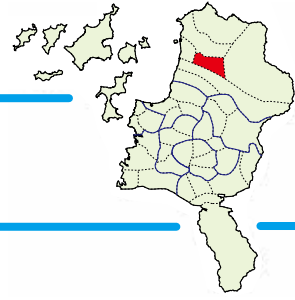
<地区社協が目指すもの>

難波地区は、海・山・川・田畑に囲まれた環境の中、地域の公民館活動を基盤として地域内の交流が保たれ、少子高齢化が進む中においてもお互いに助け合う穏やかな地区である。また社会福祉関係の施設(保育園、知的障がい者施設、高齢者介護施設等)も充実しており、身近な場所で相談ができ、安心して暮らせる地区でもあります。地域内には道の駅「ふわり」があり高齢者が地元生鮮食料品を出荷する等、生きがいづくりに励んでおり、今後は地元スポーツセンター等と連携したスポーツや健康教室等を通して元気でいきいきと安心して暮らせる地区を目指します。

地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	5団体
	民生委員	5名	■高齢クラブ	3クラブ
	主任児童委員	2名	■子ども会	0団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	6組織

高齢者世帯が増加傾向にあり少子高齢化の課題を抱えていますが、道の駅「風早の郷風和里」や北条スポーツセンター、長浜海岸でのビーチバレー大会など販売所やスポーツ施設の充実もあって、幅広い年齢層が集まり健康づくり・生きがいづくりに繋がる活動が盛んな地区です。「笑顔でいきいき健康教室」は、普段の生活から感じる身近な課題をテーマに認知症予防の脳トレや、偏食予防など自分たちで実現可能な取り組みを住民同士で共有しています。こうした活動は、地区の豊かな自然を活かして住民の健康意識を高め、運動習慣を身につけるだけでなく、コミュニティ活動への参加を高めるとともに、地域を支えるコミュニティ活動の活性化を図ることにもつながるでしょう。





まさ おか

正岡地区

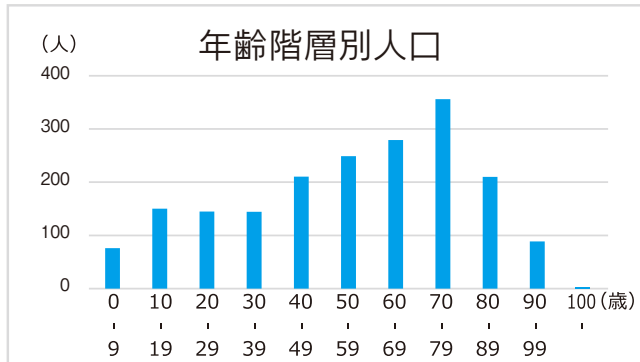
人口: 1,924人(高齢化率42.6%)
世帯数: 933世帯

【地区の特色】

正岡地区は、「風早の火事まつり」と異名をとる国津比古命神社の「みこし落とし」が開催される地域である。古くから自然環境にも恵まれ農業(現在は果樹産業)が盛んであり、各地区には農耕生活の心情を表した伝統芸能「獅子舞」や祭礼や、縁日の余興として盛況を極めた農村娯楽「伊予万歳」が盛んである。



国津比古命神社・櫛玉比売命神社



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりが強い ・祭りが盛ん ・子育てに関する施設が近隣に充実している ・愛護班が4つあり、熱心に活動している ・地域の人子どもを見守っている ・地区内に大学がある
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進んでいる ・独居、高齢夫婦(現在90才でも5年後には95才)が多い ・独居男性も多い ・過疎化が進んでいる ・空き家、耕作放棄地の増加 ・新しい家が建てられない ・歩いて行けるようなスーパーがない ・バス、駅(JR)に遠い ・きょうだい、子どもが遠方にいる ・病院に行く手段がない
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・買物難民(高齢者が歩いて行けるような距離にない) ・独居高齢者、高齢者世帯の今後の不安 ・独身者男性が多く、今後独居高齢者増に繋がる不安 ・家族(きょうだい、子ども)が遠方にいる ・若い世帯、子どもが増えない ・病院に行く手段がない ・各種団体の高齢化、後継者不足

正岡地区社会福祉協議会

国津のもりと 愛の里 in正岡

構成団体	地区民協・学識経験者・高齢クラブ・公民館・福祉施設・消防分団・交通安全協会 青少年健全育成協議会・小学校・PTA・日赤奉仕団・JA果樹部・みまもり員
-------------	---

主な取り組み	活動内容
児童福祉事業	新入学児童へえんぴつ・防犯ブザーの配布をしています。
各サロン活動の支援	ふれあい・いきいきサロン、自主活動サロン、子育てサロンの活動が充実し、住民同士の交流が深まるように支援をしています。
高齢者講座	地域の高齢者を対象に健康等に関する講座を開催しています。

給食サービス(年2回)

70歳以上のおひとり暮らし高齢者、90歳以上・寝たきり高齢者、ひとり親家庭等へ民生委員とみまもり員がお弁当やおはぎを配布しながら声掛けをし、見守りを行っています。おひとり暮らしの方が集まってお弁当を食べるなど孤立解消や交流にもなっています。



<地区社協が目指すもの>

福祉学習事業を推進し、誰もが幸せを感じ安心して暮らせるよう、ふれ合い支え合うまちづくりを目指します。

《特に充実させたい事業》

- ・健康、交通安全、防災など地域住民交流学习
- ・独居高齢者、在宅寝たきり高齢者訪問など高齢者見守り活動
- ・小学校を対象とした福祉体験学習と地域住民との交流

地区の状況	■地区民協	5名	■町内会・自治会・区長会等	6団体
	民生委員		■高齢クラブ	3クラブ
	主任児童委員		2名	■子ども会
	■まち協の設立	平成23年度	■自主防災組織	6組織

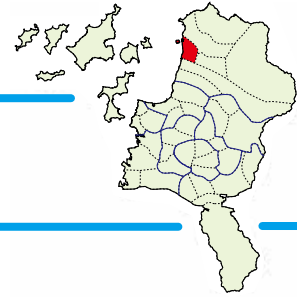
少子高齢化が進み独居高齢者を多く抱える地区ではありますが、地区内に保育園をはじめ教育施設・機関が多くあり日頃から子どもたちは、地域行事への参加や福祉施設への訪問など福祉教育の充実した地区でもあります。少子化の現状は変わりませんが、子どもたちとその家庭を温かく見守り地域で「健やかな成長」を育む土壌が備わったところです。こうした住民同士の思いやる心は、地域活動からも見受けられます。児童福祉事業では新入学児童へ鉛筆や防犯ブザーの配布、各種サロンでは高齢者対象のふれあい・いきいきサロンや子育てサロンの開催、給食サービスは、独居高齢者を対象にお弁当を配布し見守りを続けています。



ほうじょう

北条地区

人口: 7,725人(高齢化率33.0%)
世帯数: 3,789世帯

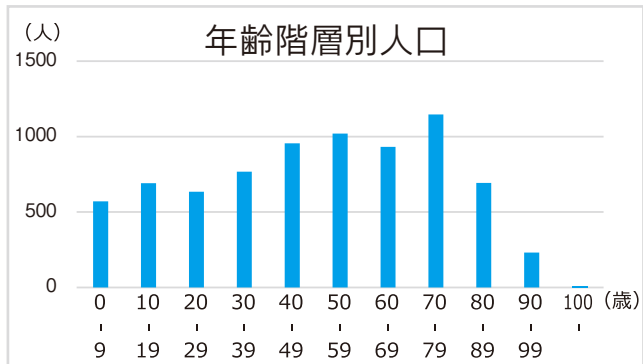


【地区の特色】

北条地区は、松山市の北部、旧北条市内の中心に位置し人口が密集しているが、少子高齢化が見られ人口減少傾向にある。町内会では住民の団結力が強く、伝統的行事には一致協力している。地区内には鹿島があり、北条の顔といえる周囲1.5kmの小島である。10月中旬には北条港で県無形文化財の櫓練り(かいねり)、明星川にみこしを投げ込む「みこしみそぎ」が有名である。



無形文化財「櫓練り」



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・住民のつながりが比較的強い ・医療関係の充実 ・支所や各種施設があり、日常生活で困ることはない ・JRの駅がある(特急が停まる) ・教育文化が充実 ・災害が少ない ・お魚が美味しい ・農作物のお裾分けがある ・三世代の交流ができています ・公民館やまちづくり協議会の活動が活発 ・道路も整備されており、松山・今治共に近いという利便性
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の増加 ・子どもが少ない ・特急(JR)が停まる便が減少 ・伊予鉄バスの本数が減少 ・空き家、空き店舗が増加している ・避難所が収容人数に伴わない広さ ・道幅が狭く、生活道路に緊急車両が入らない ・大きい遊び場(公園等)がない ・娯楽施設がない ・学生がバイトのできる場が少ない ・野良猫が多い
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の減少 ・人口の高齢化 ・世帯数の減少 ・高齢者世帯の増加 ・収入の増加が見られない ・就労場所が近くにない ・高齢者施設の定員数が少ない(将来いっぱい入所できないかも) ・産婦人科がない ・総合病院がない ・世帯数は増加している(学生等賃貸の単身者の増加)が、人口が減っている

北条地区社会福祉協議会

瀬戸の凧 心とらぐ風早の里 鹿島

<拠点> 松山市北条885-1 (おもてなしサロン明星)

TEL:089-992-5080

構成団体	地区民協・日赤奉仕団・区長会・小学校・公民館・PTA・高齢クラブ サロン代表・交通安全協会・ボランティアグループ
-------------	---

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。
高齢単身者給食サービス	年4回(6.9.11.2月)地区内の75歳以上の高齢単身者へお弁当を配布しています。
地区内行事への出店	地区内で開催される行事において、うどんやいなり寿司などを販売しながら地域住民との交流を深めています。

北条小学校児童と地域高齢者との交流

毎年、地域の高齢者と地区社協メンバーが北条小学校4年生とグラウンドゴルフ、1年生と昔から伝わる遊びとして、こま回しや竹馬、おはじき、あやとりなどを通して交流を図っています。

また、グラウンドゴルフのやり方や昔あそびを児童に教えることで、高齢者の活躍の場になっています。



<地区社協が目指すもの>

当北条地区社協事務所は、平成19年に基幹型サロンと一体となって開設され、令和4年で15周年を迎えました。誰もが安心して健やかに暮らしていける社会を実現するために地域住民とのつながりが大切でありながら、社協との接触が少ないためか若年層は特に認知度が低下していると思われます。地域団体、組織と協力し様々な活動等を通じて意見・情報交換、福祉課題に取り組み、身近な社協として認知度を高めたいと考えております。

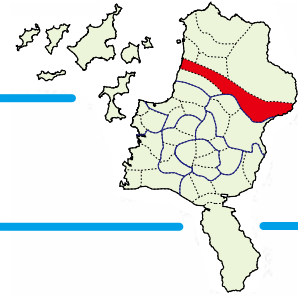
地区の状況	■地区民協	17名	■町内会・自治会・区長会等	28団体	
	民生委員		2名	■高齢クラブ	2クラブ
	主任児童委員			■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成22年度	■自主防災組織	24組織	

幼稚園から大学まで教育機関が整っており、その他スーパーやホームセンター、医療機関、福祉施設、松山市役所支所などがそろい日常生活に便利な地区です。したがって、若者層の単身世帯から子育て世帯、高齢者世帯まで幅広い世帯が居住しています。人口減少や住民の高齢化による空き家、空き店舗の増加といった課題を抱えていますが、最近では地区外から若い経営者が移住し店をオープンするケースや、大学生らを交えて祭りを開催するなど伝統文化の継承、小学生と地域高齢者との交流といった取り組みによって、若者が集う空間や機会が増えつつあります。こうした世代を超えて地域を盛り上げるために必要な地域への愛着と実行力を備えた地区といえるでしょう。



この 河野地区

人口: 5,293人(高齢化率35.2%)
世帯数: 2,444世帯



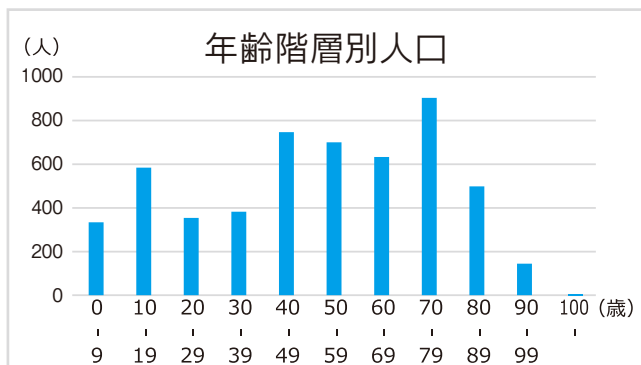
【地区の特色】

かつて風早郡の中心であった中世伊予の支配者河野氏発祥の地域。豊かな伝統文化と風土に恵まれ、住民は質実剛健の気質、公民館行事にも積極的で知られる。

地域の中で心のふれあいを大切に、潤いある明るく住みよいふるさと河野づくりをめざしている。



雄甲山・雌甲山



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の「文化の森」には図書館、児童センター、保健センター、市社協北条支所、包括支援センター北条、公園などがあり便利 ・公共の施設が充実している ・住民同士の横のつながりが強い ・環境がよい ・住みやすい ・病院・介護施設が充実している ・中江藤樹のゆかりの地 ・高浜虚子(俳人) ・仙波花叟(俳人) ・別府遺跡 ・自然が豊か(蛭) ・オオキトンボの生息地
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が高い ・高齢世帯の増加 ・役員の高齢化 ・後継者不足 ・空き家の増加 ・地区によって人口の差がある ・高齢クラブ(2団体)の担い手不足や加入者の減少により連合会の維持に苦慮している ・動物(猪・猿・鹿・ハクビシン)による作物被害
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体役員の高齢化、後継者不足 ・高齢者世帯の増加 ・空き家の増加 ・地域行事への参加者が限られている ・独身者が多く、今後独居高齢者になる恐れがある ・サロン活動の運営、継続が困難

河野地区社会福祉協議会

ささえ合う雄甲・雌甲の愛の里

構成団体	地区民協・区長会・日赤奉仕団・小学校・中学校・PTA・高齢クラブ・公民館 交通安全協会・議員・まち協・自主防災連合会・女性防火クラブ・消防団
-------------	---

主な取り組み	活動内容
河野ふれあい広場	毎月第1土曜日、昼食を食べたりおしゃべりをしたり、高齢者から小さな子どもまで世代を問わず交流できる場となっています。
ふれあい グラウンドゴルフ大会	60歳以上の住民を対象に毎年開催しています。毎回100名を超える参加があり、健康増進や住民の交流の場となっています。
福祉研修会	サロン参加者や福祉推進委員（※地区社協独自のネットワークづくりによる近隣のお世話役）を対象に、地域福祉活動の活性化に繋がるように毎年、講師を迎え開催しています。

給食サービス&敬老訪問～小学生の手紙を添えて～

70歳以上の独居高齢者、寝たきり高齢者宅へ民生委員と福祉推進委員（※）が年3回お弁当をお届けしています。

敬老の日には地元の海産物やお菓子、河野小学校児童の手紙を添えてお届けしています。毎年、児童へお礼の手紙をくださる方もおり、大変喜んでいただいています。



<地区社協が目指すもの>

少子高齢化が進み地域コミュニティの希薄化が心配されています。誰もが住み慣れた地域で生きがいを持ち、安心して暮らせる温もりのある地域社会を作り上げていくために地域住民との連携により地域福祉向上に貢献することが大切です。啓発活動として各種サロン活動の充実及び支援や福祉サービスとしての給食サービス（年3回）を継続していきます。また、世代を超えて交流できるふれあい広場の新設にとともに、ボランティア団体やまちづくり協議会等と連携することで災害時の緊急支援にも取り組んでいきたいと思ひます。

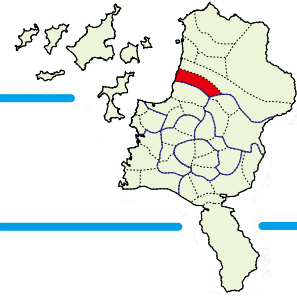
地区の状況	■地区民協	10名 2名	■町内会・自治会・区長会等	15団体
	民生委員		■高齢クラブ	2クラブ
	主任児童委員		■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成31年度	■自主防災組織	14組織

河野別府公園（北条文化の森公園）は、松山市社協北条支所をはじめ、児童センター、保健センター、地域包括支援センター、図書館、北条ふるさと館など文化施設やスポーツ施設が集まり、様々な暮らしの用途に合わせた余暇活動の充実や、保健・福祉相談といったワンストップでの対応を可能にしています。こうした環境をうまく活かしすべての住民を対象とした「河野ふれあい広場」や、「給食サービス&敬老訪問」などは、幅広い世代が交流できる機会と場を創造し、コミュニティ結束のさらなる強化につながるといえるでしょう。



あわ い
粟井地区

人 口:6,838人(高齢化率36.4%)
世帯数:3,102世帯

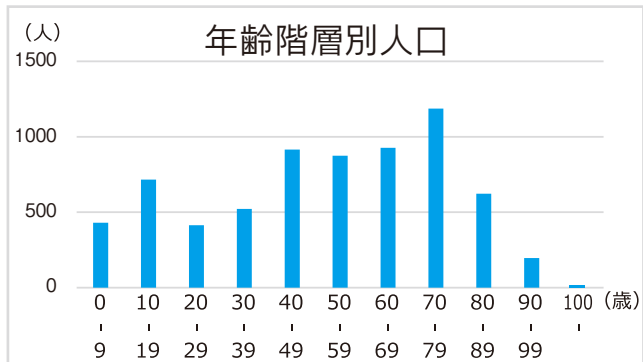


【地区の特色】

粟井地区は、農村地域と団地新興住宅地域の存在する地区であり、主に東部南部を中心に農業が営まれており、新興地域は市内への通勤者が多くを占めている。地区内には23地区の集会所があり、互いの連帯が図られた活動を通し地域づくりを推進している。



桜の山(宅並山)から眺める粟井



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援が充実 ・各種団体と地域の連携がうまくできている ・登下校の見守りがある(ボランティア) ・児童クラブと放課後子ども教室がある ・ふれあいマーケット&スマイルタウン(子ども主体のお店屋さん) ・グランドゴルフが盛ん ・ふれあいいきいきサロン、地域交流サロンの活動が活発 ・地域のボランティアで宅並山の管理をしている ・小中学生が挨拶をよくする ・公民館でのサークル活動や地区行事などの活動が盛ん ・災害が少ない ・障がい者の働く場所がある(かなさんどう) ・自然(山、海)が豊かで静かな地域
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時、避難時の人手に不安あり ・避難所が遠い ・新しい役員のなり手がいない ・地域活動に新しい若年層の参加が少ない ・自家用車がないと生活しにくい ・近くにスーパーやコンビニがない所が多い ・空き家が増加している
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部の高齢者世帯の増加 ・ゴミ出しや買物など、生活課題を抱えた世帯が増えている ・コロナ禍の自粛で、認知症の症状がある人が増加 ・高齢化により農業をやめる人が増え、荒れ地が増えている ・山間部では、土砂崩れなど災害時不安 ・地域行事等の参加者が固定化しているため、地域の絆が希薄になっている ・コロナ禍で中止になった行事等が元に戻るか不安

粟井地区社会福祉協議会

やすらぎと 愛の泉の 粟井郷

構成団体	地区民協・自治会・健全育成推進協議会・PTA・日赤奉仕団・自主防災連合会 小学校・中学校・公民館・愛護班連絡協議会・高齢クラブ・児童クラブ ふれあいクラブ・消防分団・ボランティア団体
-------------	---

主な取り組み	活動内容
男性料理教室	地区内の男性を対象に講師の指導で料理を作り、一緒に食事をしながら交流を図っています。
いきいき健康教室	毎年、地域の人を対象に健康や福祉に関する身近な問題を取り上げ、講演会等を開催しています。
自主活動グループ	囲碁将棋交流会やマーじゃん愛好会など、同じ趣味を持つ人が集い、楽しみながら交流を図っています。

卒業生との鯛めしづくりの会

毎年、粟井小学校6年生の児童と地域の人と一緒に卒業祝いの鯛めしづくりをしています。鯛めしは北条の郷土料理で身近な料理ですが、「自分達で作ると時間もかかり、火加減が難しい。家で手伝いたい。」などと家族や地域の人に感謝をしながら調理を通して交流を図っています。



<地区社協が目指すもの>

少子高齢化・核家族化が進み、高齢者だけの世帯や身近に親族のいない世帯が増加してきている中、粟井地区社協では実施事業の一つ一つはたとえささやかであったとしても、次のような願いを一杯込めて活動したいと考えています。

- ①諸事業を通じて人と人の出逢いを増やし、人と人の繋がりの輪が広がってほしいです。
- ②全ての人々が住み慣れたこの粟井地区で最期まで健康に幸せに過ごしてほしいです。

地区の状況	■地区民協	11名 2名	■町内会・自治会・区長会等	22団体
	民生委員		■高齢クラブ	1クラブ
	主任児童委員		■子ども会	0団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	21組織

山や海など豊かな自然を生かした新たな住宅団地が増えるとともに、子育て世代の住民が増加傾向にあります。その一方で、山間部の高齢者世帯が増加し空き家や休耕地が増えている課題を抱えています。しかしながら「卒業生との鯛めしづくりの会」や「男性料理教室」などは、食を通じた参加者同士の交流の活性化を目指すだけでなく、郷土料理を用いることで、地域の文化・風習を体感する経験を参加者で共有し親睦を深めています。また「いきいき健康教室」の開催は、特に独居高齢者らが参加することで社会的な繋がりを持ち、精神的健康、身体的健康、健康習慣の獲得にもつながり健康寿命の伸長にも反映されることでしょう。



地域カルテ ～地区ごとにみる地域特性～ 改訂版（令和6年度）

発行日 令和6年4月

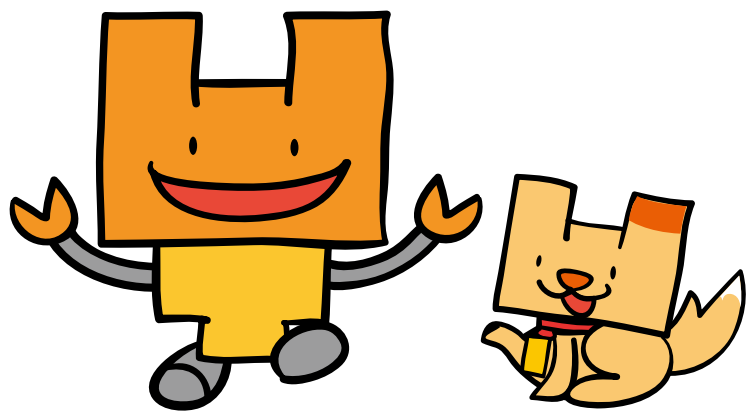
発行 社会福祉法人 松山市社会福祉協議会
松山市地区社会福祉協議会連絡会（通称：地区社連）

住所 〒790-0808 愛媛県松山市若草町8番地2
松山市総合福祉センター

電話 (089) 941-3828 Fax (089) 941-4408

Webアドレス <https://www.matsuyama-wel.jp/>

作成 地区社会福祉協議会 / 松山市社会福祉協議会



松山市社協イメージキャラクター
へごまんくん

へご太

はい!

社協

です。

社会福祉法人

松山市社会福祉協議会

■ 本所（松山市総合福祉センター内）

松山市若草町8番地2

電話:089-941-4122 Fax:089-941-4408

■ 北条支所（松山市北条社会福祉センター内）

松山市河野別府937-1番地

電話:089-993-1400 Fax:089-993-1419

■ 中島支所（松山市役所中島支所2階）

松山市中島大浦1626

電話:089-997-1822 Fax:089-997-1833

■ 余土支所（松山市農協余土ビル2階）

松山市余土東4丁目3-5

電話:089-971-6790 Fax:089-971-6780

■ 桑原支所

松山市樽味1丁目4-3

電話:089-941-4281 Fax:089-941-4283